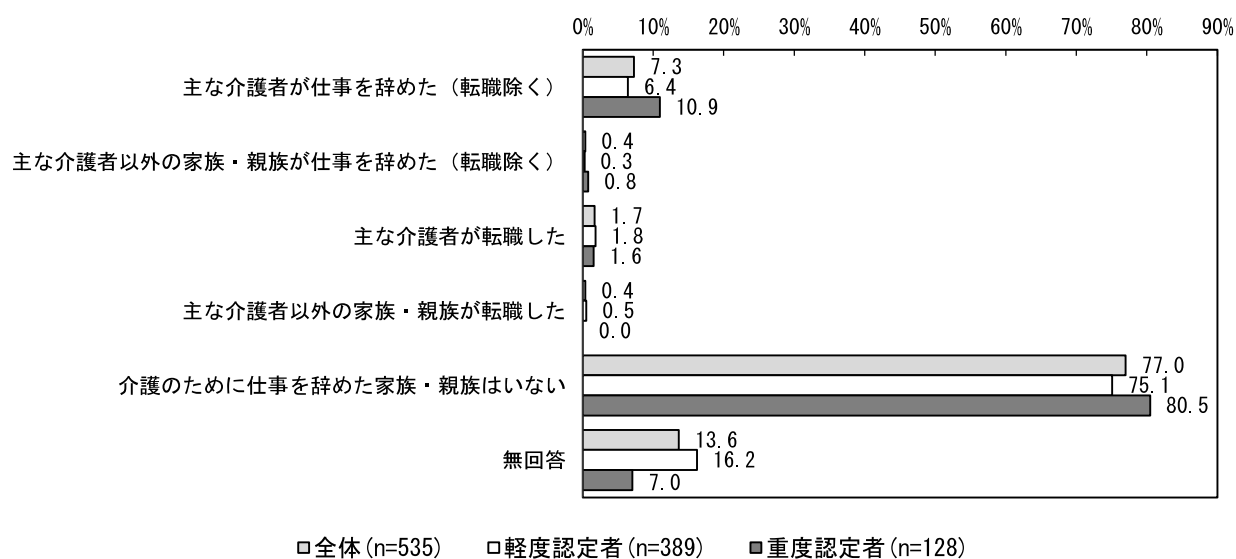


問7 ご家族やご親族の中で、ご本人（認定調査対象者）の介護を主な理由として、過去1年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）（複数選択可）

全体では、「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が77.0%と最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が7.3%となっています。

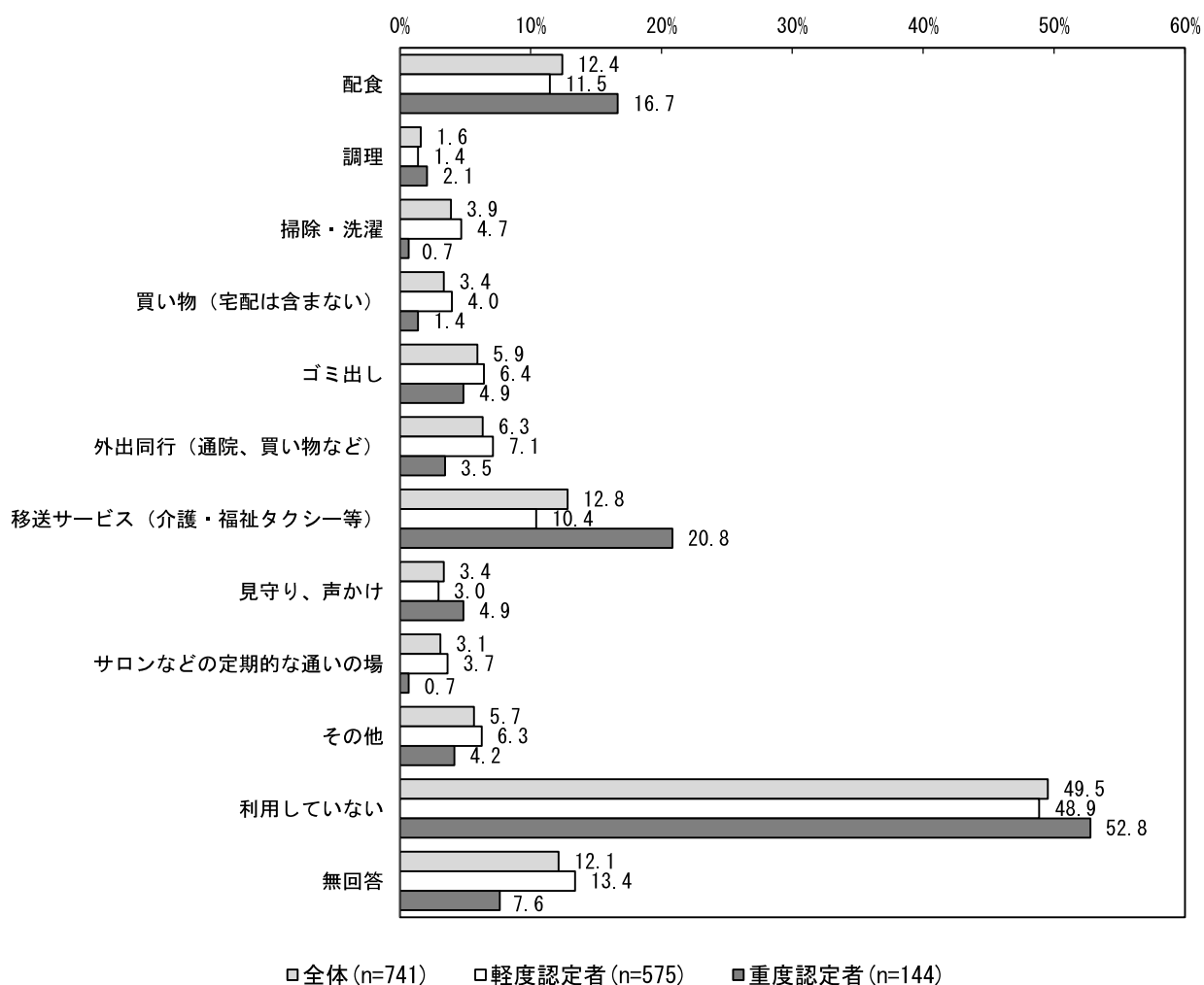
要介護度別でみると、軽度認定者・重度認定者ともに「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」がそれぞれ75.1%、80.5%と最も多く、次いで「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」がそれぞれ6.4%、10.9%となっています。



問8 現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください（複数選択可）

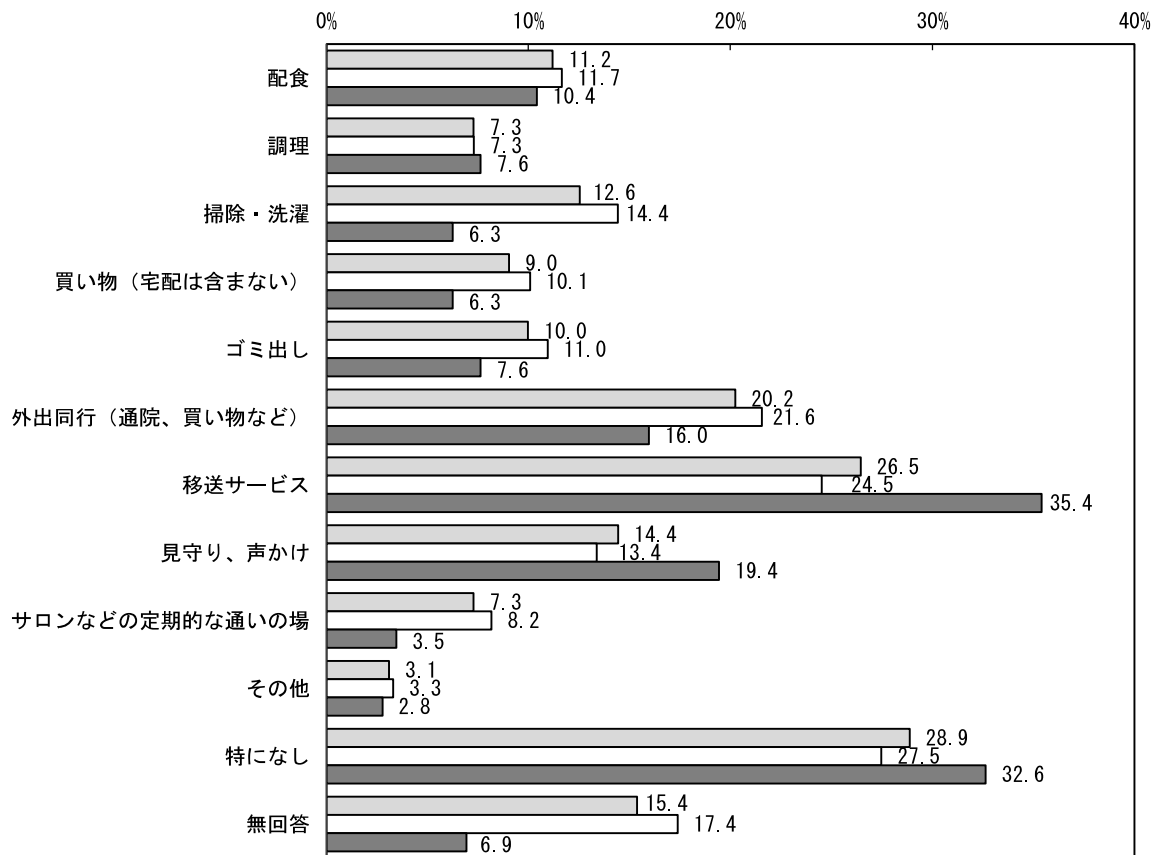
全体では、「利用していない」が49.5%と最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が12.8%となっています。

要介護度別で見ると、軽度認定者では、「利用していない」が48.9%と最も多く、次いで「配食」が11.5%となっており、重度認定者では、「利用していない」が52.8%と最も多く、次いで「移送サービス（介護・福祉タクシー等）」が20.8%となっています。



問9 今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください（複数選択可）

全体では、「特になし」が28.9%と最も多く、次いで「移送サービス」が26.5%となっています。
 要介護度別でみると、軽度認定者では、「特になし」が27.5%と最も多く、次いで「移送サービス」が24.5%となっており、重度認定者では、「移送サービス」が35.4%と最も多く、次いで「特になし」が32.6%となっています。



□全体 (n=741) □軽度認定者 (n=575) ■重度認定者 (n=144)

問10 現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください（1つを選択）

全体では、「入所・入居は検討していない」が71.5%、「入所・入居を検討している」が16.1%、「すでに入所・入居申し込みをしている」が4.5%となっています。

要介護度別で「入所・入居は検討していない」をみると、軽度認定者が72.7%、重度認定者が66.7%と、軽度認定者のほうが多くなっています。

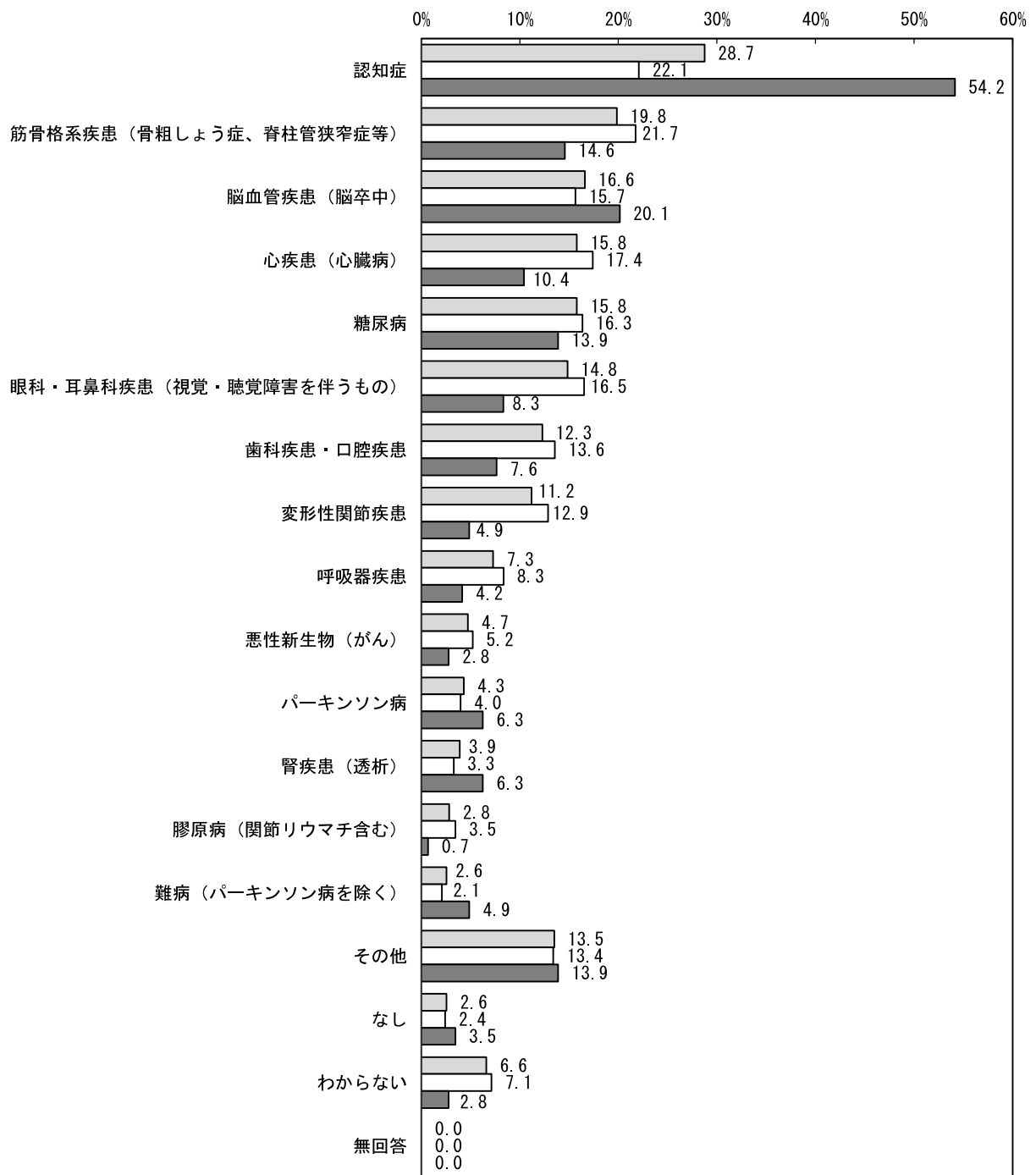


□入所・入居は検討していない □入所・入居を検討している ■すでに入所・入居申し込みをしている □無回答

問11 ご本人（認定調査対象者）が、現在抱えている傷病について、ご回答ください
（複数選択可）

全体では、「認知症」が28.7%と最も多く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が19.8%となっています。

要介護度別で見ると、軽度認定者では、「認知症」が22.1%と最も多く、次いで「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」が21.7%となっており、重度認定者では、「認知症」が54.2%と最も多く、次いで「脳血管疾患（脳卒中）」が20.1%となっています。

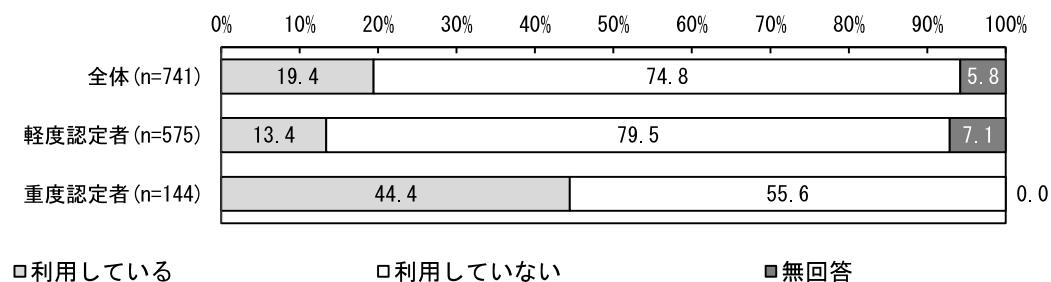


□全体 (n=741) □軽度認定者 (n=575) ■重度認定者 (n=144)

問 12 ご本人（認定調査対象者）は、現在、訪問診療を利用していますか（1つを選択）

全体では、「利用している」が19.4%、「利用していない」が74.8%となっています。

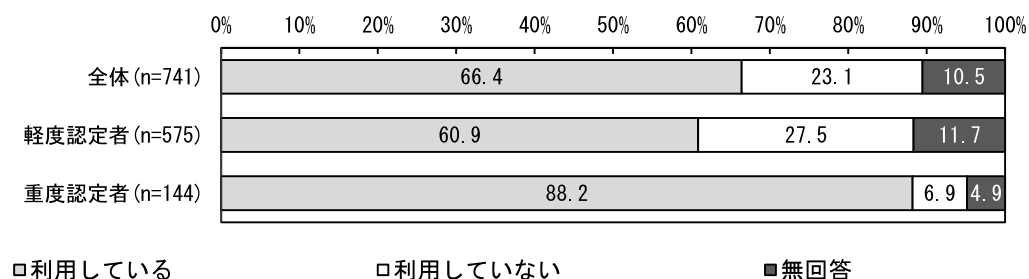
要介護度別で「利用している」をみると、軽度認定者が13.4%、重度認定者が44.4%と、重度認定者のほうが多くなっています。



問 13 現在、（住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の）介護保険サービスを利用していますか（1つを選択）

全体では、「利用している」が66.4%、「利用していない」が23.1%となっています。

要介護度別で「利用している」をみると、軽度認定者が60.9%、重度認定者が88.2%と、重度認定者のほうが多くなっています。

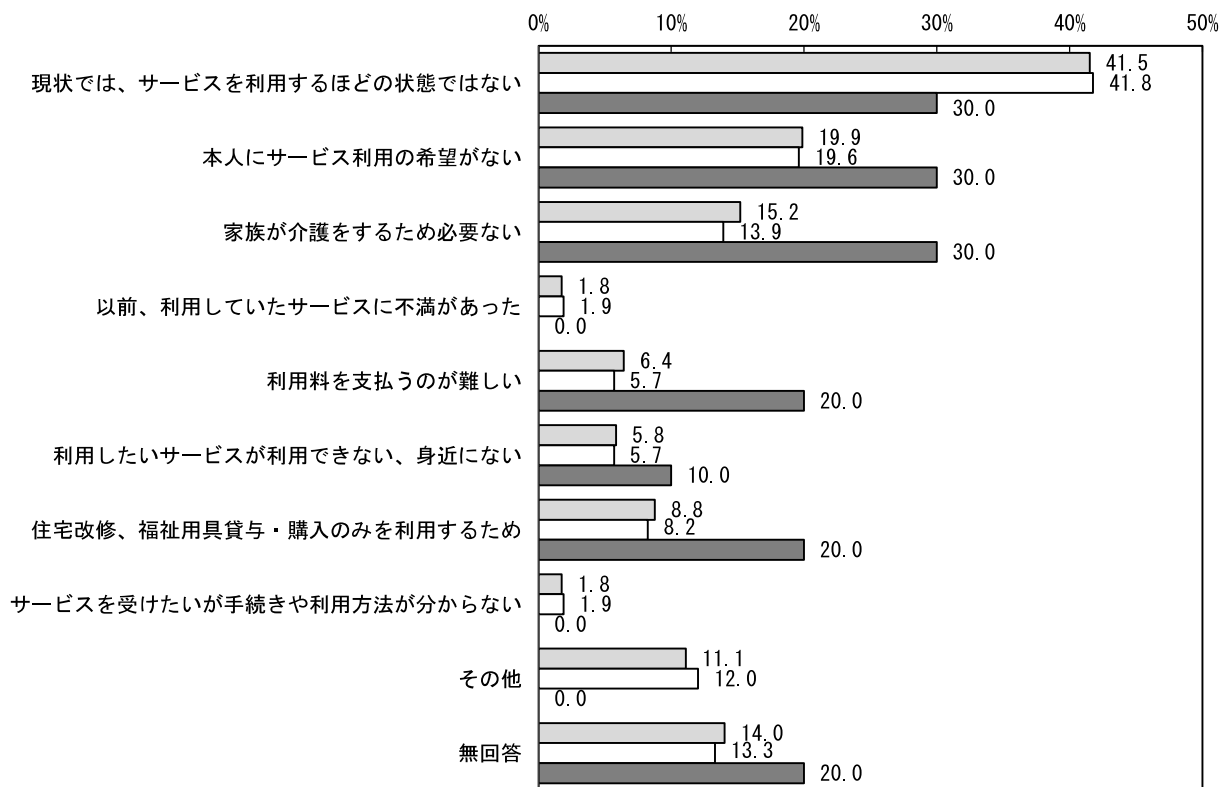


●問 13 で 「利用していない」を回答した場合は、問 14 もお答えください。

問 14 介護保険サービスを利用していない理由は何ですか（複数選択可）

全体では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 41.5%と最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 19.9%となっています。

要介護度別で見ると、軽度認定者では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」が 41.8%と最も多く、次いで「本人にサービス利用の希望がない」が 19.6%となっており、重度認定者では、「現状では、サービスを利用するほどの状態ではない」、「本人にサービス利用の希望がない」及び「家族が介護をするため必要ない」がそれぞれ 30.0%と最も多くなっています。



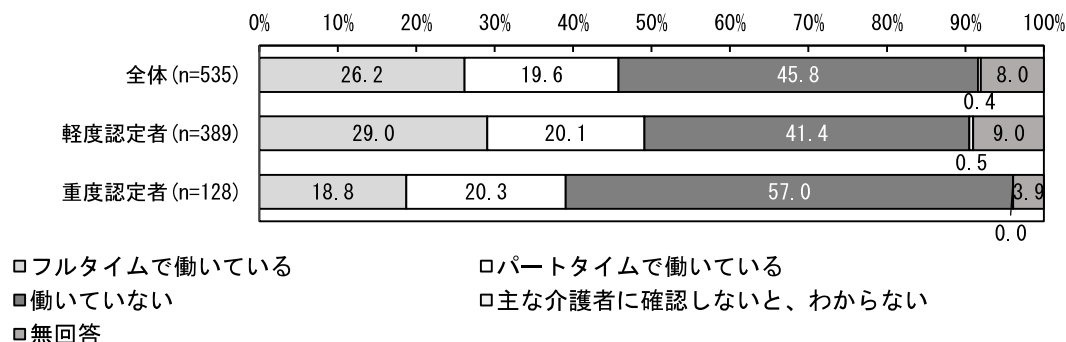
□全体 (n=171) □軽度認定者 (n=158) ■重度認定者 (n=10)

【B票】対象者：介護者（介護をしている家族、親族）

問1 主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください（1つを選択）

全体では、『働いている』（「フルタイムで働いている」と「パートタイムで働いている」の合計）が45.8%、「働いていない」が45.8%となっています。

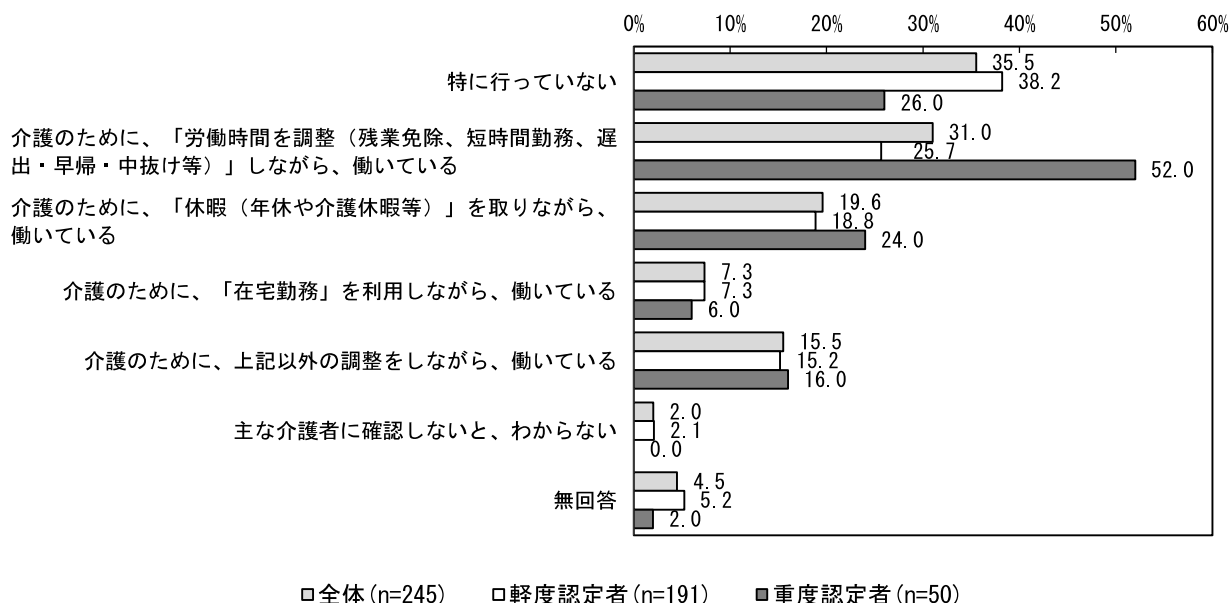
要介護度別で『働いている』をみると、軽度認定者が49.1%、重度認定者が39.1%と、軽度認定者のほうが多くなっています。



問2 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等を行っていますか（複数選択可）

全体では、「特に行っていない」が35.5%と最も多く、次いで“介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている”が31.0%となっています。

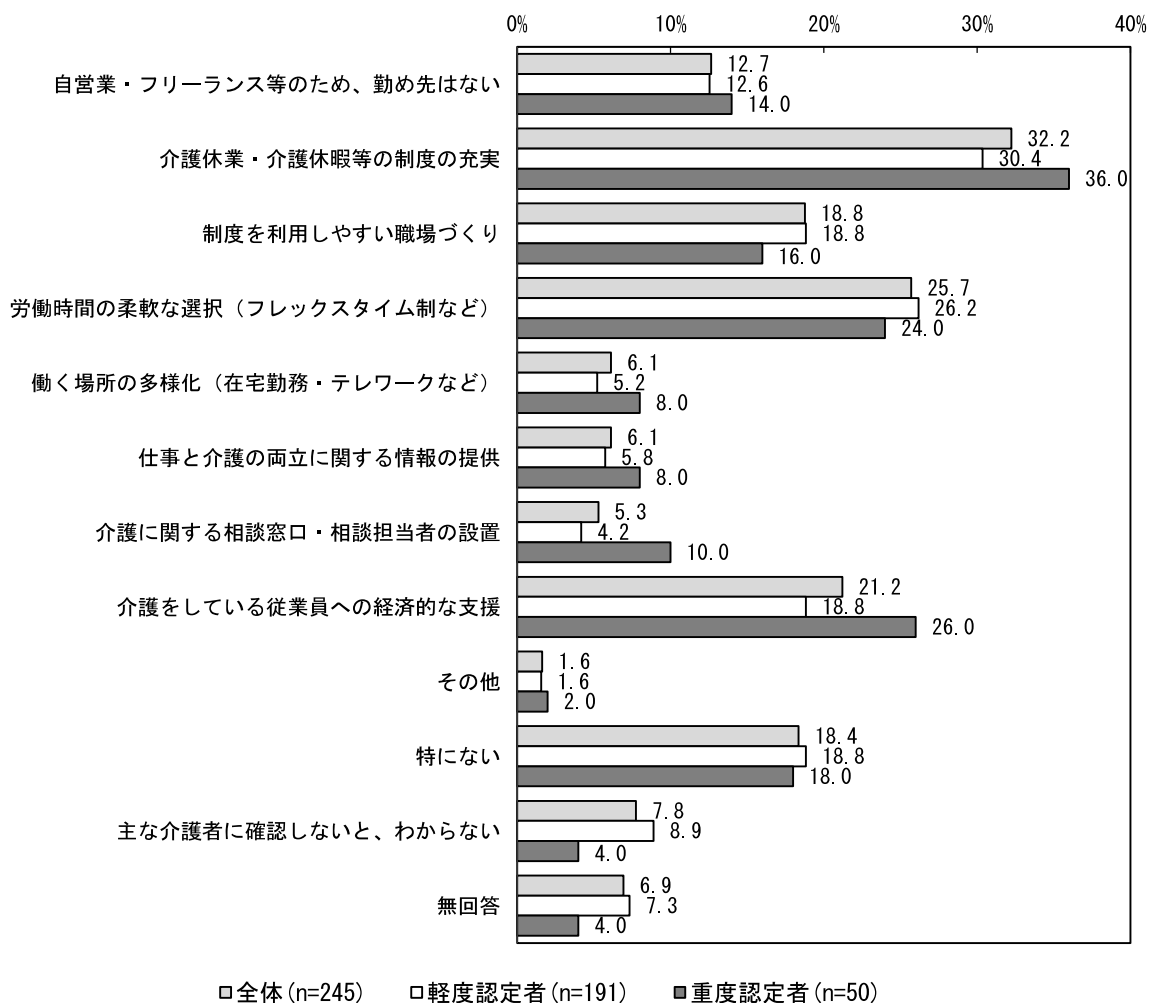
要介護度別でみると、軽度認定者では、「特に行っていない」が38.2%と最も多く、次いで“介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている”が25.7%となっており、重度認定者では、“介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている”が52.0%と最も多く、次いで「特に行っていない」が26.0%となっています。



問3 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか（3つまで選択可）

全体では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が32.2%と最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が25.7%となっています。

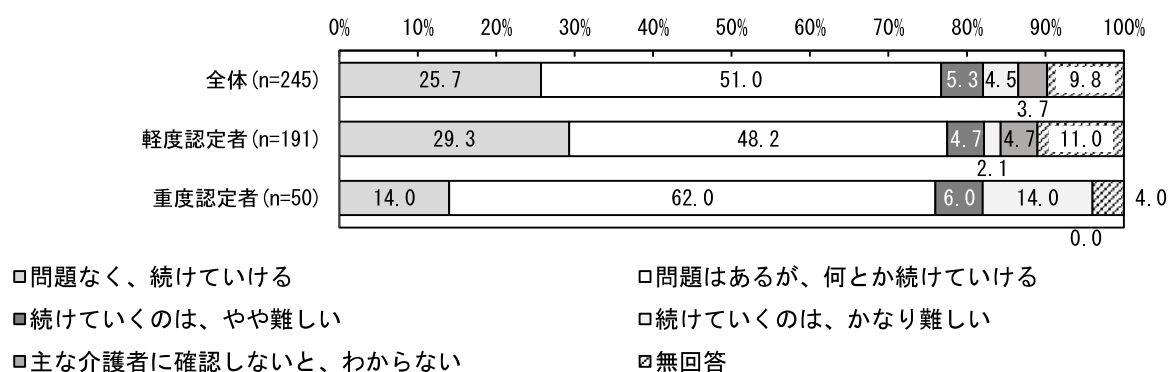
要介護度別で見ると、軽度認定者では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が30.4%と最も多く、次いで「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が26.2%となっており、重度認定者では、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が36.0%と最も多く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が26.0%となっています。



問4 問1で「フルタイムで働いている」「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか（1つを選択）

全体では、『続けていける』（「問題なく、続けていける」と「問題はあるが、何とか続けていける」の合計）が76.7%、『難しい』（「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」の合計）が9.8%となっています。

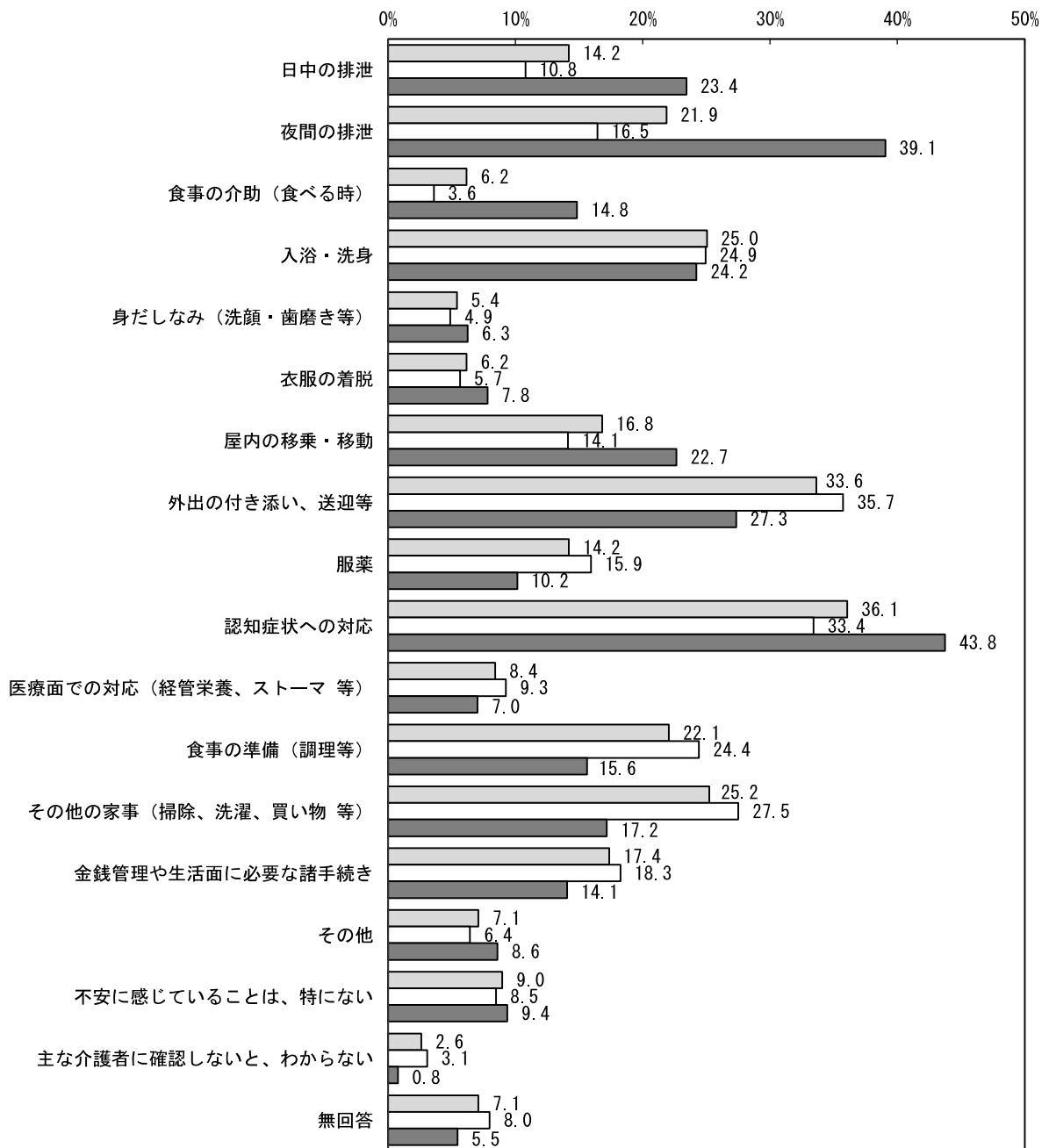
要介護度別で『続けていける』をみると、軽度認定者が77.5%、重度認定者が76.0%と、軽度認定者のほうが多くなっています。



問5 現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安を感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）（3つまで選択可）

全体では、「認知症状への対応」が36.1%と最も多く、次いで「外出の付き添い、送迎等」が33.6%となっています。

要介護度別で見ると、軽度認定者では、「外出の付き添い、送迎等」が35.7%と最も多く、次いで「認知症状への対応」が33.4%となっており、重度認定者では、「認知症状への対応」が43.8%と最も多く、次いで「夜間の排泄」が39.1%となっています。



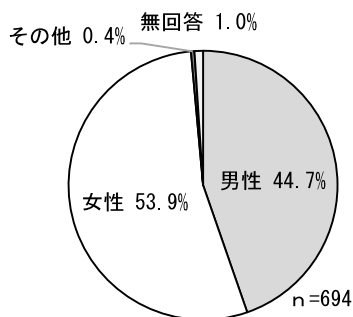
□全体 (n=535) □軽度認定者 (n=389) ■重度認定者 (n=128)

3) 介護保険第2号被保険者向けアンケート調査結果

【問1 あなたについて】

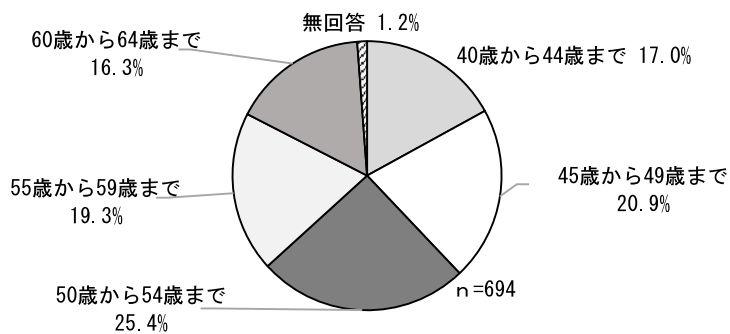
(1) あなたの性別をお答えください。(〇は1つ)

全体では、「男性」が44.7%、「女性」が53.9%となっています。



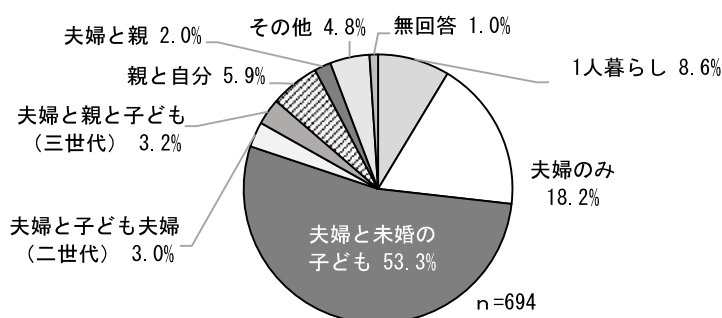
(2) 令和4年10月1日現在のあなたの年齢をお答えください。(〇は1つ) (日付は、調査対象者の抽出時の基準日)

全体では、「50歳から54歳まで」が25.4%と最も多く、次いで「45歳から49歳まで」が20.9%となっています。



(3) 家族構成についてお答えください。(〇は1つ)

全体では、「夫婦と未婚の子ども」が53.3%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が18.2%となっています。



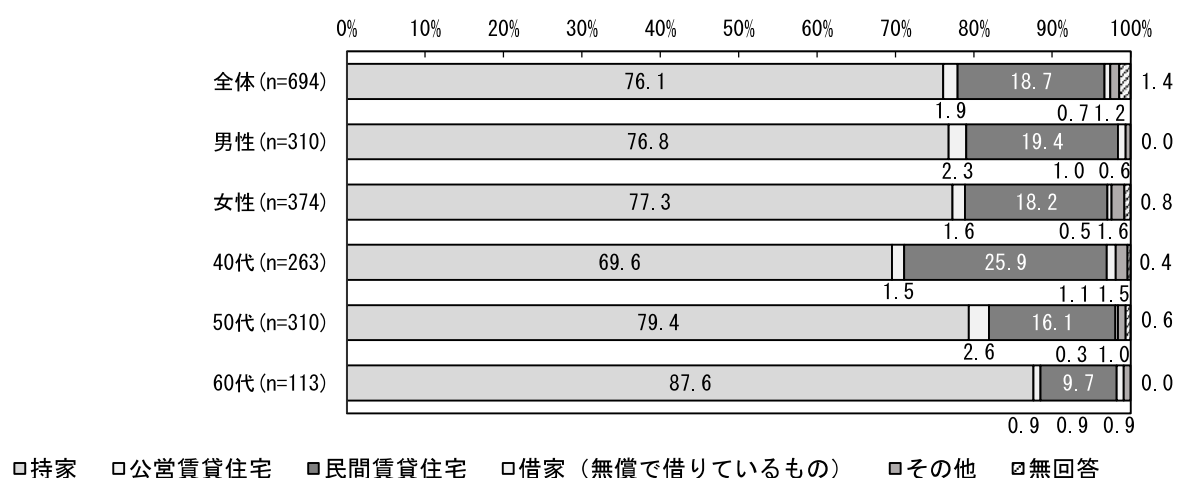
【問2 あなたの生活状況について】

(1) お住まいは次のうちどれですか。(〇は1つ)

全体では、「持家」が76.1%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅」が18.7%となっています。

性別で見ると、男女ともに「持家」がそれぞれ76.8%、77.3%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅」がそれぞれ19.4%、18.2%となっています。

年代別で見ると、40代、50代、60代ともに「持家」がそれぞれ69.6%、79.4%、87.6%と最も多く、次いで「民間賃貸住宅」がそれぞれ25.9%、16.1%、9.7%となっています。



(2) お仕事は次のうちどれですか。(〇は1つ)

全体では、「正規社員」が48.6%と最も多く、次いで「非正規社員」が22.3%となっています。

性別で見ると、男性では、「正規社員」が76.8%と最も多く、次いで「自営業」が7.4%となっており、女性では、「非正規社員」が36.1%と最も多く、次いで「正規社員」が25.7%となっています。

年代別で見ると、40代及び50代では、「正規社員」がそれぞれ57.8%、48.4%と最も多く、次いで「非正規社員」が16.7%、23.5%となっており、60代では、「非正規社員」が32.7%と最も多く、次いで「正規社員」が31.0%となっています。

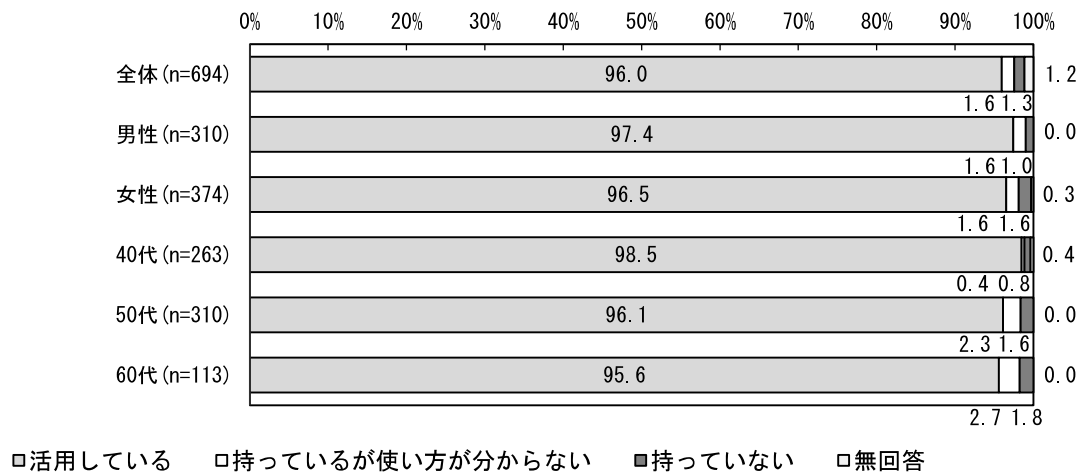
単位：%

	合計 (人)	正規社員	非正規社員	自営業	家事専業	休職中	無職	その他
全体	694	48.6	22.3	5.8	9.7	0.7	5.9	5.9
男性	310	76.8	6.5	7.4	0.3	0.3	4.5	4.2
女性	374	25.7	36.1	4.5	17.6	1.1	7.2	7.5
40代	263	57.8	16.7	4.9	9.9	1.9	3.0	5.7
50代	310	48.4	23.5	6.5	8.7	0.0	6.5	6.1
60代	113	31.0	32.7	6.2	12.4	0.0	11.5	6.2

(3) スマートフォン、パソコンなどを日常的に活用していますか。(〇は1つ)

全体では、「活用している」が96.0%、「持っているが使い方が分からない」が1.6%、「持っていない」が1.3%となっています。

性別・年代別で「活用している」をみると、性別では、男性が97.4%、女性が96.5%と、男性のほうが多く、年代別では、40代が98.5%、50代が96.1%、60代が95.6%と、40代が多くなっています。

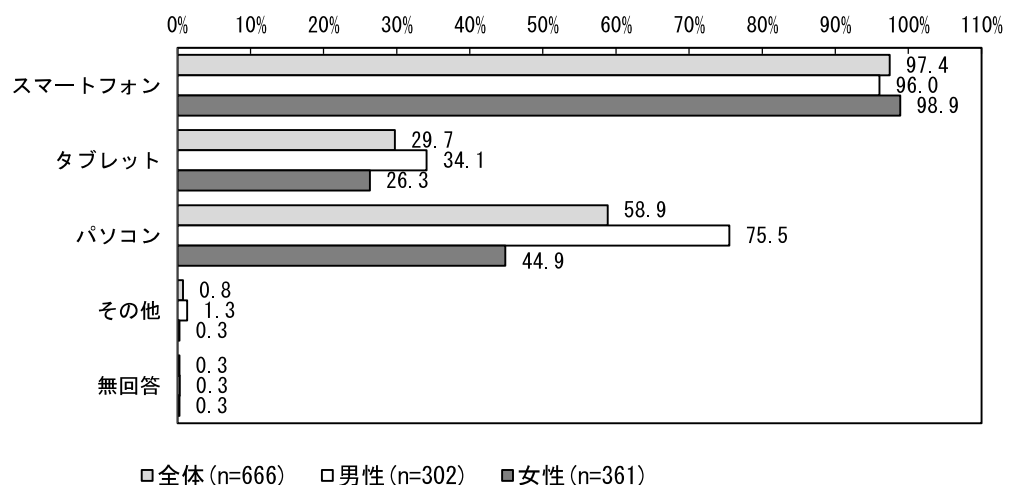


《(3)において「活用している」と回答した方のみ》

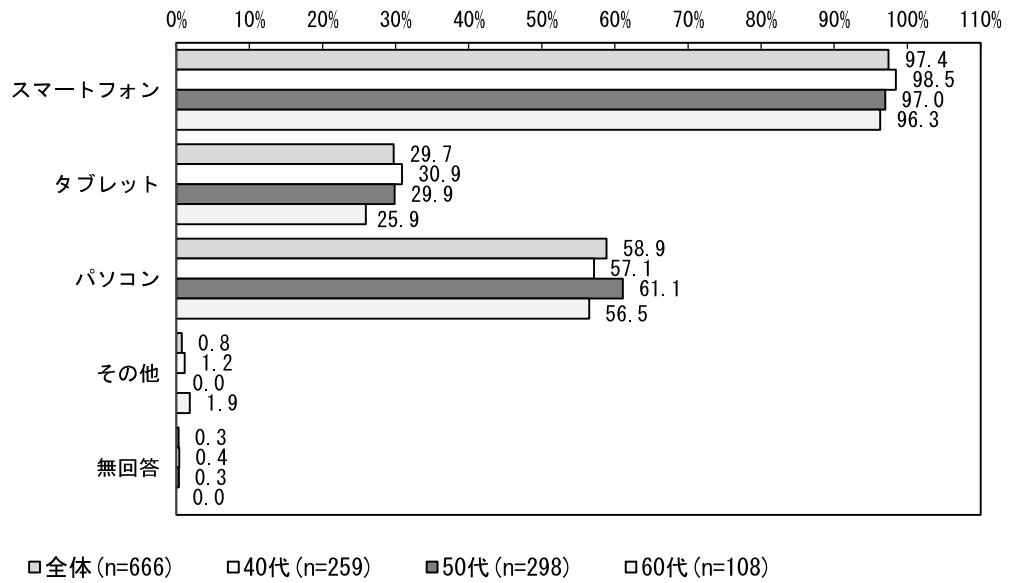
どのような情報端末を日常的に活用していますか。(いくつでも)

全体では、「スマートフォン」が97.4%と最も多く、次いで「パソコン」が58.9%となっています。

性別でみると、男女ともに「スマートフォン」がそれぞれ96.0%、98.9%と最も多く、次いで「パソコン」がそれぞれ75.5%、44.9%となっています。



年代別で見ると、40代、50代、60代ともに「スマートフォン」がそれぞれ98.5%、97.0%、96.3%と最も多く、次いで「パソコン」がそれぞれ57.1%、61.1%、56.5%となっています。

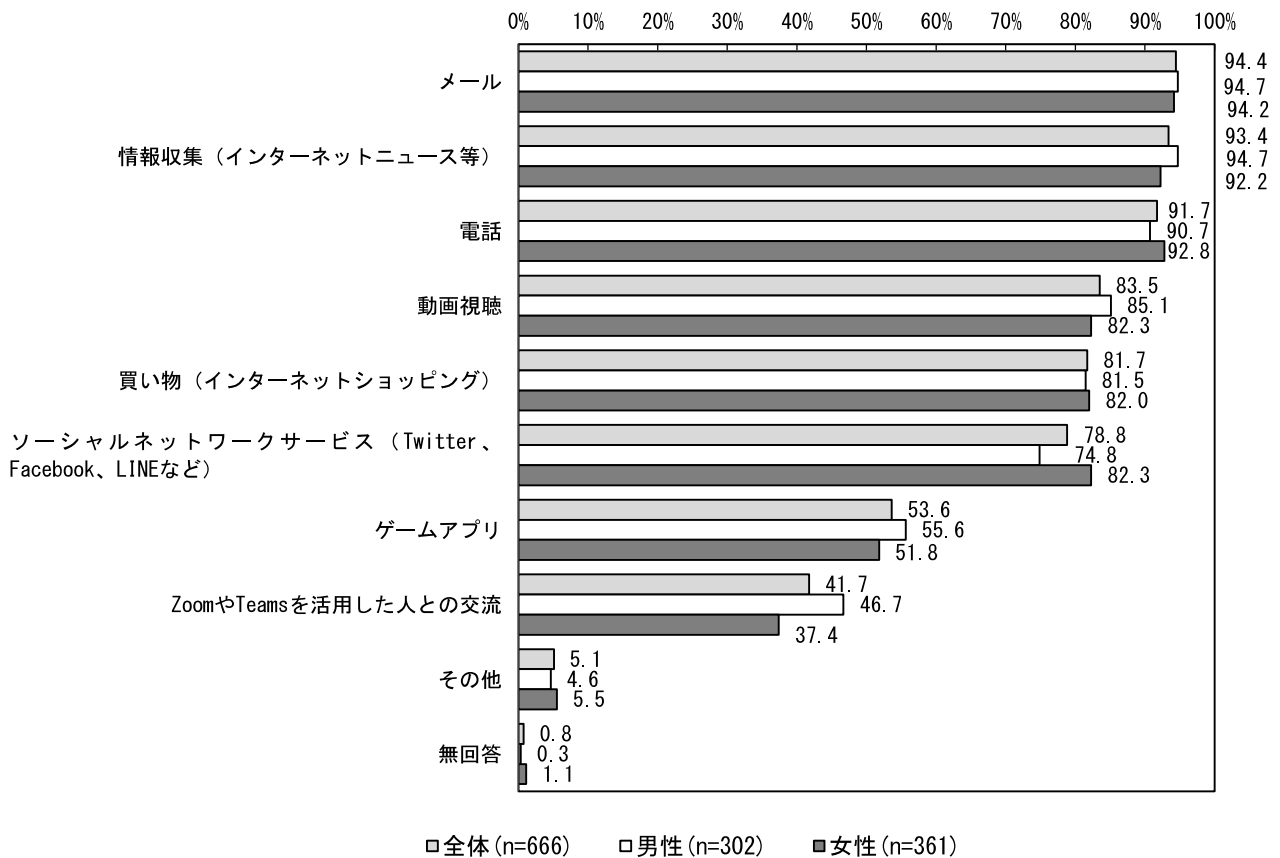


《（３）において「活用している」と回答した方のみ》

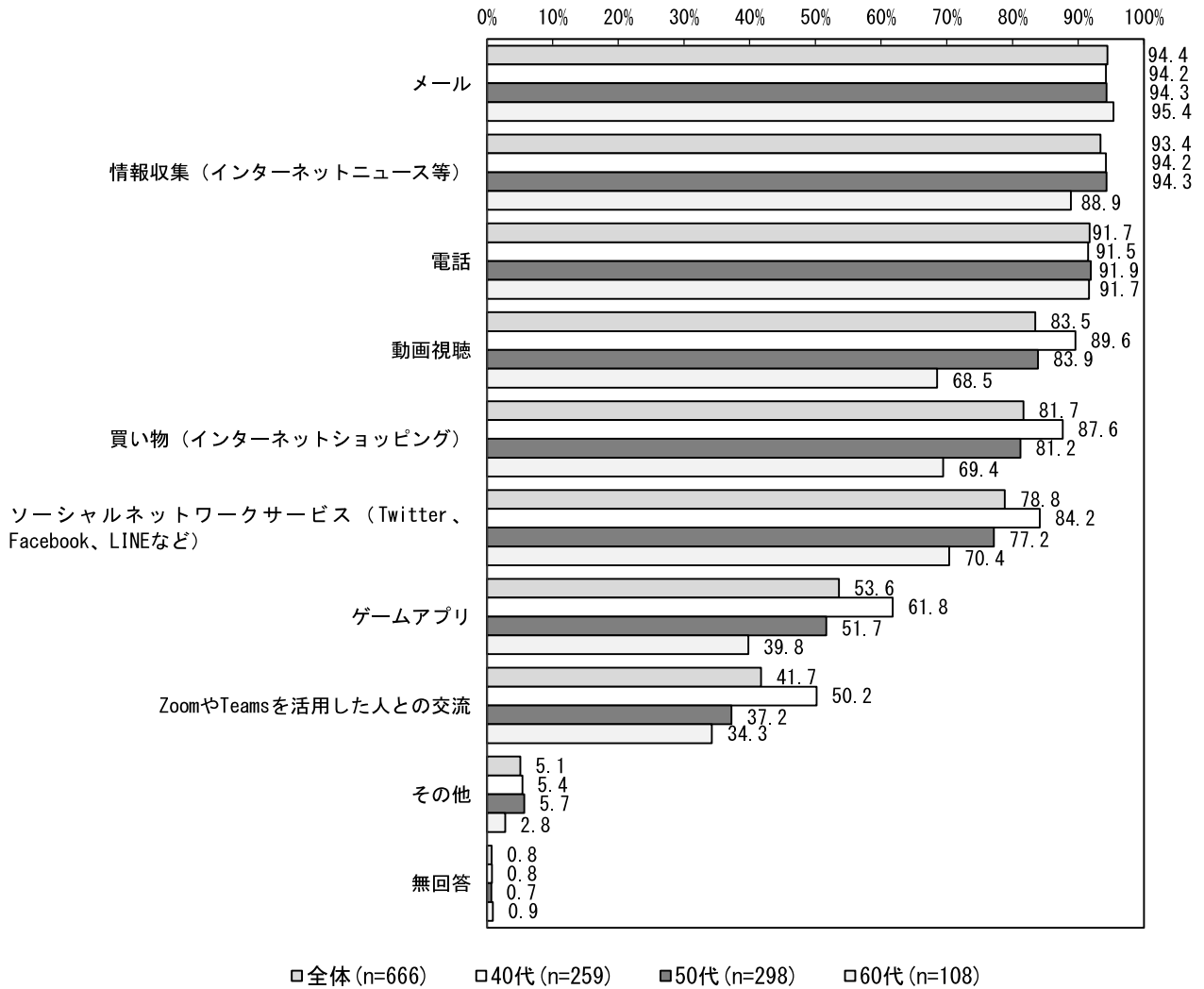
どのようなことができますか。（いくつでも）

全体では、「メール」が94.4%と最も多く、次いで「情報収集（インターネットニュース等）」が93.4%となっています。

性別で見ると、男性では、「メール」及び「情報収集」がそれぞれ94.7%と最も多く、次いで「電話」が90.7%となっており、女性では、「メール」が94.2%と最も多く、次いで「電話」が92.8%となっています。



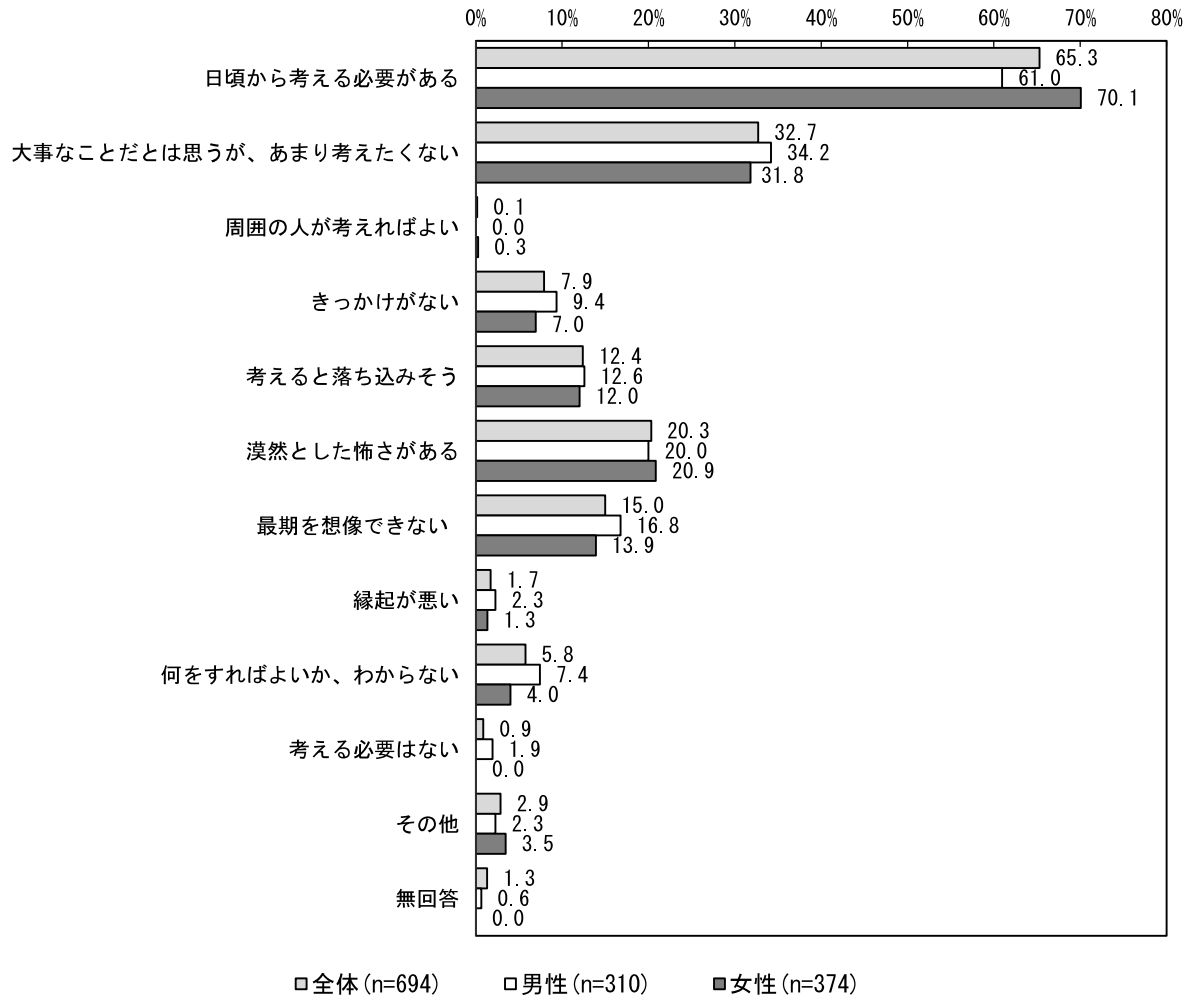
年代別でみると、40代では、「メール」及び「情報収集（インターネットニュース等）」が94.2%と最も多く、次いで「電話」が91.5%となっており、50代では、「メール」及び「情報収集（インターネットニュース等）」がそれぞれ94.3%と最も多く、次いで「電話」が91.9%となっています。また、60代では、「メール」が95.4%と最も多く、次いで「電話」が91.7%となっています。



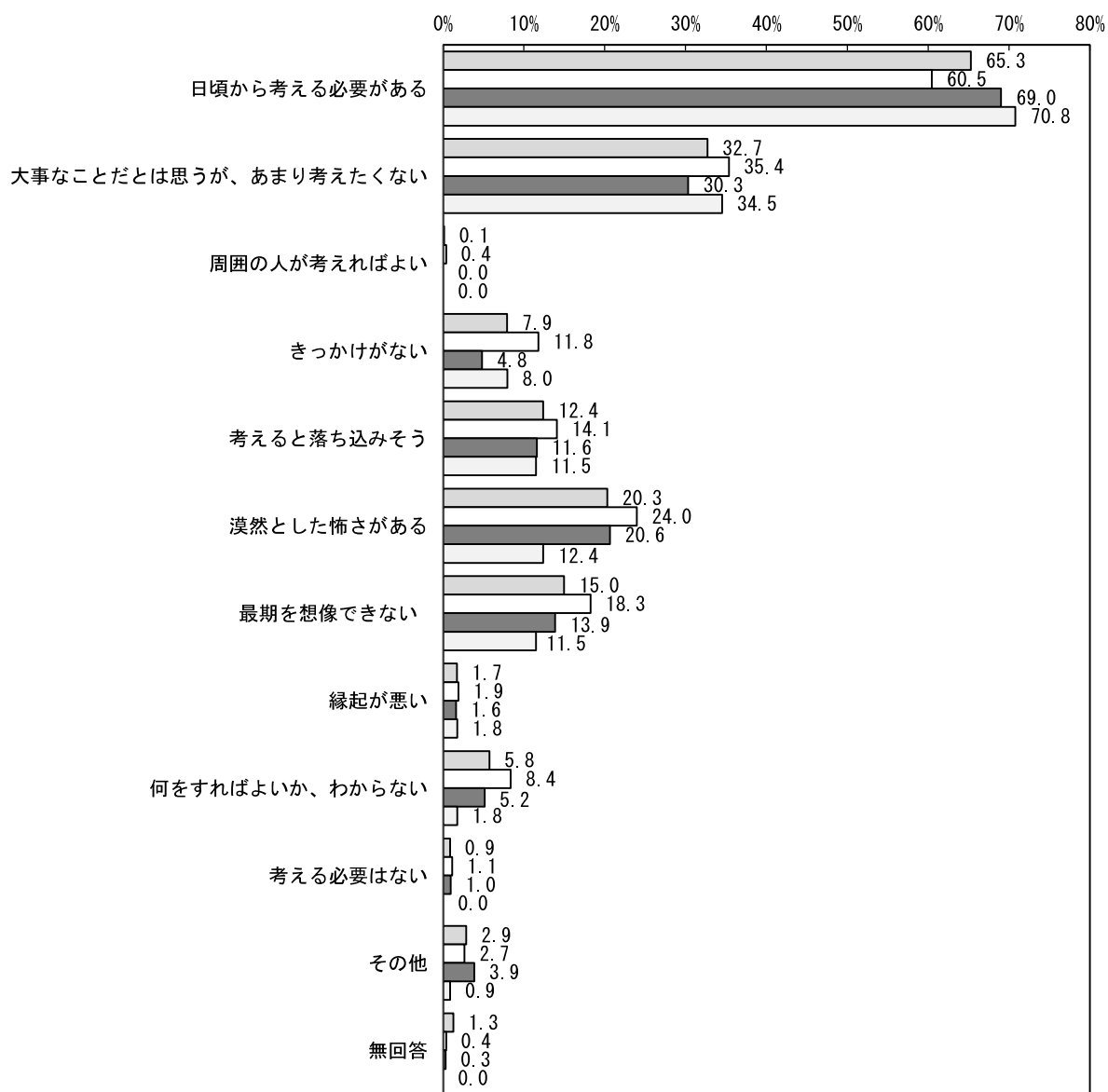
(4) あなたが、ご自身の人生の最期を早い段階から考えることについて、どのように思いますか。(いくつでも)

全体では、「日頃から考える必要がある」が 65.3%と最も多く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」が 32.7%となっています。

性別でみると、男女ともに「日頃から考える必要がある」がそれぞれ 61.0%、70.1%と最も多く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」がそれぞれ 34.2%、31.8%となっています。



年代別でみると、40代、50代、60代ともに「日頃から考える必要がある」がそれぞれ60.5%、69.0%、70.8%と最も多く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」がそれぞれ35.4%、30.3%、34.5%となっています。

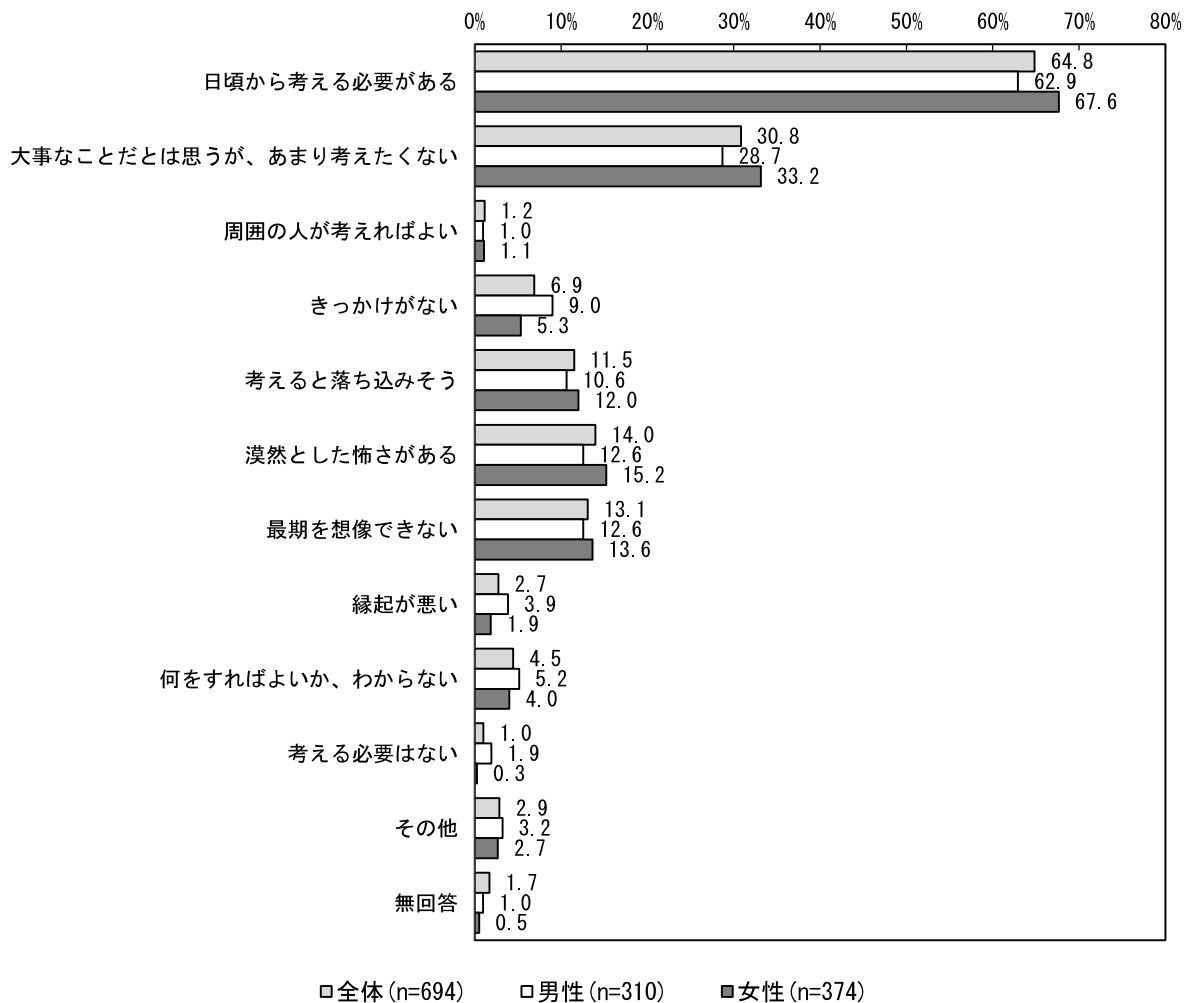


□全体 (n=694) □40代 (n=263) ■50代 (n=310) □60代 (n=113)

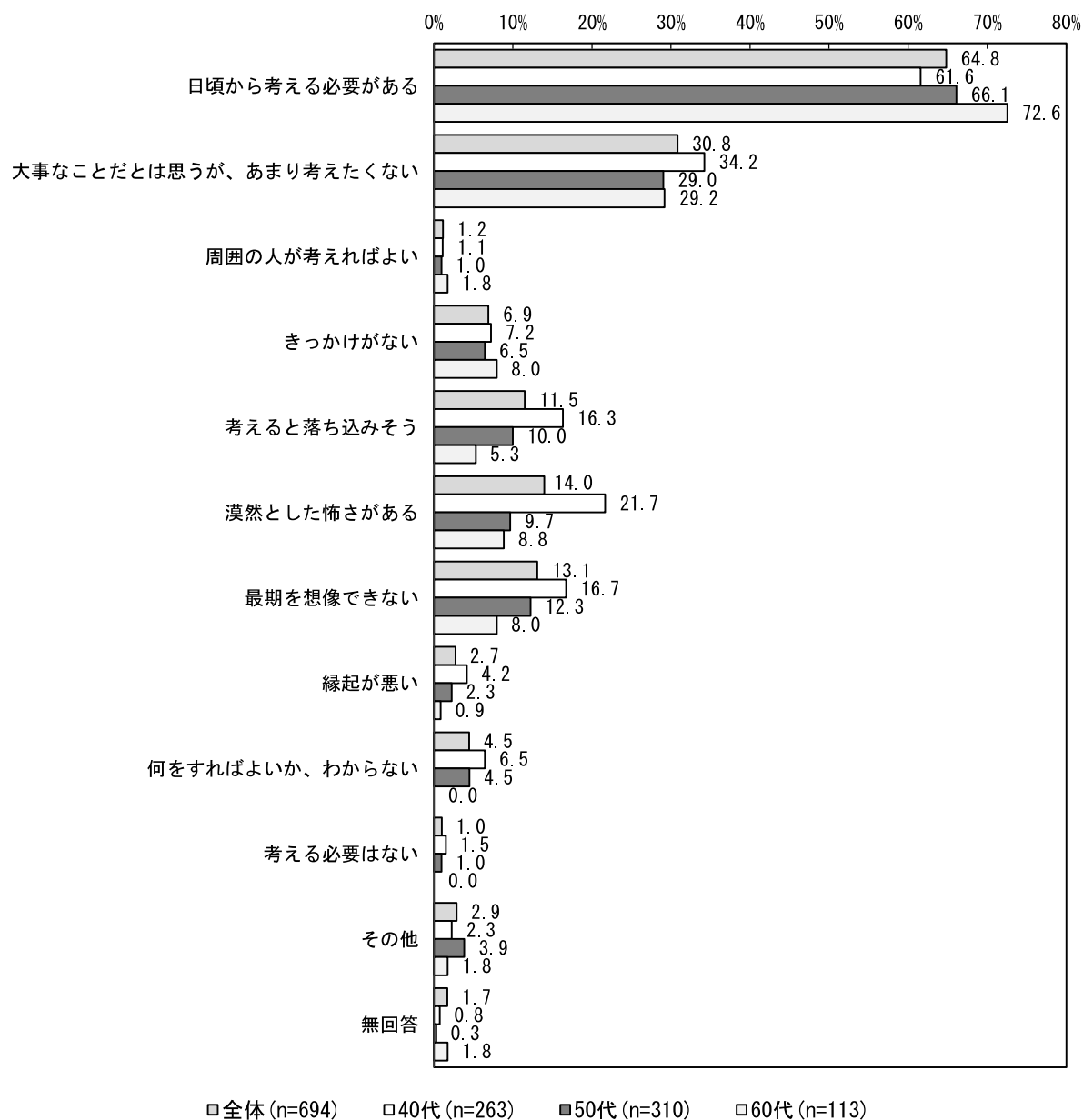
(5) 家族が、それぞれの人生の最期を早い段階から考えることについて、どのように思いますか。(いくつかでも)

全体では、「日頃から考える必要がある」が 64.8%と最も多く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」が 30.8%となっています。

性別でみると、男女ともに「日頃から考える必要がある」がそれぞれ 62.9%、67.6%と最も多く、次いで「大事なことだとは思いますが、あまり考えたくない」がそれぞれ 28.7%、33.2%となっています。



年代別でみると、40代、50代、60代ともに「日頃から考える必要がある」がそれぞれ61.6%、66.1%、72.6%と最も多く、次いで「大事なことだとは思うが、あまり考えたくない」がそれぞれ34.2%、29.0%、29.2%となっています。



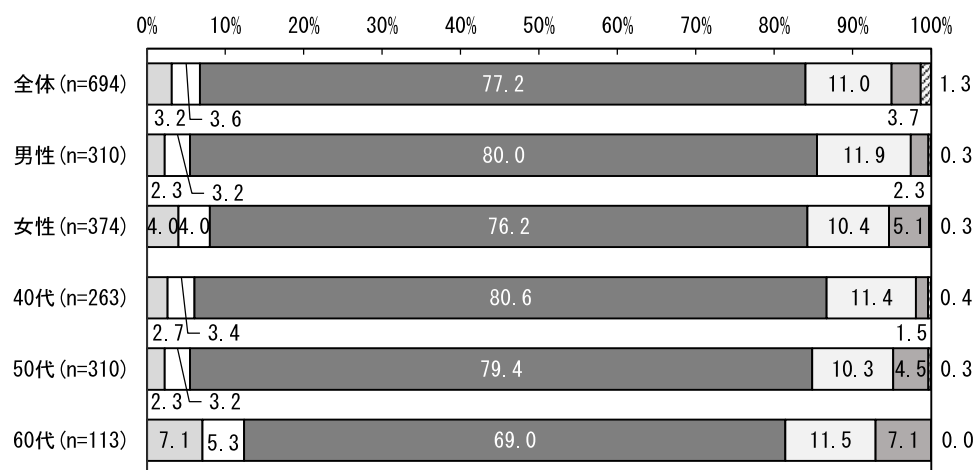
【問3 地域の交流について】

(1) 生活支援コーディネーターに相談したことはありますか。(○は1つ)

※市では、地域のつながりづくりや既存の住民主体の活動の支援、支え合いの仕組づくりや支え合い活動に参加する人を増やしていく取組、住民ニーズと取組をマッチングするために、市や地域包括支援センターに生活支援コーディネーター(地域支え合い推進員)を設置しています。

全体では、『相談した・してみたい』(「相談したことがある」と「名前を聞いたことがあり、相談してみたい」の合計)が6.8%、「聞いたことはない」が77.2%、「名前を聞いたことはあるが、相談したいと思わない」が11.0%となっています。

性別・年代別で『相談した・してみたい』をみると、性別では、男性が5.5%、女性が8.0%と、女性のほうが多く、年代別では、40代が6.1%、50代が5.5%、60代が12.4%と、60代が多くなっています。



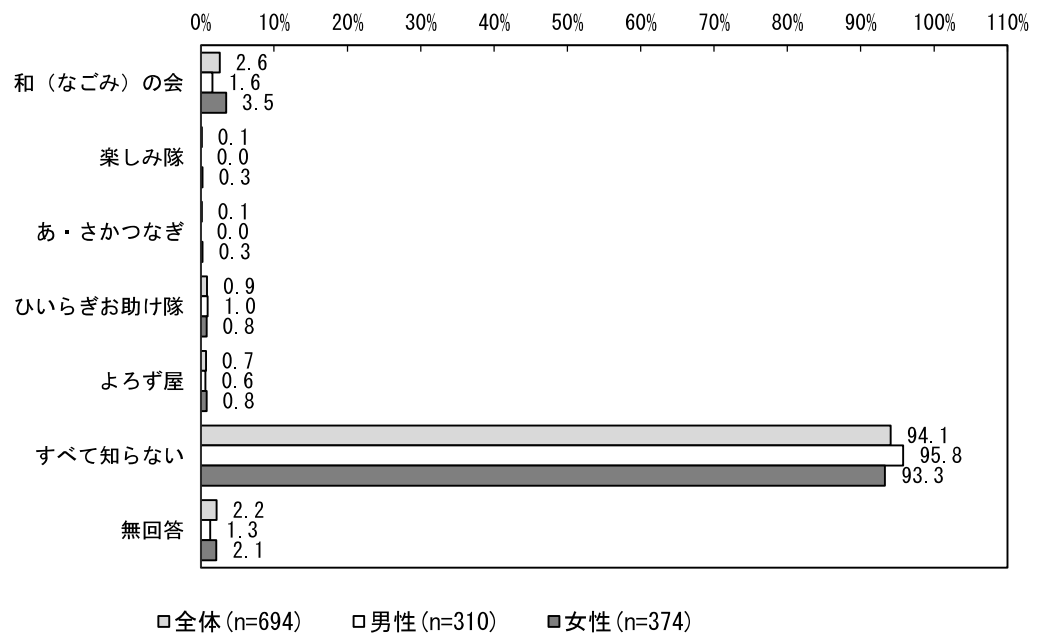
- 相談したことがある
- 名前を聞いたことがあり、相談してみたい
- 聞いたことはない
- 名前を聞いたことはあるが、相談したいと思わない
- その他
- 無回答

(2) あなたが知っている協議体は何ですか。(いくつでも)

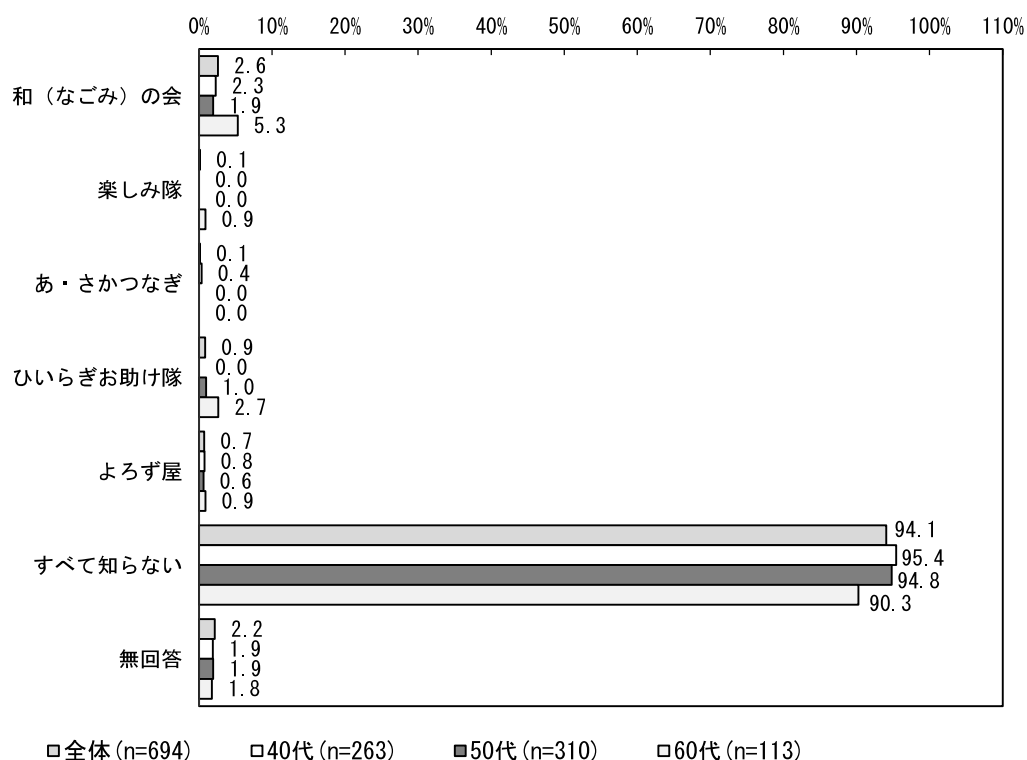
※現在、市では介護予防のために地域のつながりや助け合い活動を普及する場として、協議体(住民同士の話し合いの場)を開催しています。

全体では、「すべて知らない」が94.1%と最も多く、次いで「和(なごみ)の会」が2.6%となっています。

性別でみると、男女ともに「すべて知らない」がそれぞれ95.8%、93.3%と最も多く、次いで「和(なごみ)の会」がそれぞれ1.6%、3.5%となっています。



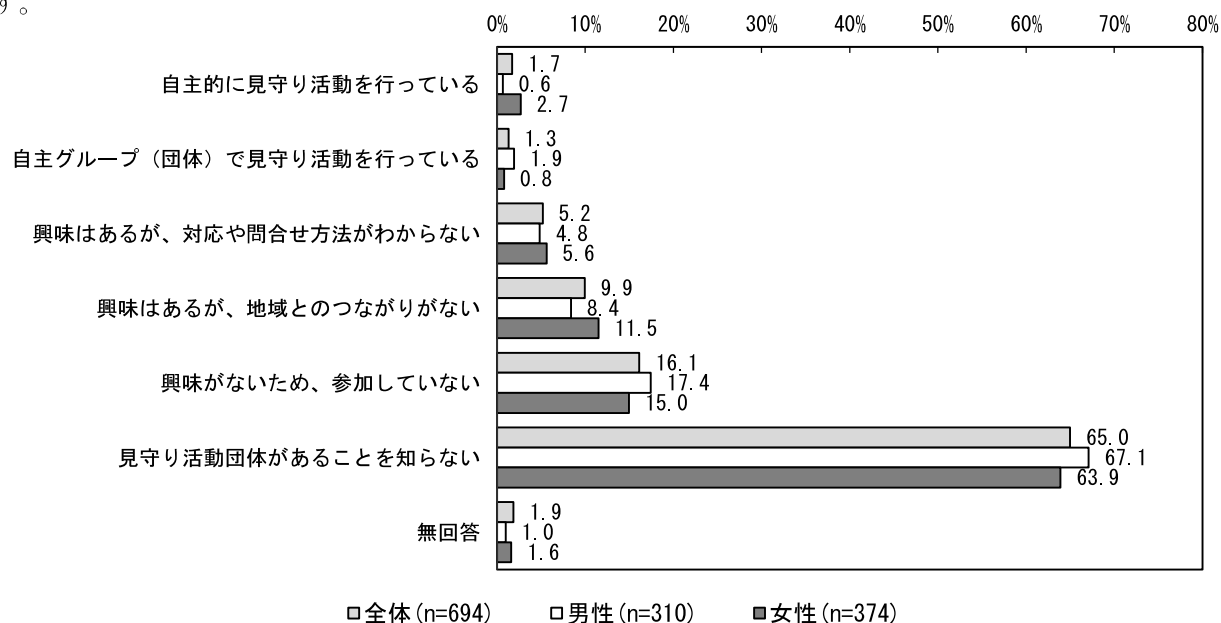
年代別でみると、40代、50代、60代ともに「すべて知らない」がそれぞれ95.4%、94.8%、90.3%と最も多く、次いで「和（なごみ）の会」がそれぞれ2.3%、1.9%、5.3%となっています。



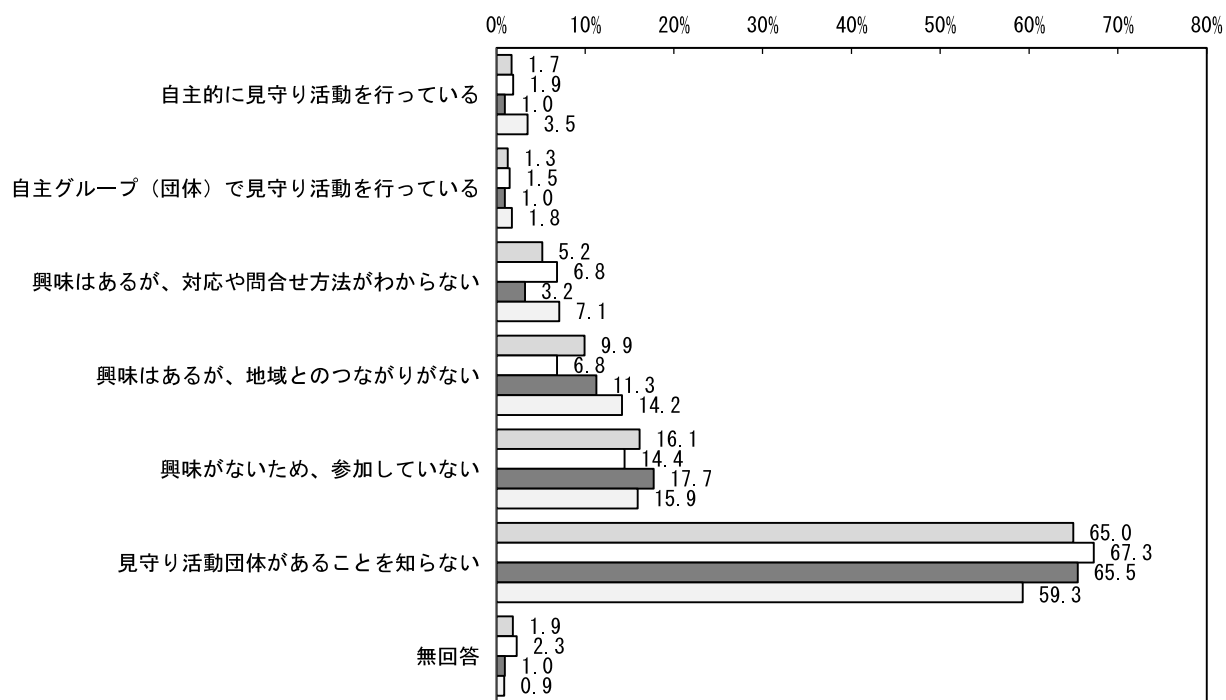
（3）地域の見守り活動を行っていますか。または興味がありますか。（○は1つ）

全体では、「見守り活動団体があることを知らない」が65.0%と最も多く、次いで「興味がないため、参加していない」が16.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「見守り活動団体があることを知らない」がそれぞれ67.1%、63.9%と最も多く、次いで「興味がないため、参加していない」がそれぞれ17.4%、15.0%となっています。



年代別でみると、40代、50代、60代ともに「見守り活動団体があることを知らない」がそれぞれ67.3%、65.5%、59.3%と最も多く、次いで「興味がないため、参加していない」がそれぞれ14.4%、17.7%、15.9%となっています。

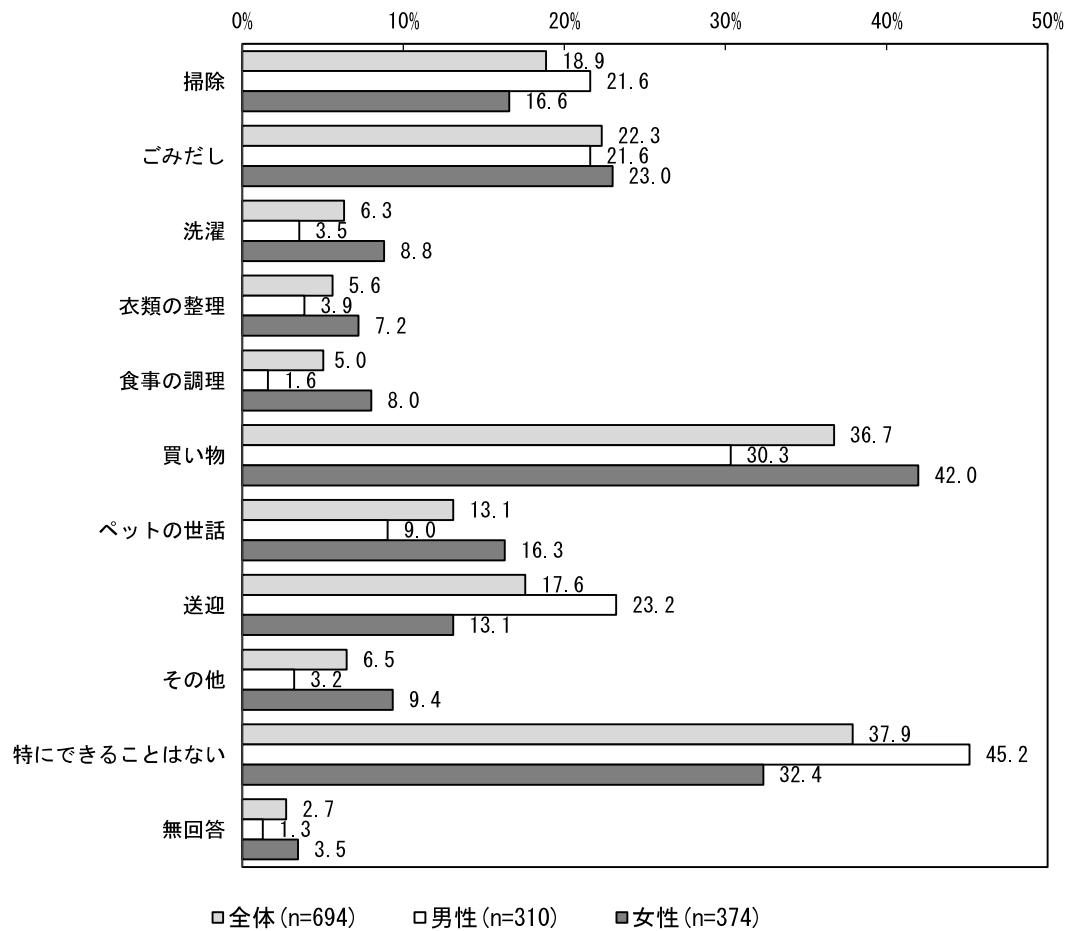


□全体 (n=694) □40代 (n=263) ■50代 (n=310) □60代 (n=113)

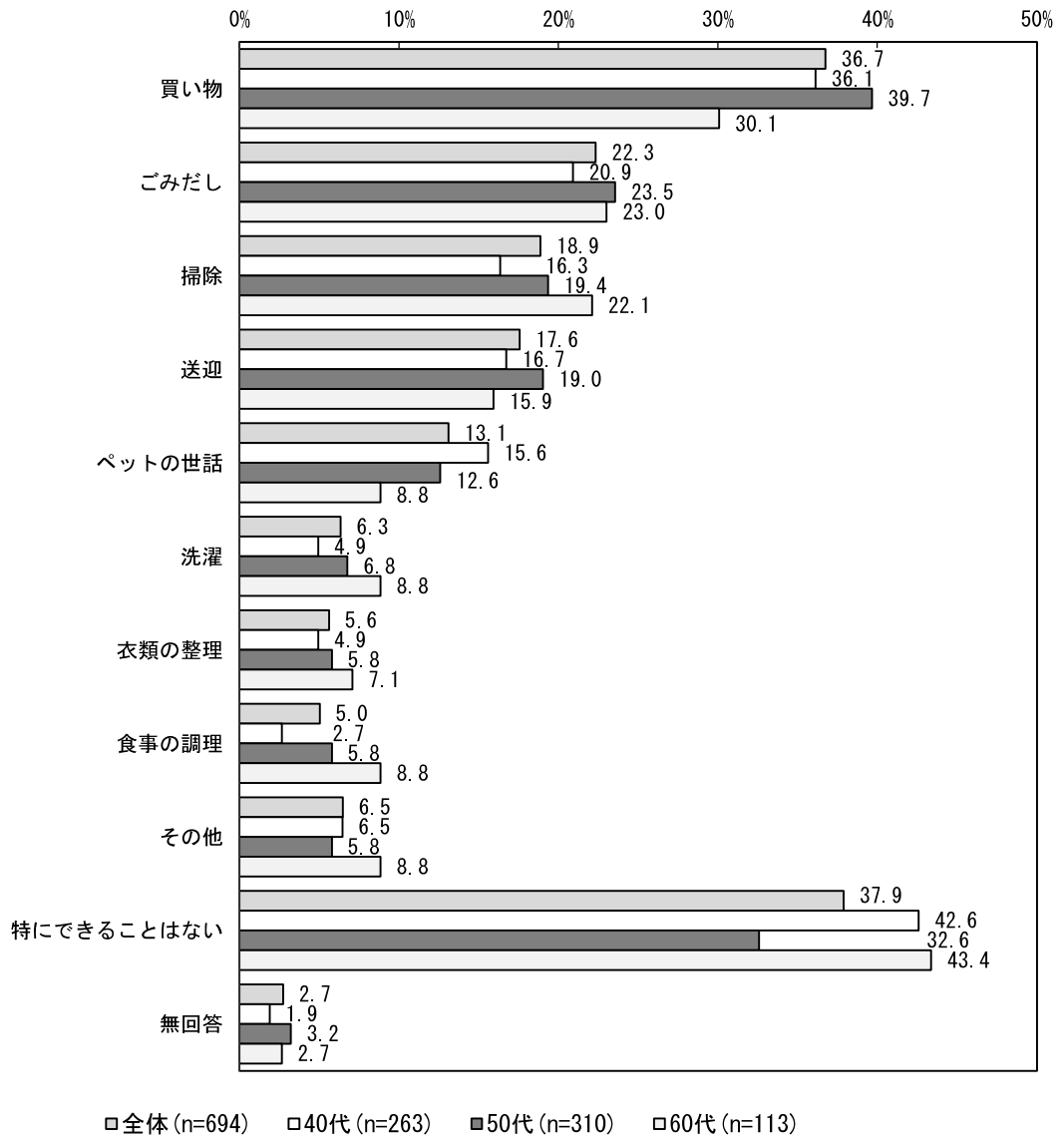
(4) あなたが、ボランティア活動等の一環として、日常生活で支援を必要とする方に対し、手助けをしても良いと思えることはありますか。(いくつでも)

全体では、「特にできることはない」が37.9%と最も多く、次いで「買い物」が36.7%となっています。

性別でみると、男性では、「特にできることはない」が45.2%と最も多く、次いで「買い物」が30.3%となっており、女性では、「買い物」が42.0%と最も多く、次いで「特にできることはない」が32.4%となっています。



年代別でみると、40代及び60代では、「特にできることはない」がそれぞれ42.6%、43.4%と最も多く、次いで「買い物」がそれぞれ36.1%、30.1%となっており、50代では、「買い物」が39.7%と最も多く、次いで「特にできることはない」が32.6%となっています。

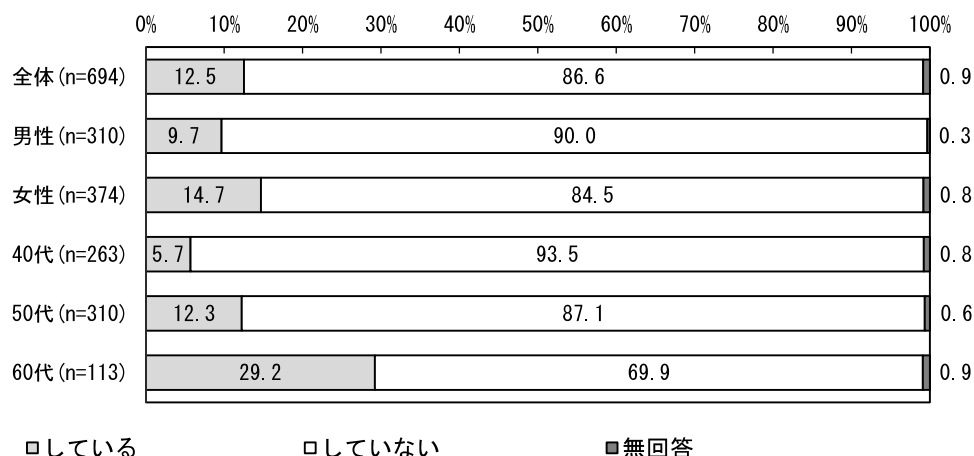


【問4 あなたが介護をする場合について】

(1) 現在、誰かの介護をしていますか。(〇は1つ) ※同居の有無に関わらず

全体では、「している」が12.5%、「していない」が86.6%となっています。

性別・年代別で「している」をみると、性別では、男性が9.7%、女性が14.7%と、女性のほうが多くなっています。年代別では、40代が5.7%、50代が12.3%、60代が29.2%と、60代が多くなっています。

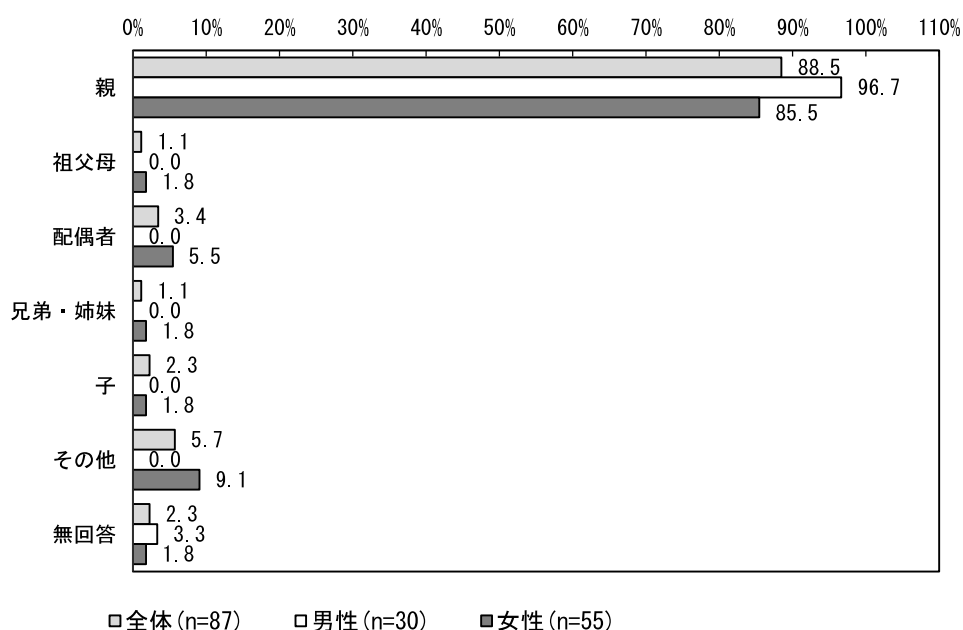


《(1)において「している」と回答した方のみ》

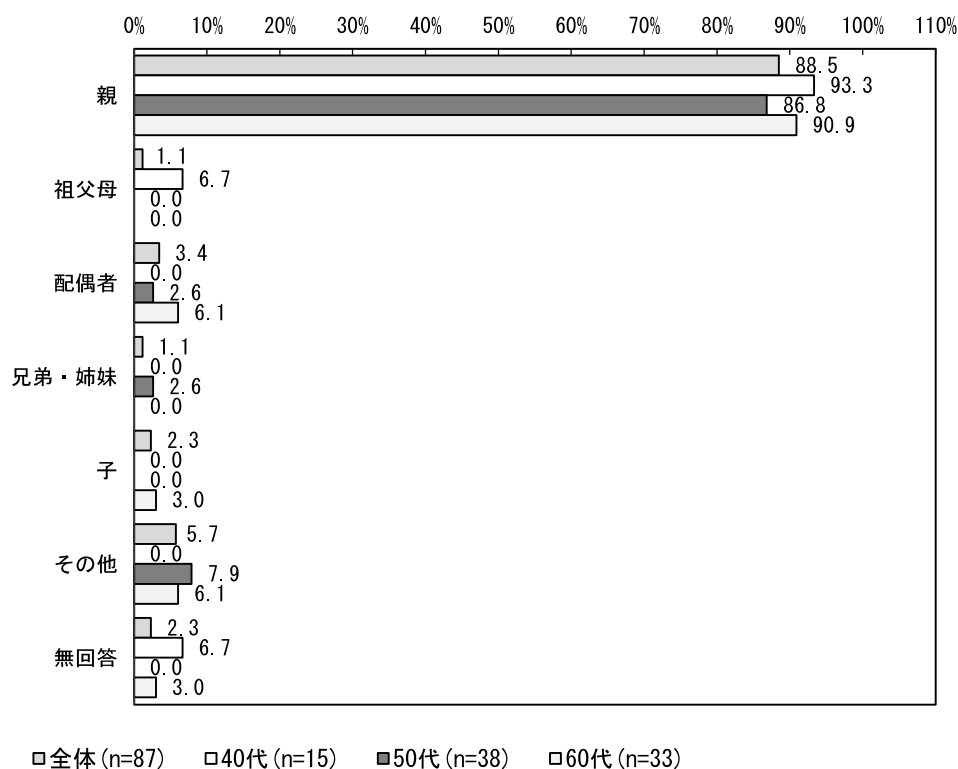
介護をしている相手はどなたですか。(いくつでも)

全体では、「親」が88.5%と最も多くなっています。

性別でみると、男女ともに「親」がそれぞれ96.7%、85.5%と最も多くなっています。



年代別で見ると、40代、50代、60代ともに「親」がそれぞれ93.3%、86.8%、90.9%と最も多くなっています。

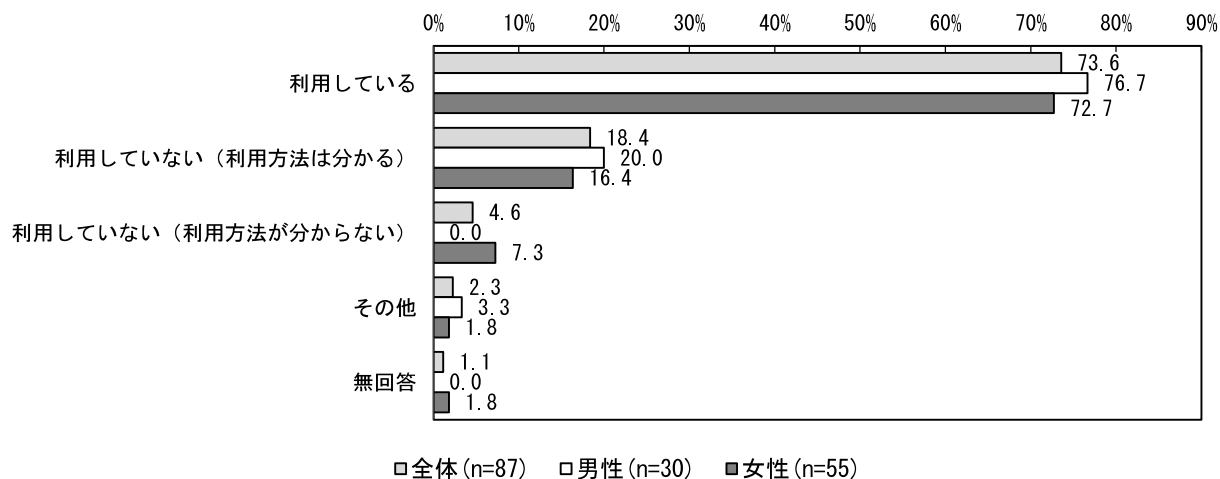


《（１）において「している」と回答した方のみ》

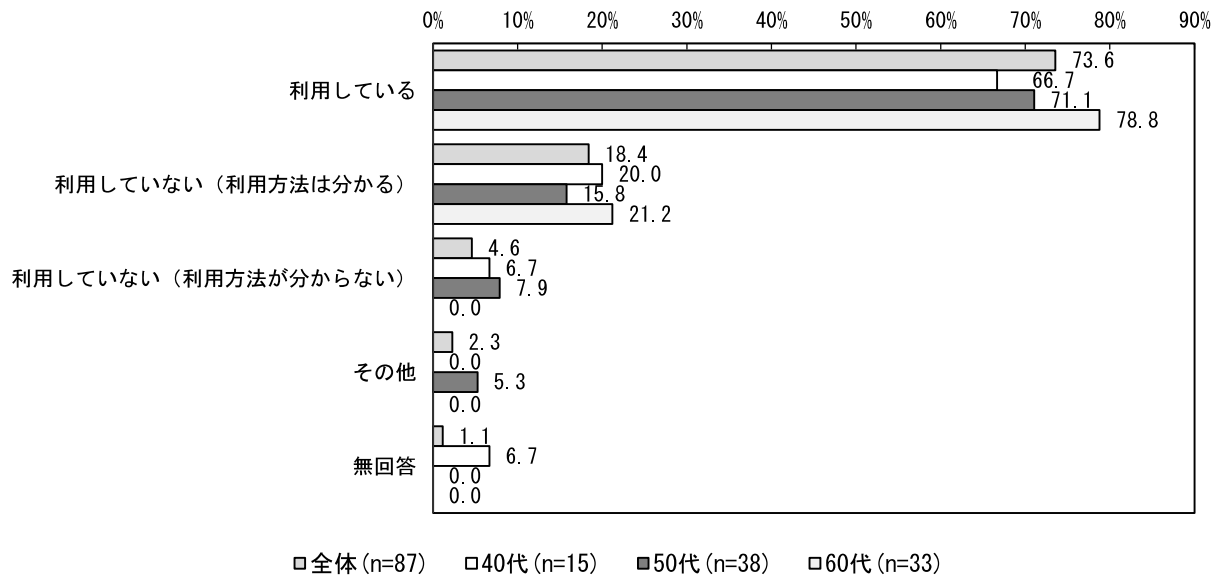
介護をしている相手は介護保険サービスを利用していますか。（いくつでも）

全体では、「利用している」が73.6%と最も多く、次いで「利用していない（利用方法は分かる）」が18.4%となっています。

性別で見ると、男女ともに「利用している」がそれぞれ76.7%、72.7%と最も多く、次いで「利用していない（利用方法は分かる）」がそれぞれ20.0%、16.4%となっています。



年代別でみると、40代、50代、60代ともに「利用している」がそれぞれ66.7%、71.1%、78.8%と最も多く、次いで「利用していない（利用方法は分かる）」がそれぞれ20.0%、15.8%、21.2%となっています。

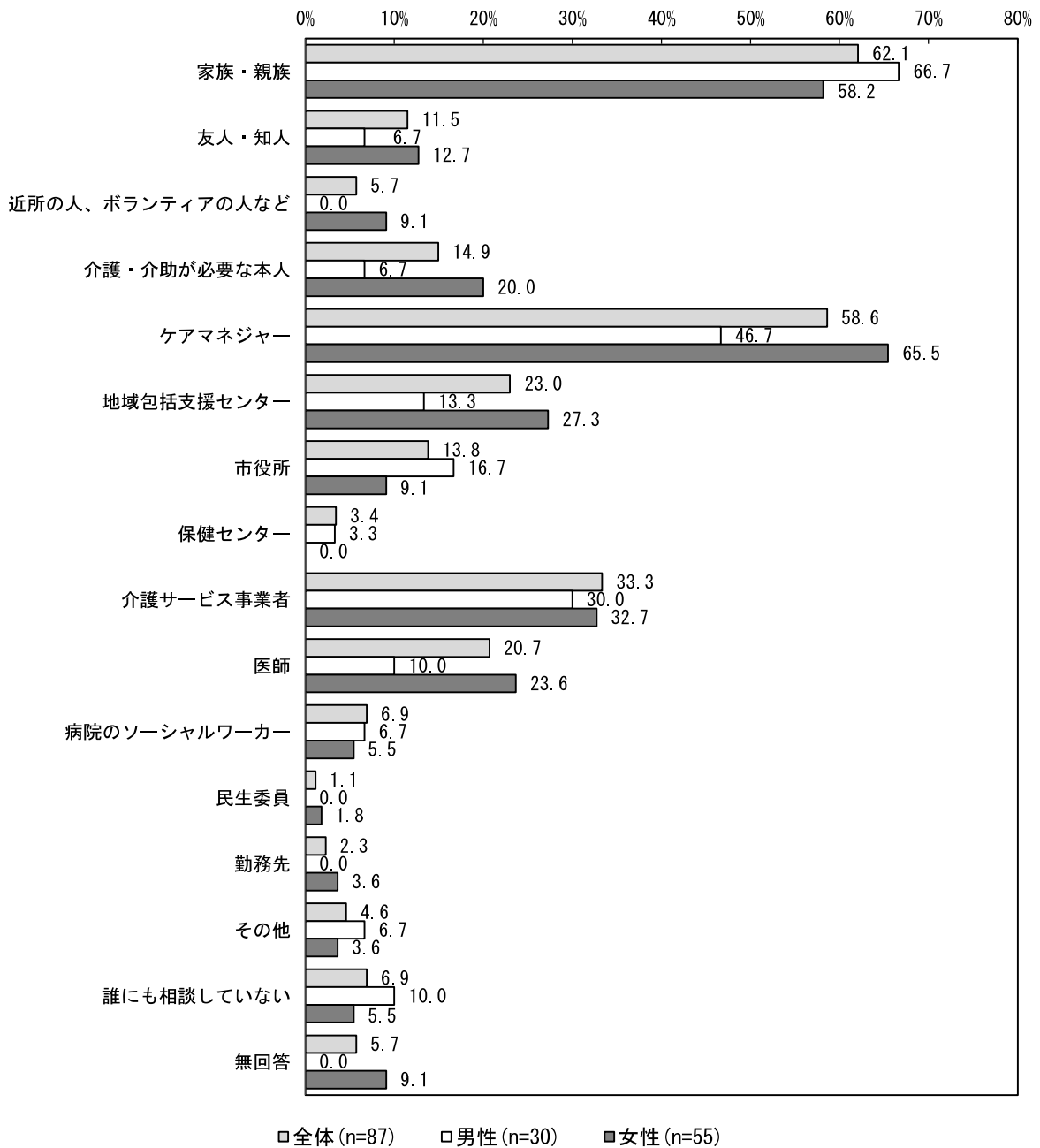


《（１）において「している」と回答した方のみ》

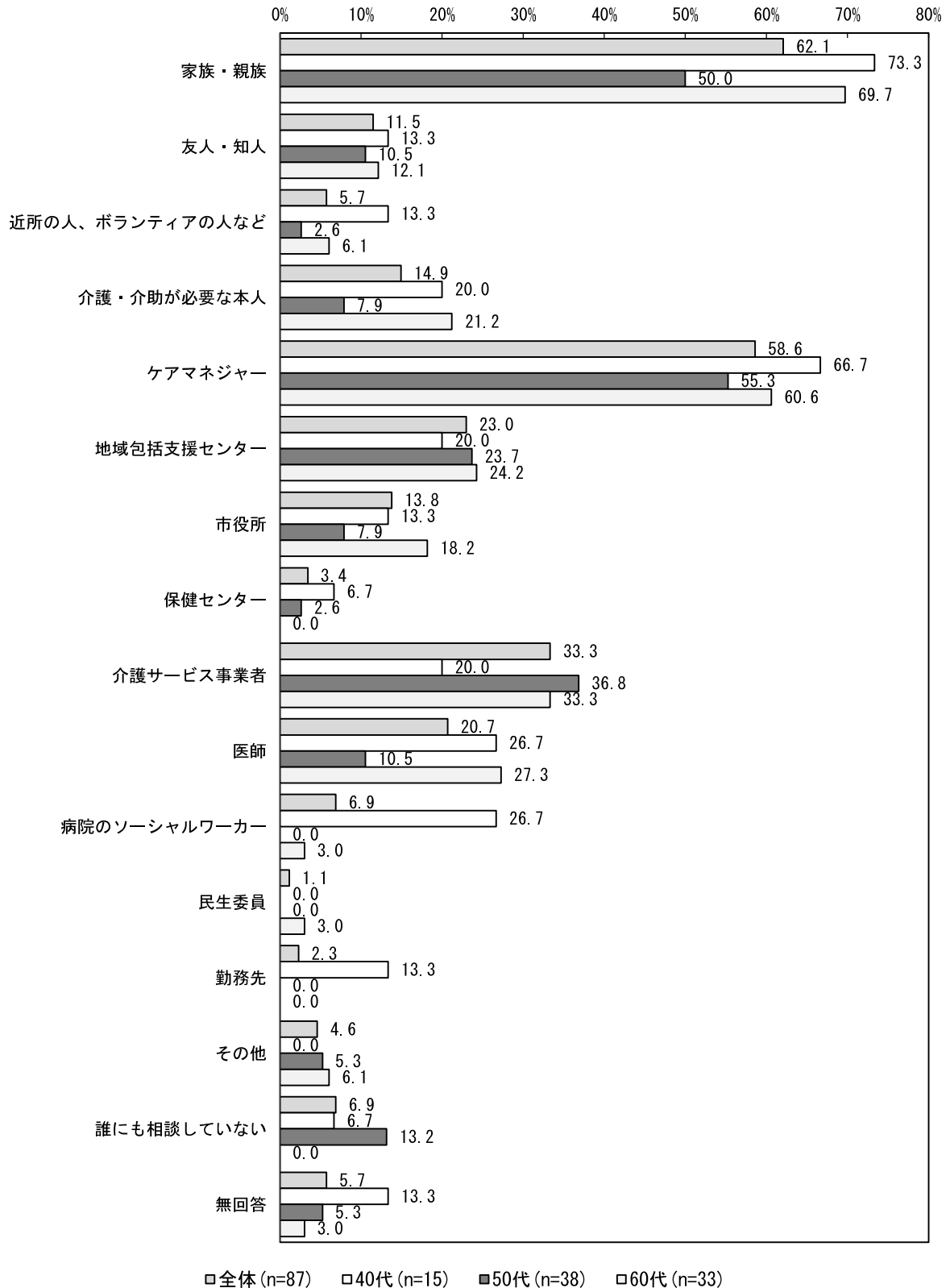
今後の介護のことについて誰に相談していますか。（いくつでも）

全体では、「家族・親族」が62.1%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」が58.6%となっています。

性別で見ると、男性では、「家族・親族」が66.7%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」が46.7%となっており、女性では、「ケアマネジャー」が65.5%と最も多く、次いで「家族・親族」が58.2%となっています。



年代別でみると、40代及び60代では、「家族・親族」がそれぞれ73.3%、69.7%と最も多く、次いで「ケアマネジャー」がそれぞれ66.7%、60.6%となっており、50代では、「ケアマネジャー」が55.3%と最も多く、次いで「家族・親族」が50.0%となっています。

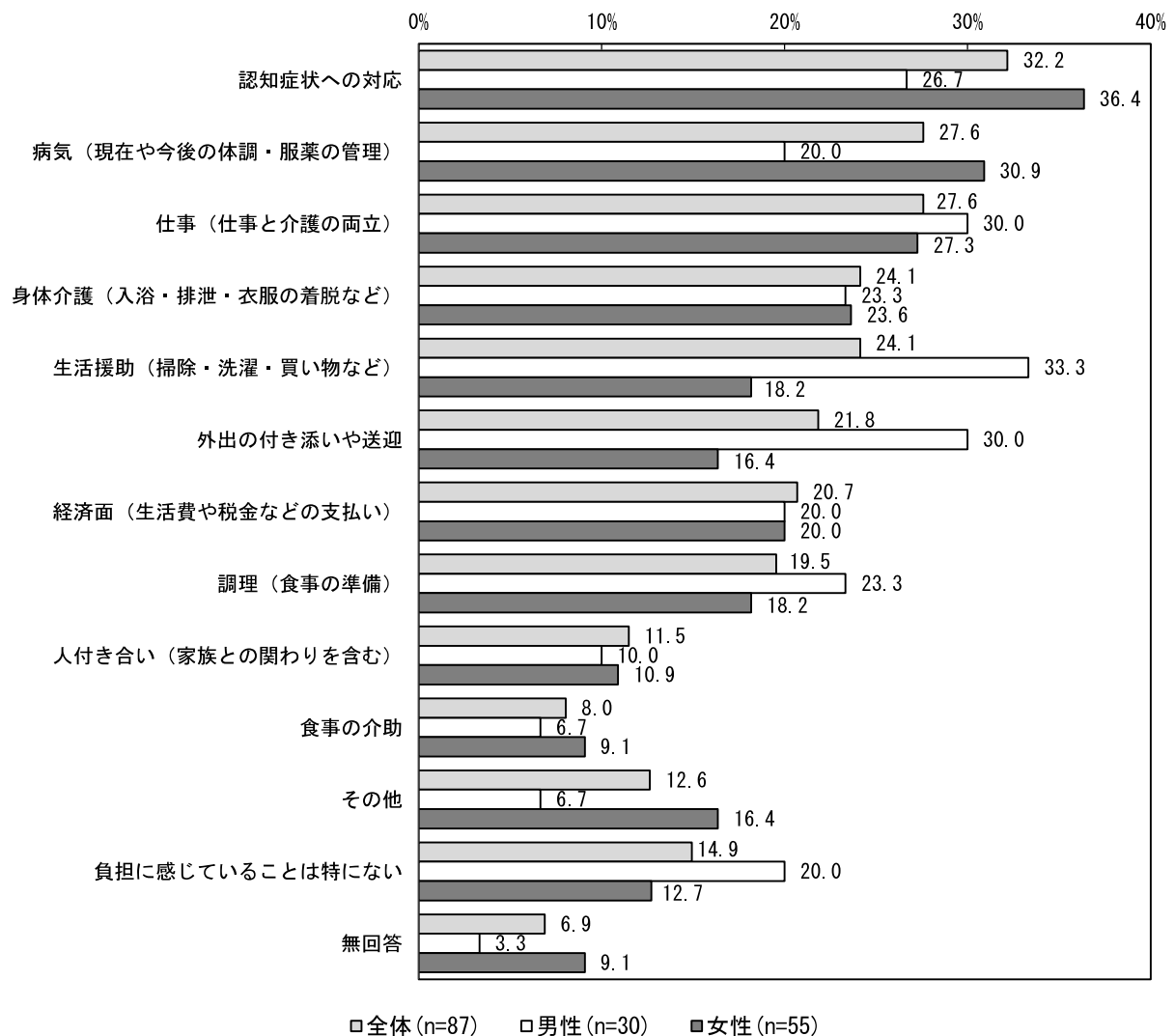


《（１）において「している」と回答した方のみ》

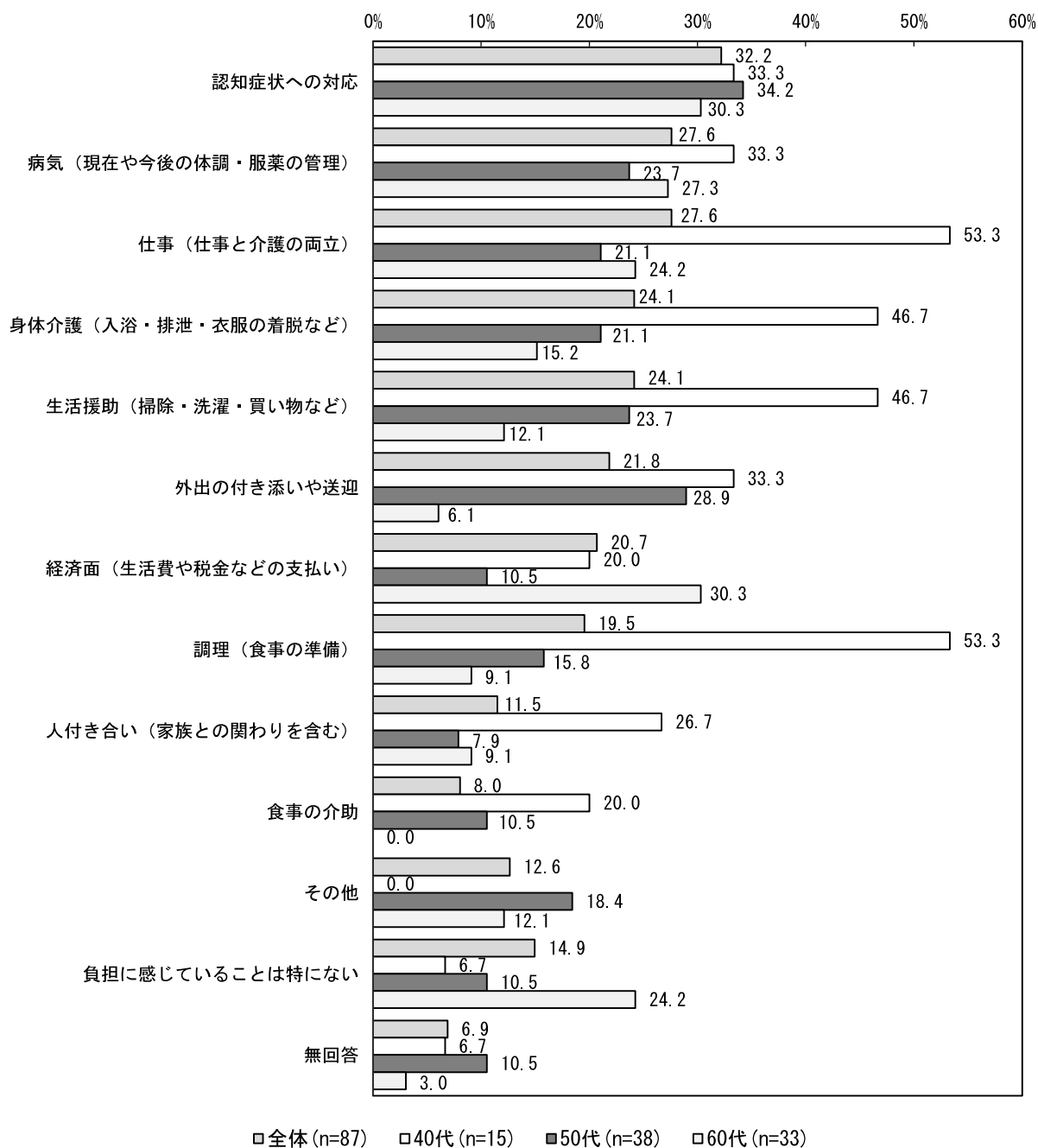
現在、介護をしているなかで、負担に感じていることは何ですか。（いくつでも）

全体では、「認知症状への対応」が32.2%と最も多く、次いで「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」及び「仕事（仕事と介護の両立）」が27.6%となっています。

性別でみると、男性では、「生活援助（掃除・洗濯・買い物など）」が33.3%と最も多く、次いで「仕事（仕事と介護の両立）」及び「外出の付き添いや送迎」がそれぞれ30.0%となっており、女性では、「認知症状への対応」が36.4%と最も多く、次いで「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」が30.9%となっています。



年代別でみると、40代では、「仕事（仕事と介護の両立）」及び「調理（食事の準備）」が53.3%と最も多く、次いで「身体介護（入浴・排泄・衣服の着脱など）」及び「生活援助（掃除・洗濯・買い物など）」が46.7%となっており、50代では、「認知症状への対応」が34.2%と最も多く、次いで「外出の付き添いや送迎」が28.9%、「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」及び「生活援助（掃除・洗濯・買い物など）」がそれぞれ23.7%となっています。また、60代では、「認知症状への対応」及び「経済面（生活費や税金などの支払い）」が30.3%と最も多く、次いで「病気（現在や今後の体調・服薬の管理）」が27.3%となっています。

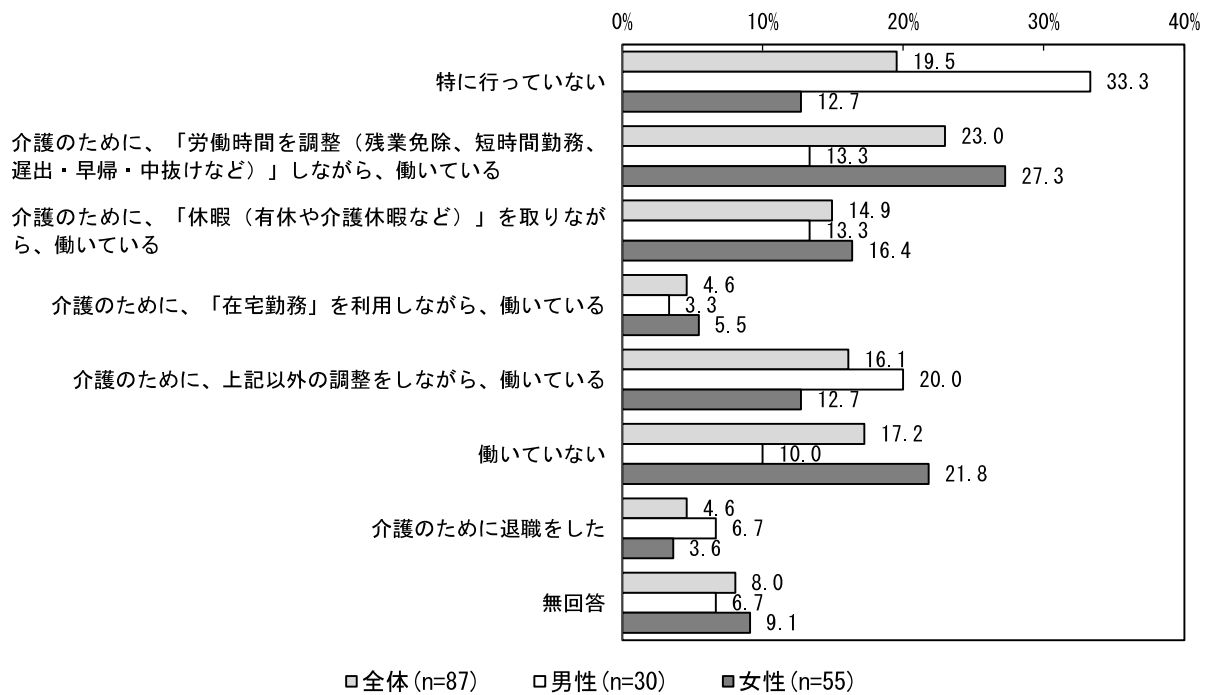


《（１）において「している」と回答した方のみ》

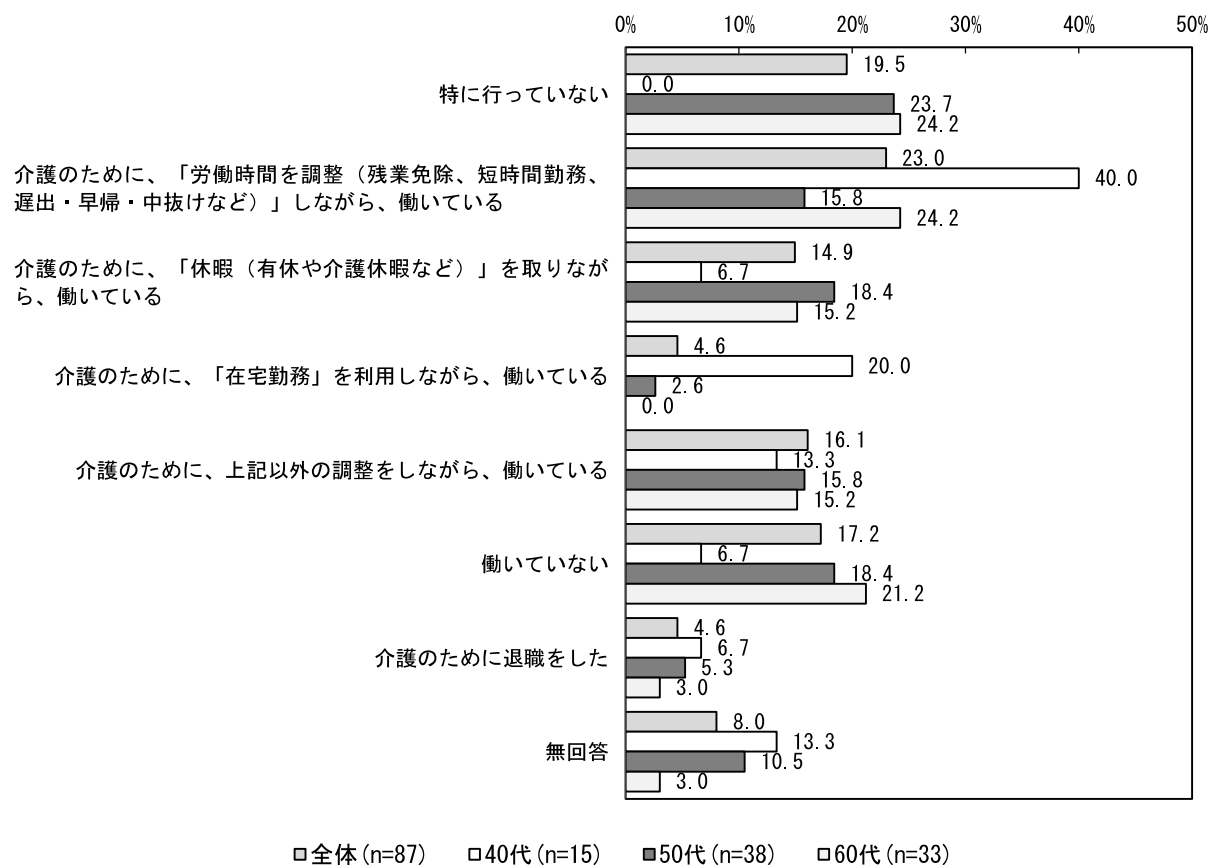
介護をするにあたって、働き方について何か調整などをしていますか。（○は１つ）

全体では、“介護のために「労働時間を調整」しながら、働いている”が23.0%と最も多く、次いで「特に行っていない」が19.5%となっています。

性別でみると、男性では、「特に行っていない」が33.3%と最も多く、次いで「介護のために、上記以外の調整をしながら、働いている」が20.0%となっており、女性では、“介護のために「労働時間を調整」しながら、働いている”が27.3%と最も多く、次いで「働いていない」が21.8%となっています。



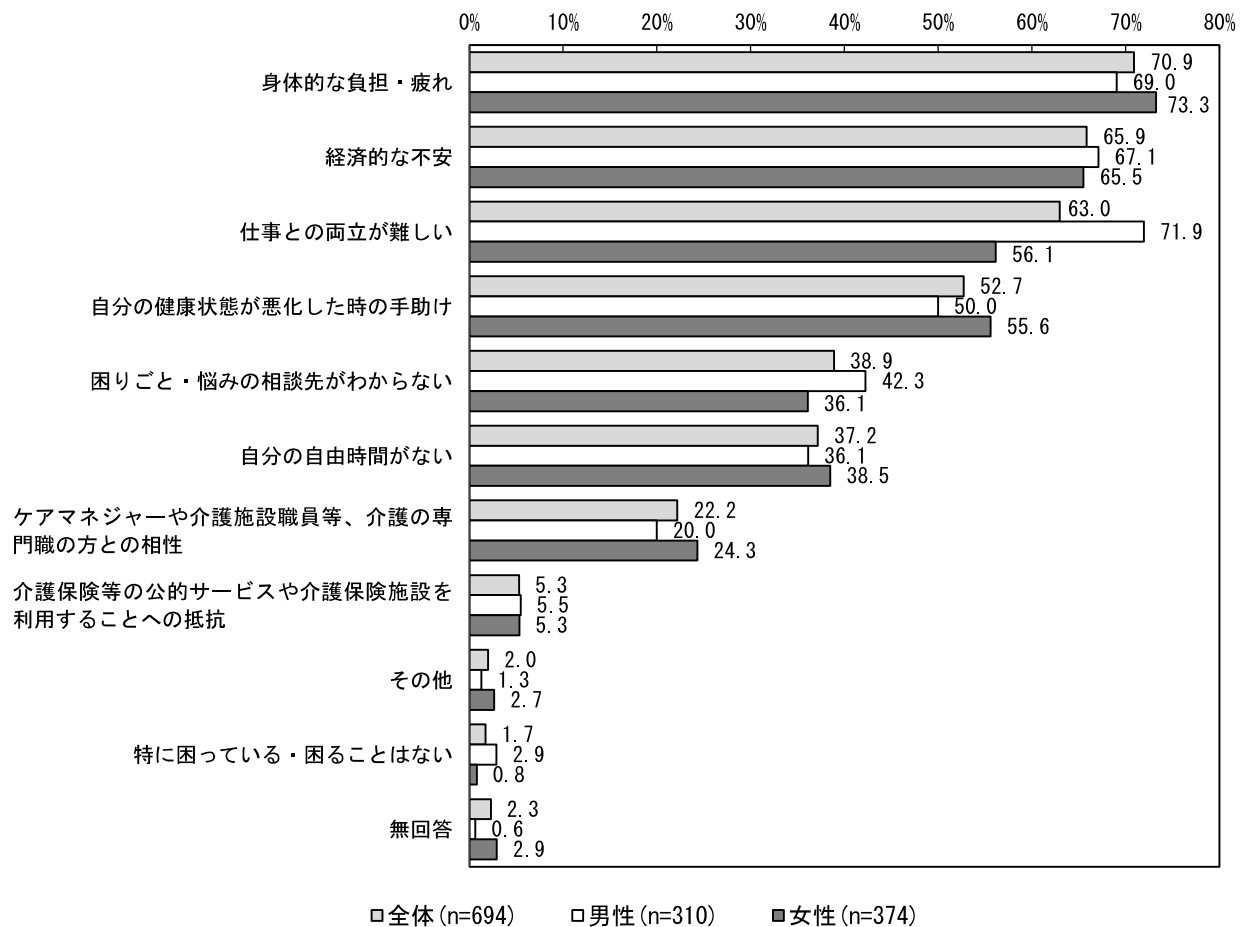
年代別でみると、40代では、“介護のために「労働時間を調整」しながら、働いている”が40.0%と最も多く、次いで“介護のために、「在宅勤務」を利用しながら、働いている”が20.0%となっており、50代では、「特に行っていない」が23.7%と最も多く、次いで“介護のために、「休暇」を取りながら、働いている”及び「働いていない」がそれぞれ18.4%となっています。また、60代では、「特に行っていない」及び“介護のために、「労働時間を調整」しながら、働いている”がそれぞれ24.2%と最も多く、次いで「働いていない」が21.2%となっています。



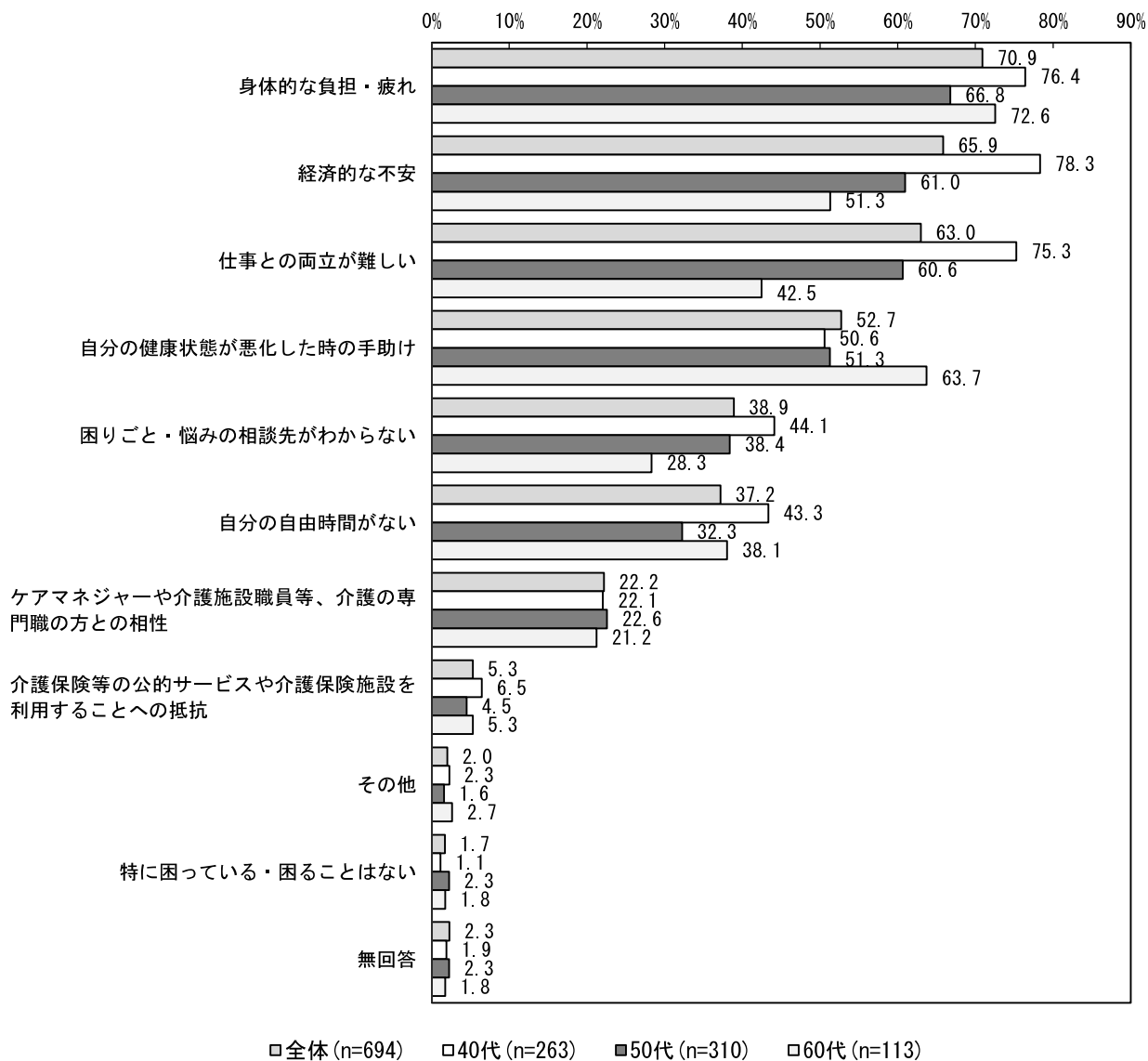
(2) あなたが介護をする側になった場合、この先の介護について不安に思うことは何ですか。(いくつでも)

全体では、「身体的な負担・疲れ」が70.9%と最も多く、次いで「経済的な不安」が65.9%となっています。

性別で見ると、男性では、「仕事との両立が難しい」が71.9%と最も多く、次いで「身体的な負担・疲れ」が69.0%となっており、女性では、「身体的な負担・疲れ」が73.3%と最も多く、次いで「経済的な不安」が65.5%となっています。



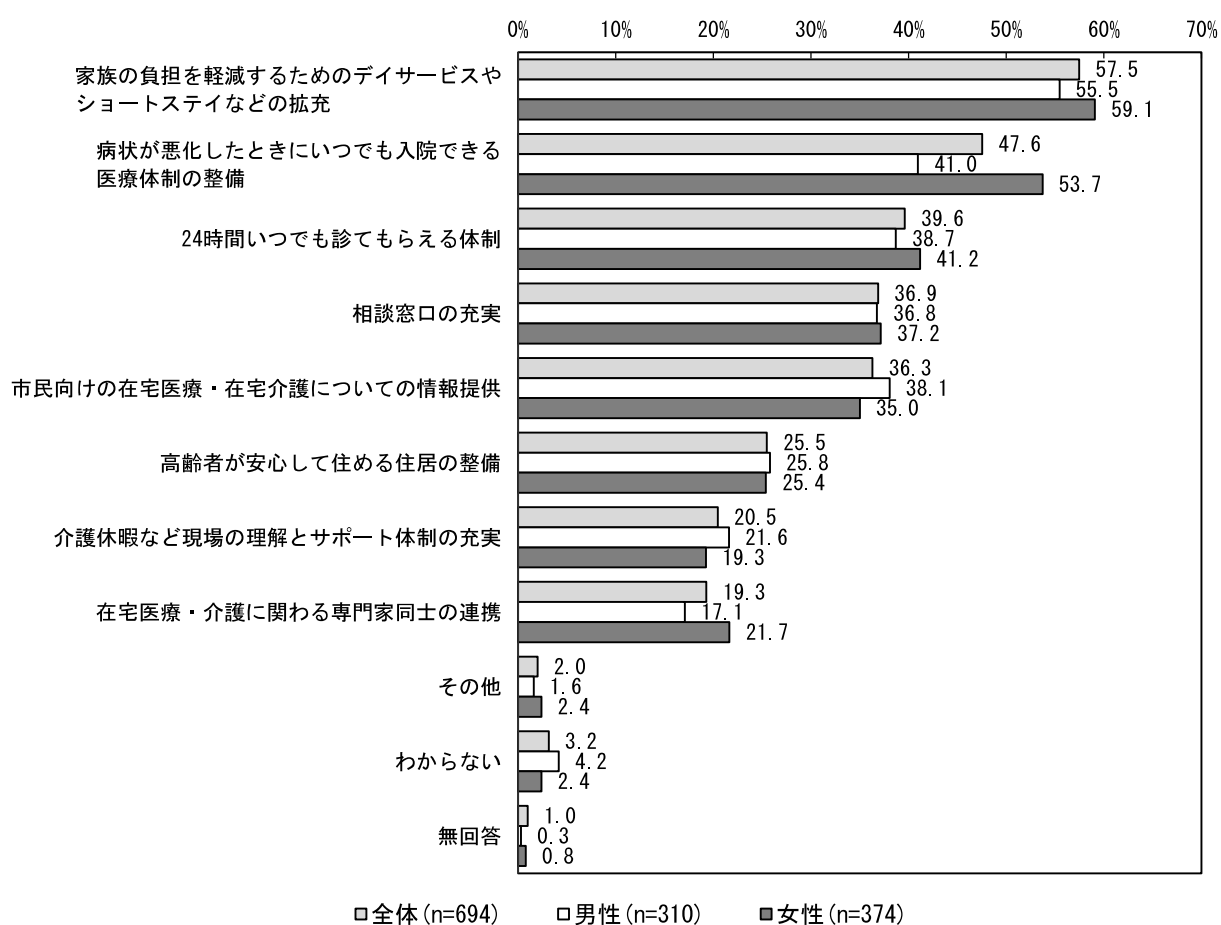
年代別でみると、40代では、「経済的な不安」が78.3%と最も多く、次いで「身体的な負担・疲れ」が76.4%となっており、50代では、「身体的な負担・疲れ」が66.8%と最も多く、次いで「経済的な不安」が61.0%となっています。また、60代では、「身体的な負担・疲れ」が72.6%と最も多く、次いで「自分の健康状態が悪化した時の手助け」が63.7%となっています。



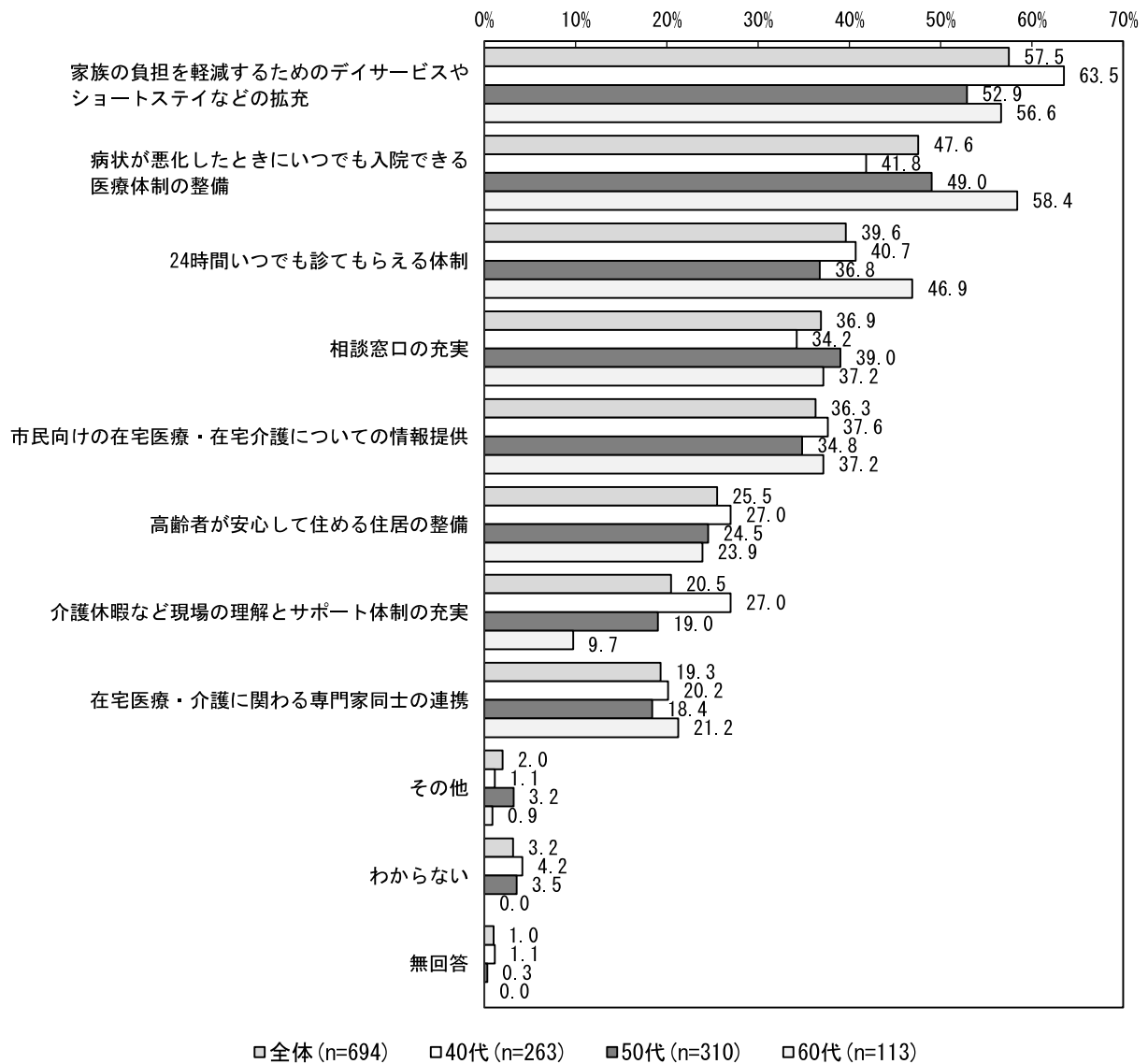
(3) 介護が必要になった方が、在宅での生活を続けていくために特に必要と考えることは何ですか。(〇は3つまで)

全体では、「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」が 57.5%と最も多く、次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」が 47.6%となっています。

性別で見ると、男女ともに「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」がそれぞれ 55.5%、59.1%と最も多く、次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」がそれぞれ 41.0%、53.7%となっています。



年代別でみると、40代及び50代では、「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」がそれぞれ63.5%、52.9%と最も多く、次いで「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」が41.8%、49.0%となっており、60代では、「病状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」が58.4%と最も多く、次いで「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイなどの拡充」が56.6%となっています。



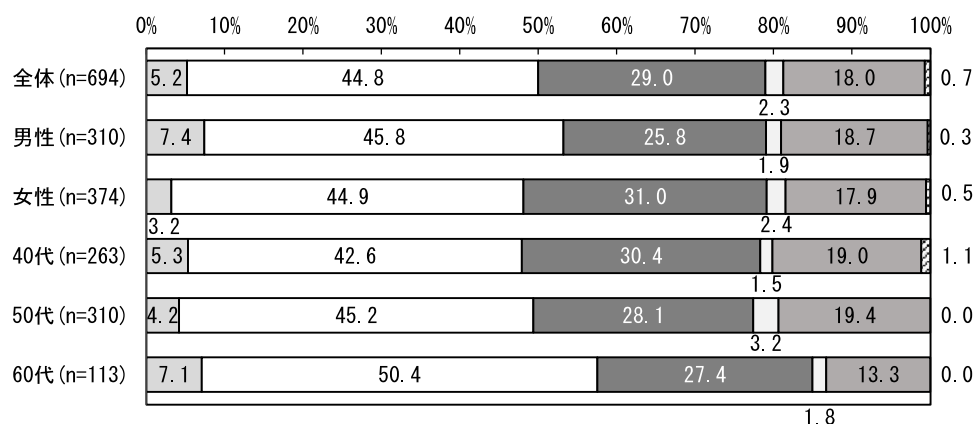
【問5 将来、あなたに介護が必要となった場合について】

(1) あなたが介護を必要とする状態となった場合に、どのような生活を希望しますか。

(○は1つ)

全体では、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」が44.8%と最も多く、次いで「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所して生活したい」が29.0%となっています。

性別・年代別で『現在の住まいで生活したい』（「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスを利用せずに、家族の介護を中心に受けながら生活したい」と「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」の合計）をみると、性別では、男性が53.2%、女性が48.1%と、男性のほうが多く、年代別では、40代が47.9%、50代が49.4%、60代が57.5%と、60代が多くなっています。



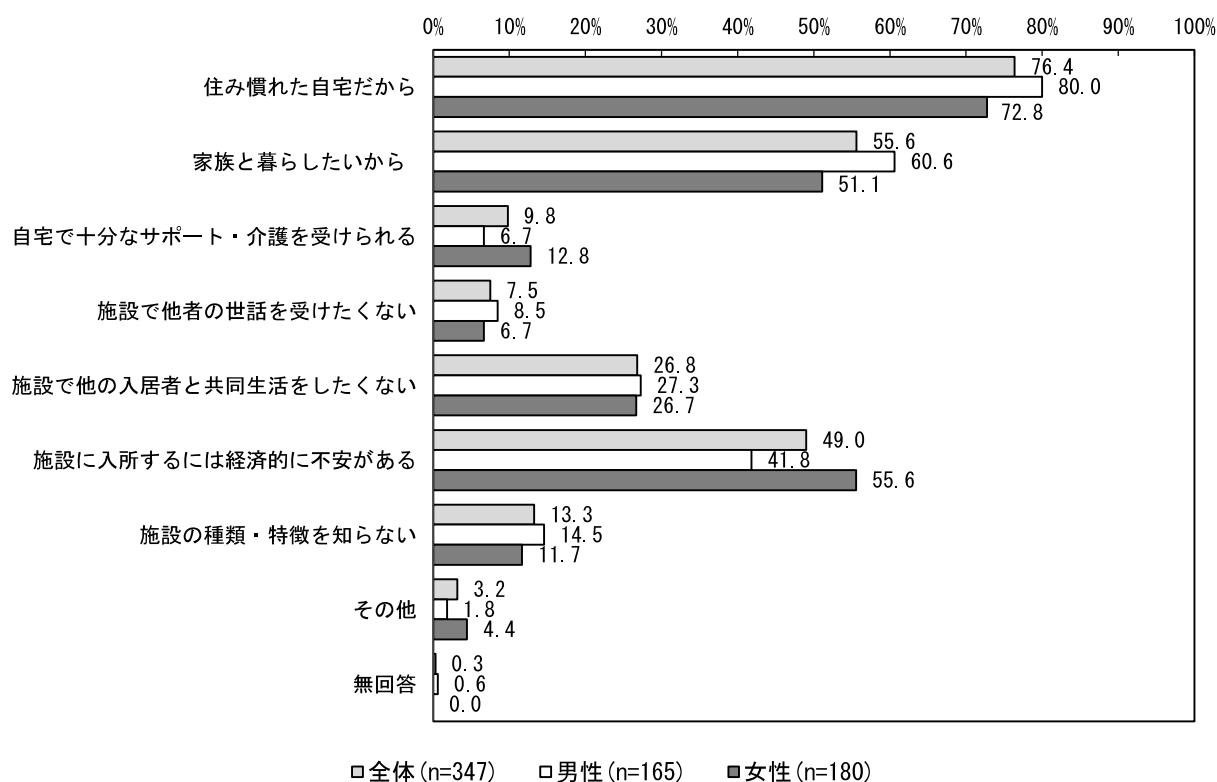
- 現在の住まいで、介護保険等の公的サービスを利用せずに、家族の介護を中心に受けながら生活したい
- 現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい
- 特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所して生活したい
- その他
- わからない
- 無回答

《（１）において「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスを利用せずに、家族の介護を中心に受けながら生活したい」、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」と回答した方のみ》

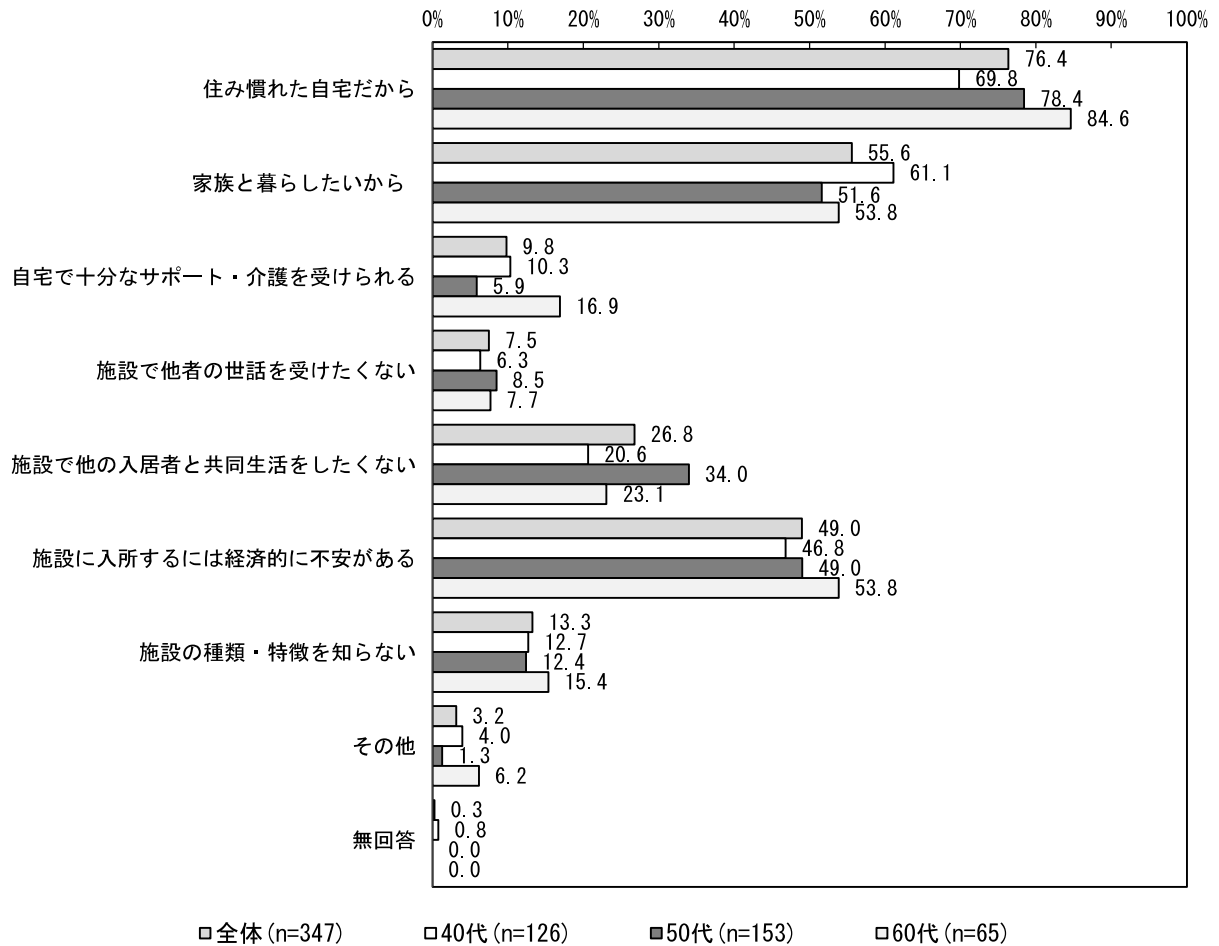
現在の住まいで生活したい理由は何ですか。（いくつでも）

全体では、「住み慣れた自宅だから」が 76.4%と最も多く、次いで「家族と暮らしたいから」が 55.6%となっています。

性別で見ると、男性では、「住み慣れた自宅だから」が 80.0%と最も多く、次いで「家族と暮らしたいから」が 60.6%となっており、女性では、「住み慣れた自宅だから」が 72.8%と最も多く、次いで「施設に入所するには経済的に不安がある」が 55.6%となっています。



年代別でみると、40代及び50代では、「住み慣れた自宅だから」がそれぞれ69.8%、78.4%と最も多く、次いで「家族と暮らしたいから」がそれぞれ61.1%、51.6%となっており、60代では、「住み慣れた自宅だから」が84.6%と最も多く、次いで「家族と暮らしたいから」及び「施設に入所するには経済的に不安がある」が53.8%となっています。

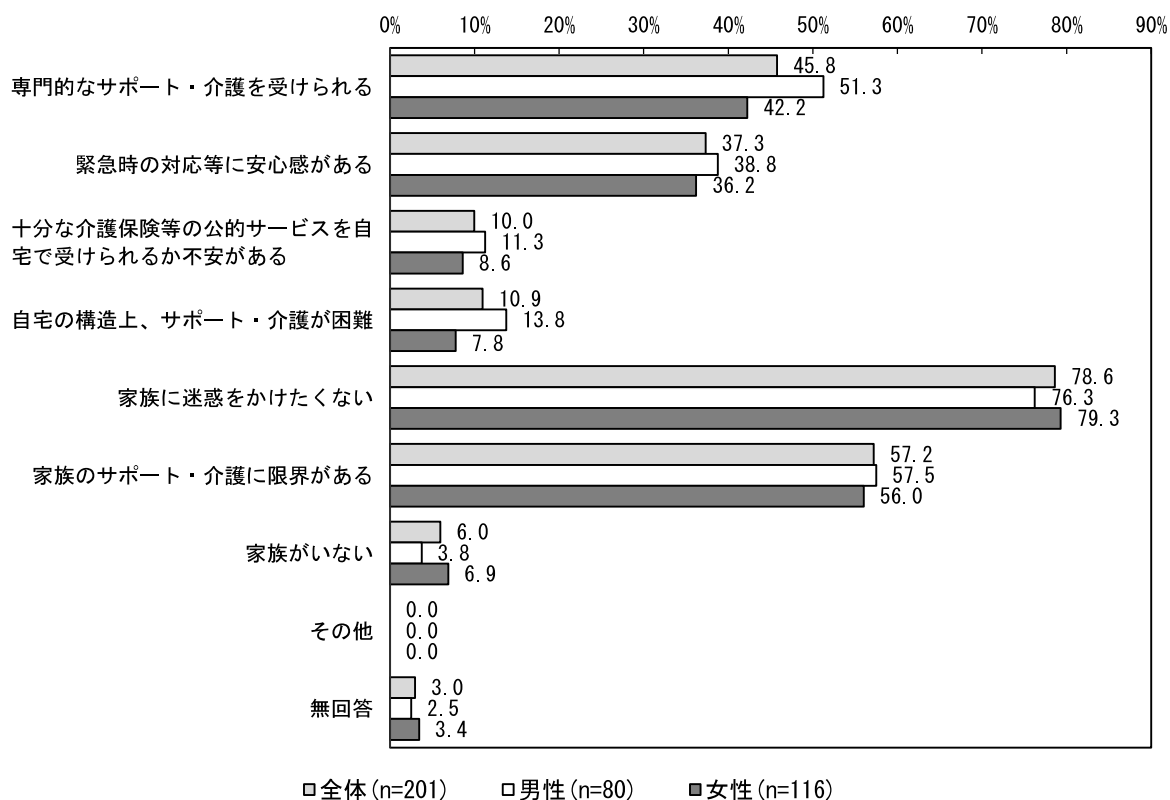


《（１）において「特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所して生活したい」と回答した方のみ》

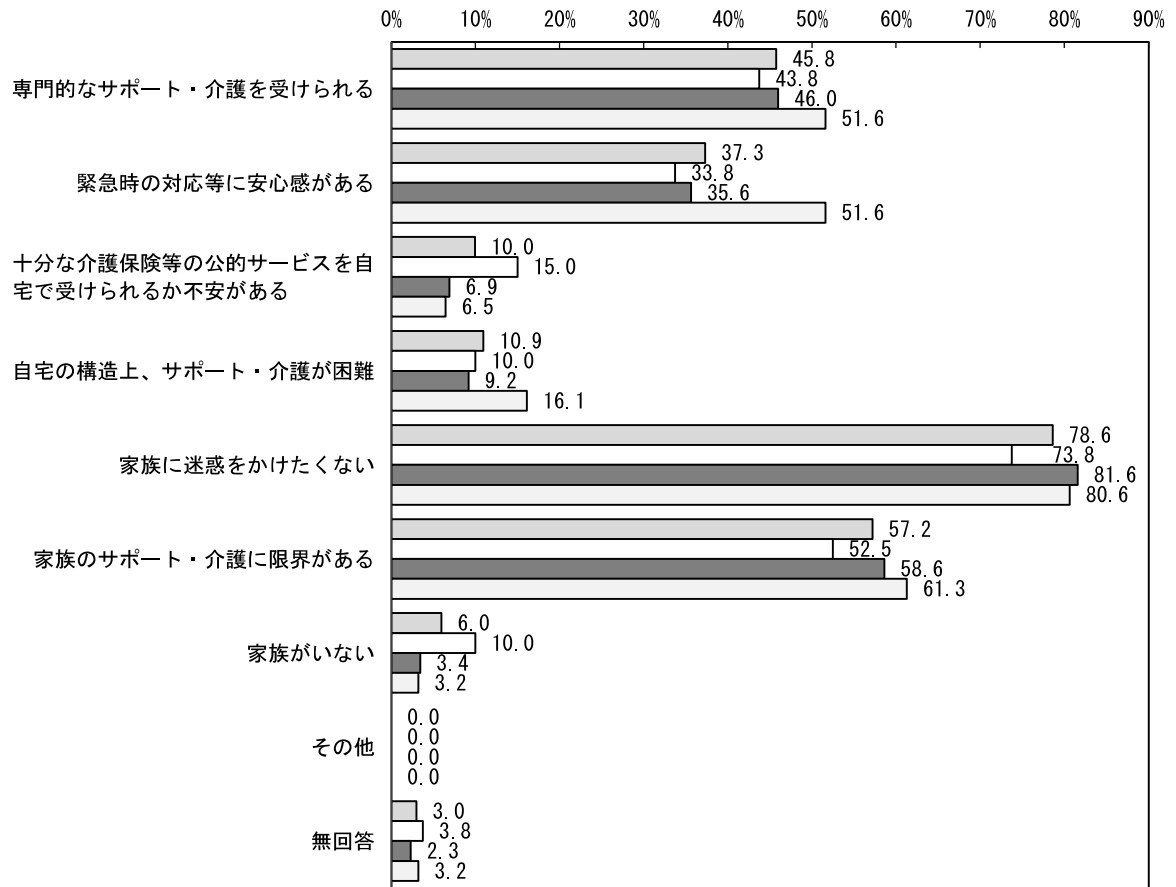
施設を利用したい理由は何ですか。（いくつでも）

全体では、「家族に迷惑をかけたくない」が78.6%と最も多く、次いで「家族のサポート・介護に限界がある」が57.2%となっています。

性別でみると、男女ともに「家族に迷惑をかけたくない」がそれぞれ76.3%、79.3%と最も多く、次いで「家族のサポート・介護に限界がある」がそれぞれ57.5%、56.0%となっています。



年代別でみると、40代、50代、60代ともに「家族に迷惑をかけたくない」がそれぞれ73.8%、81.6%、80.6%と最も多く、次いで「家族のサポート・介護に限界がある」がそれぞれ52.5%、58.6%、61.3%となっています。

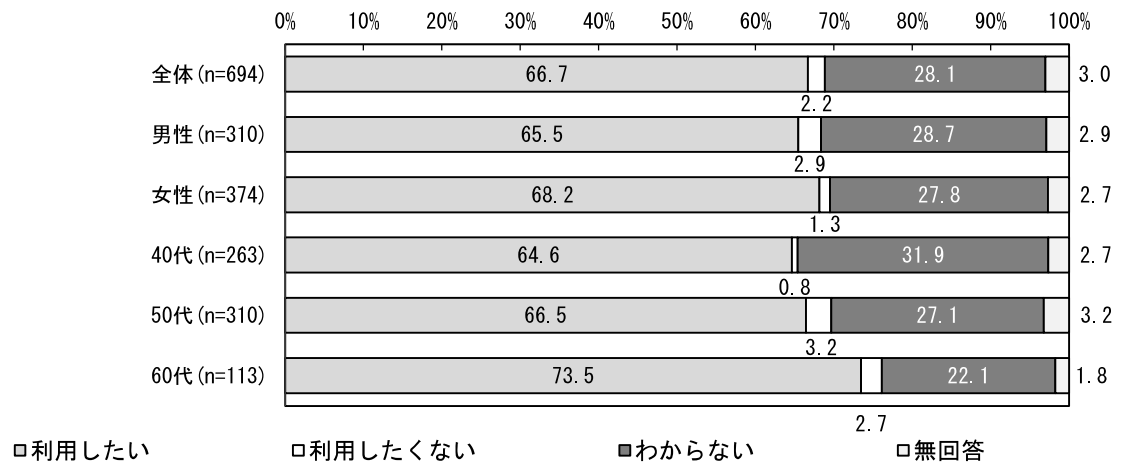


□全体 (n=201) □40代 (n=80) ■50代 (n=87) □60代 (n=31)

(2) あなたが介護を必要とする状態となった場合に、ボランティア団体が安価な費用で自家用車などを用いて通院や日常品の買い物に限り送迎を行うサービスがあれば、利用しますか。(〇は1つ)

全体では、「利用したい」が66.7%、「利用したくない」が2.2%となっています。

性別・年代別で「利用したい」をみると、性別では、男性が65.5%、女性が68.2%と、女性のほうが多くなっています。年代別では、40代が64.6%、50代が66.5%、60代が73.5%と、60代が多くなっています。

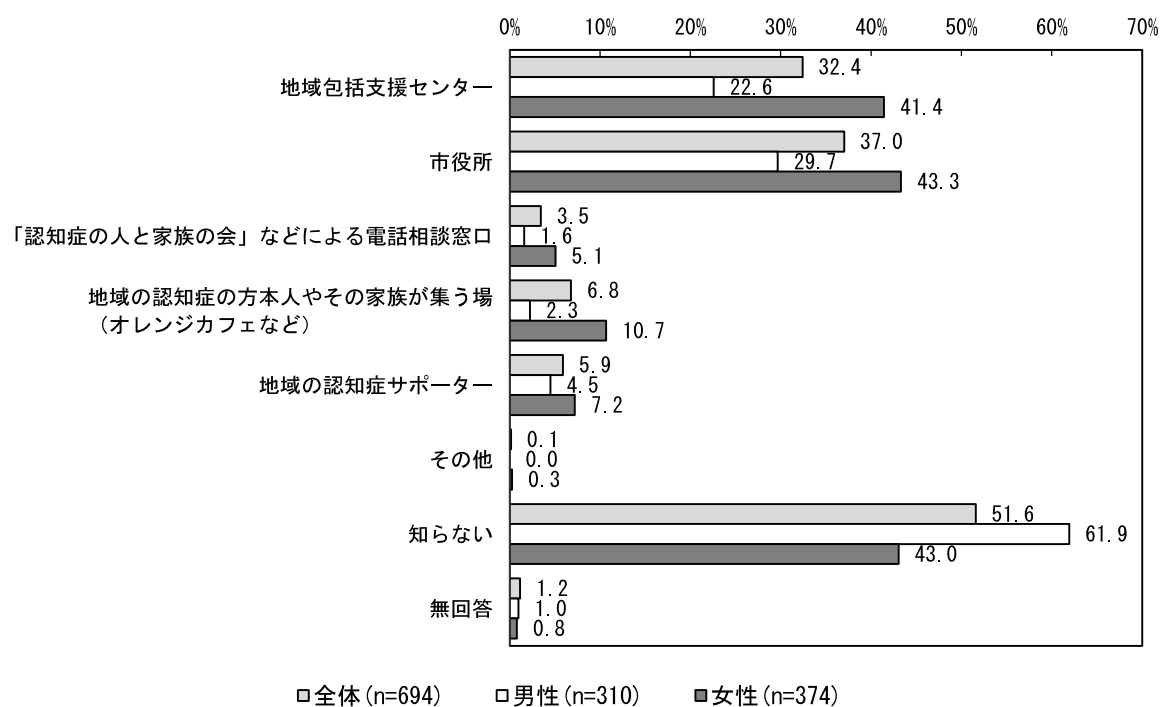


【問6 認知症について】

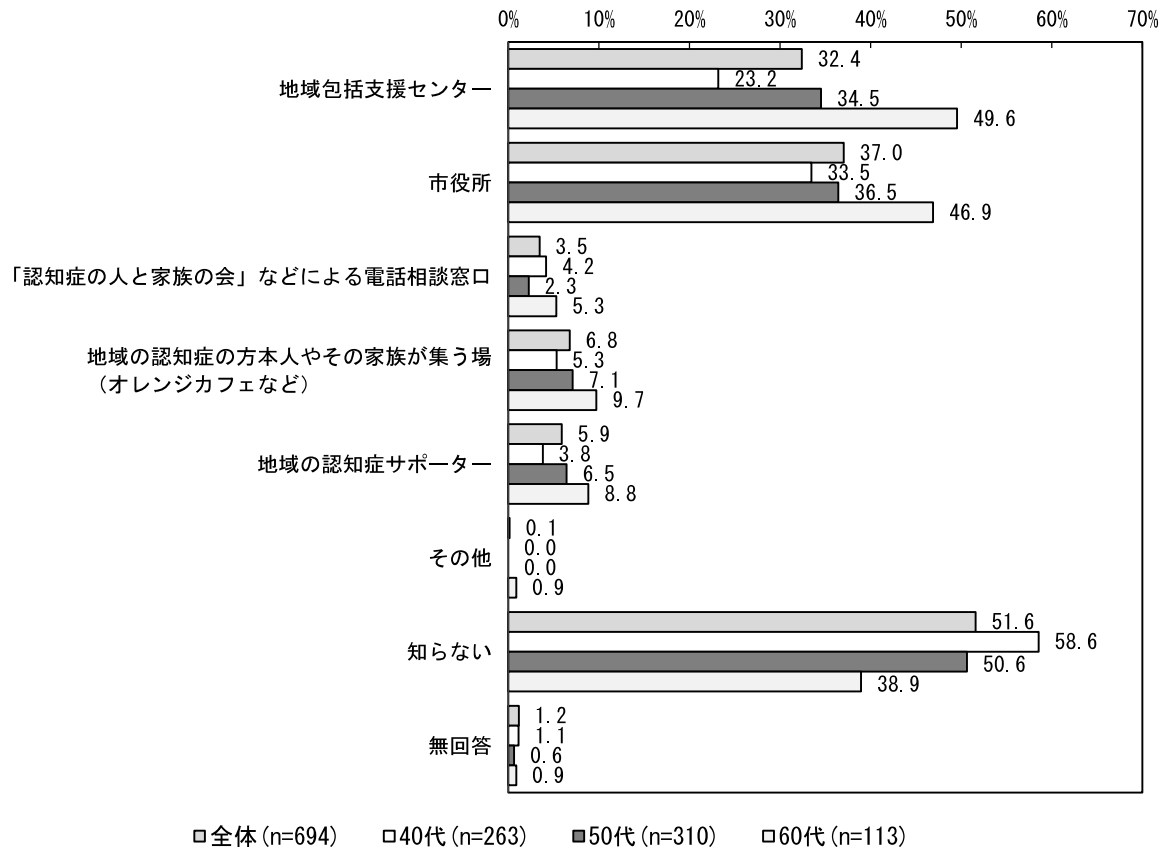
(1) 認知症に関する相談窓口のうち、知っているものはありますか。(いくつでも)

全体では、「知らない」が51.6%と最も多く、次いで「市役所」が37.0%となっています。

性別で見ると、男性では、「知らない」が61.9%と最も多く、次いで「市役所」が29.7%となっており、女性では、「市役所」が43.3%と最も多く、次いで「知らない」が43.0%となっています。



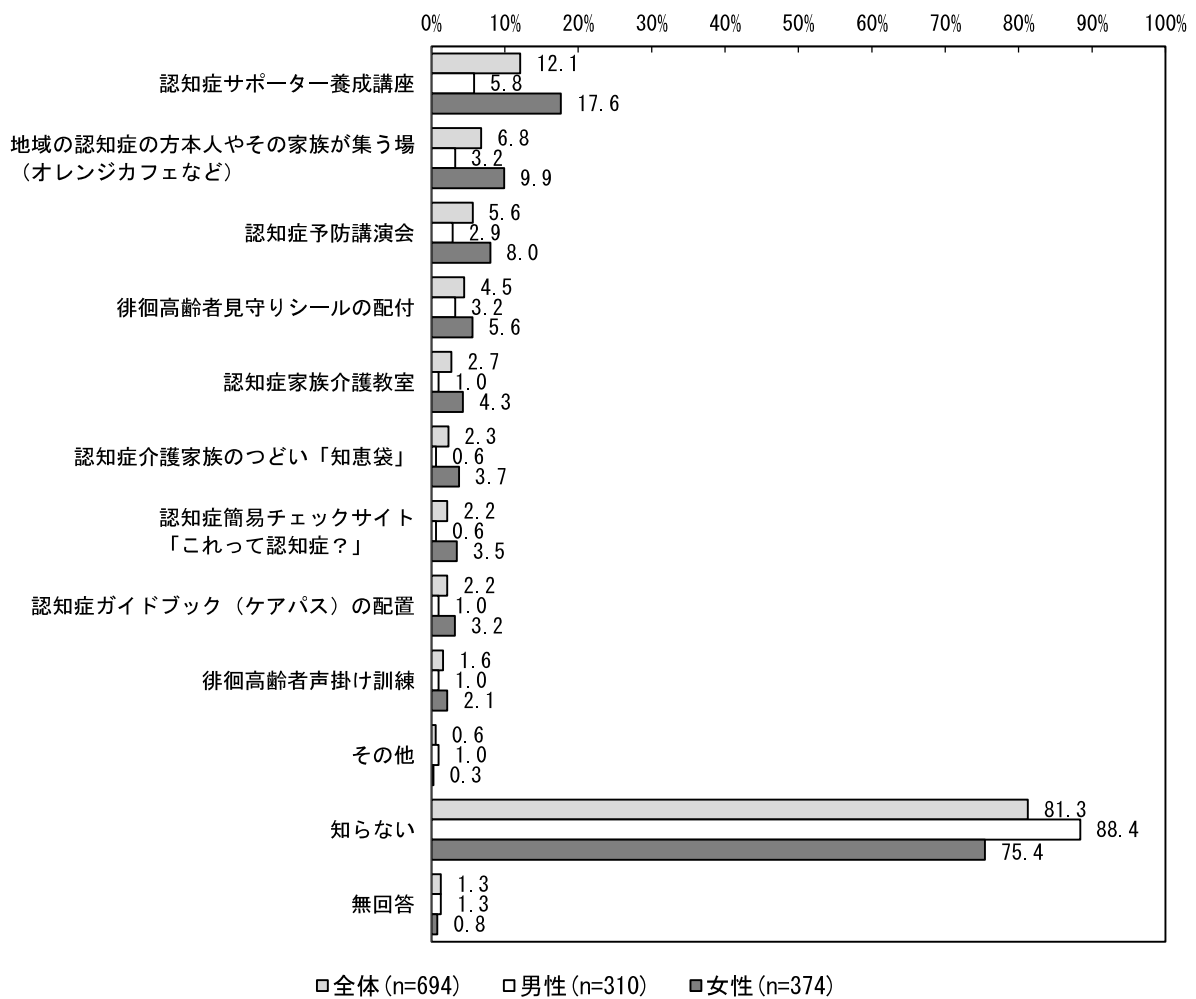
年代別でみると、40代及び50代では、「知らない」が58.6%、50.6%と最も多く、次いで「市役所」が33.5%、36.5%となっており、60代では、「地域包括支援センター」が49.6%と最も多く、次いで「市役所」が46.9%となっています。



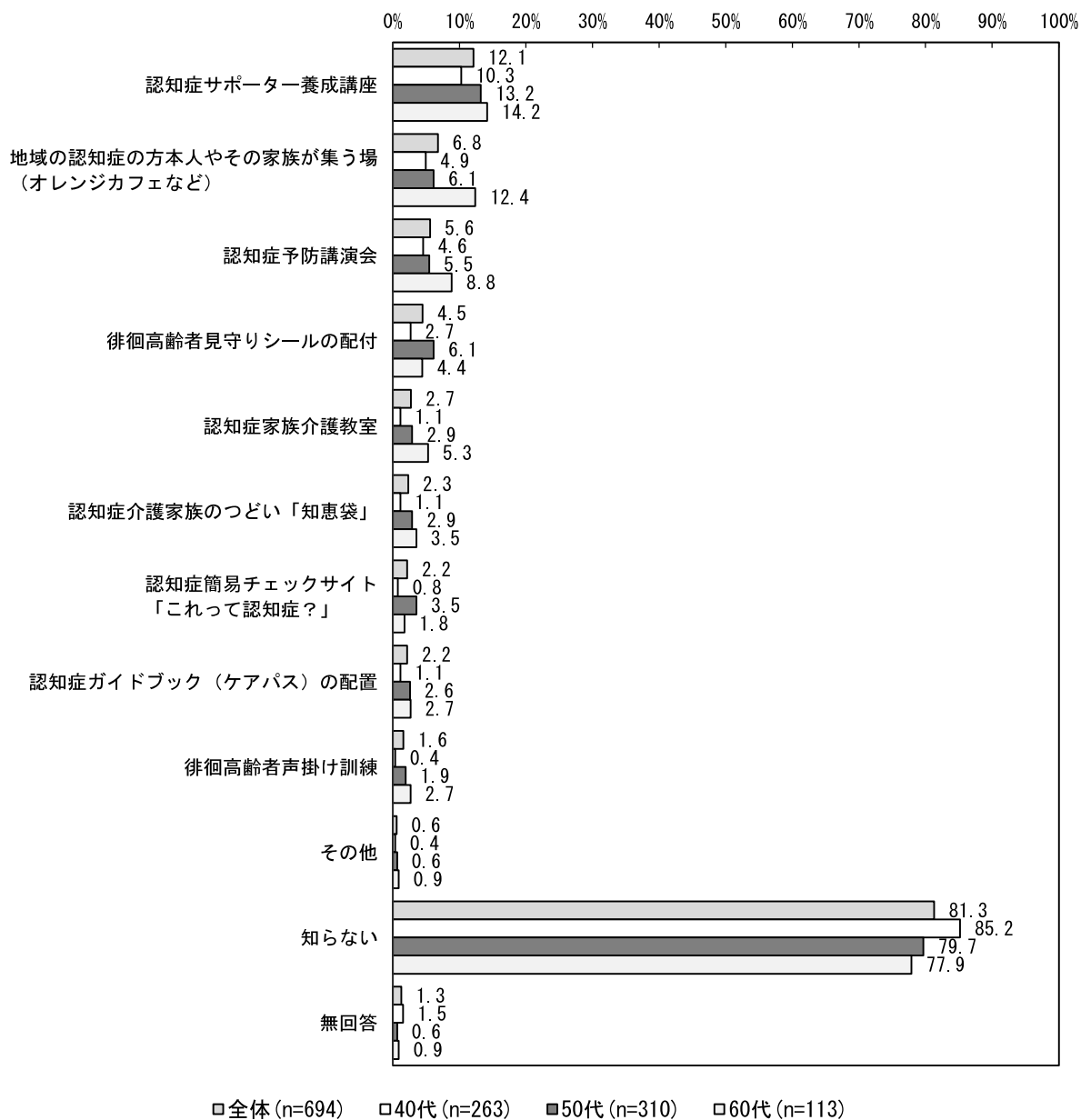
(2) 市の認知症に対する取組のうち、知っているものはありますか。(いくつでも)

全体では、「知らない」が81.3%と最も多く、次いで「認知症サポーター養成講座」が12.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「知らない」がそれぞれ88.4%、75.4%と最も多く、次いで「認知症サポーター養成講座」がそれぞれ5.8%、17.6%となっています。



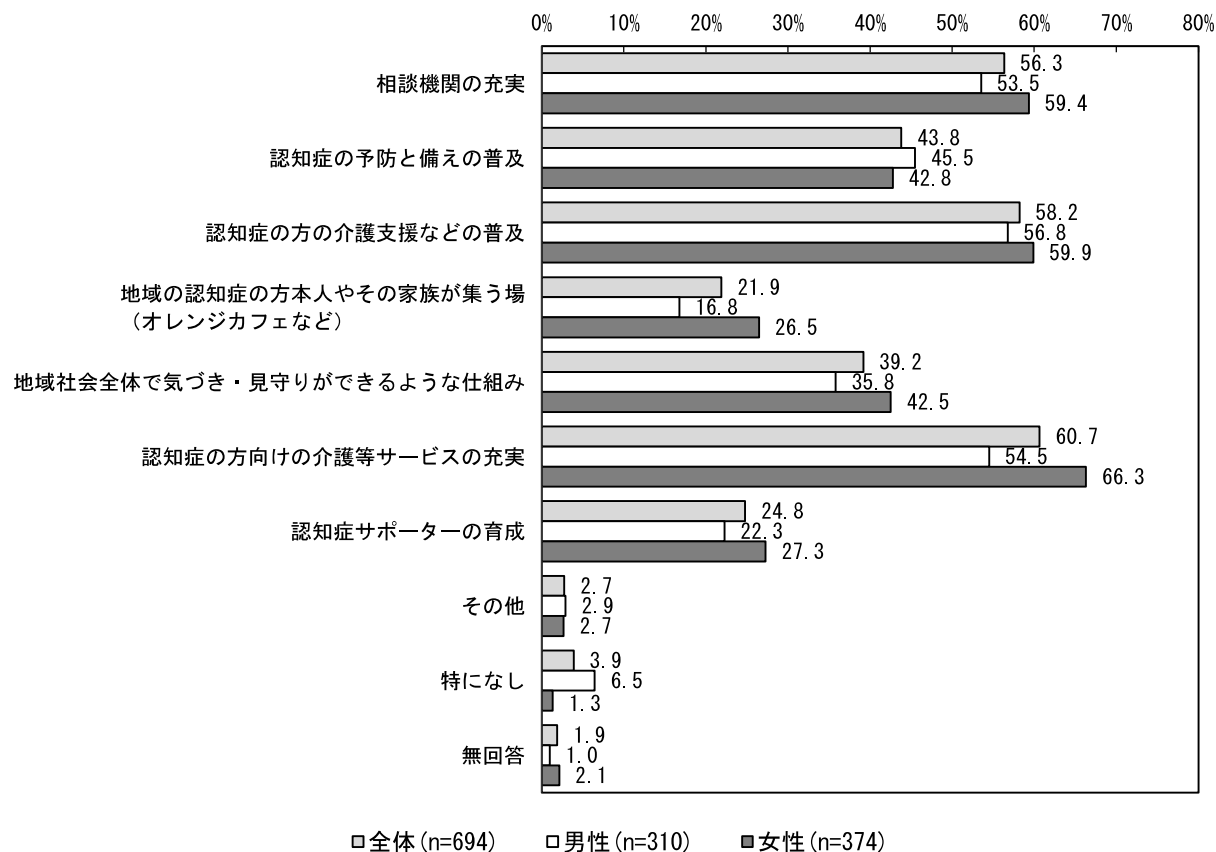
年代別でみると、40代、50代、60代ともに「知らない」がそれぞれ85.2%、79.7%、77.9%と最も多く、次いで「認知症サポーター養成講座」がそれぞれ10.3%、13.2%、14.2%となっています。



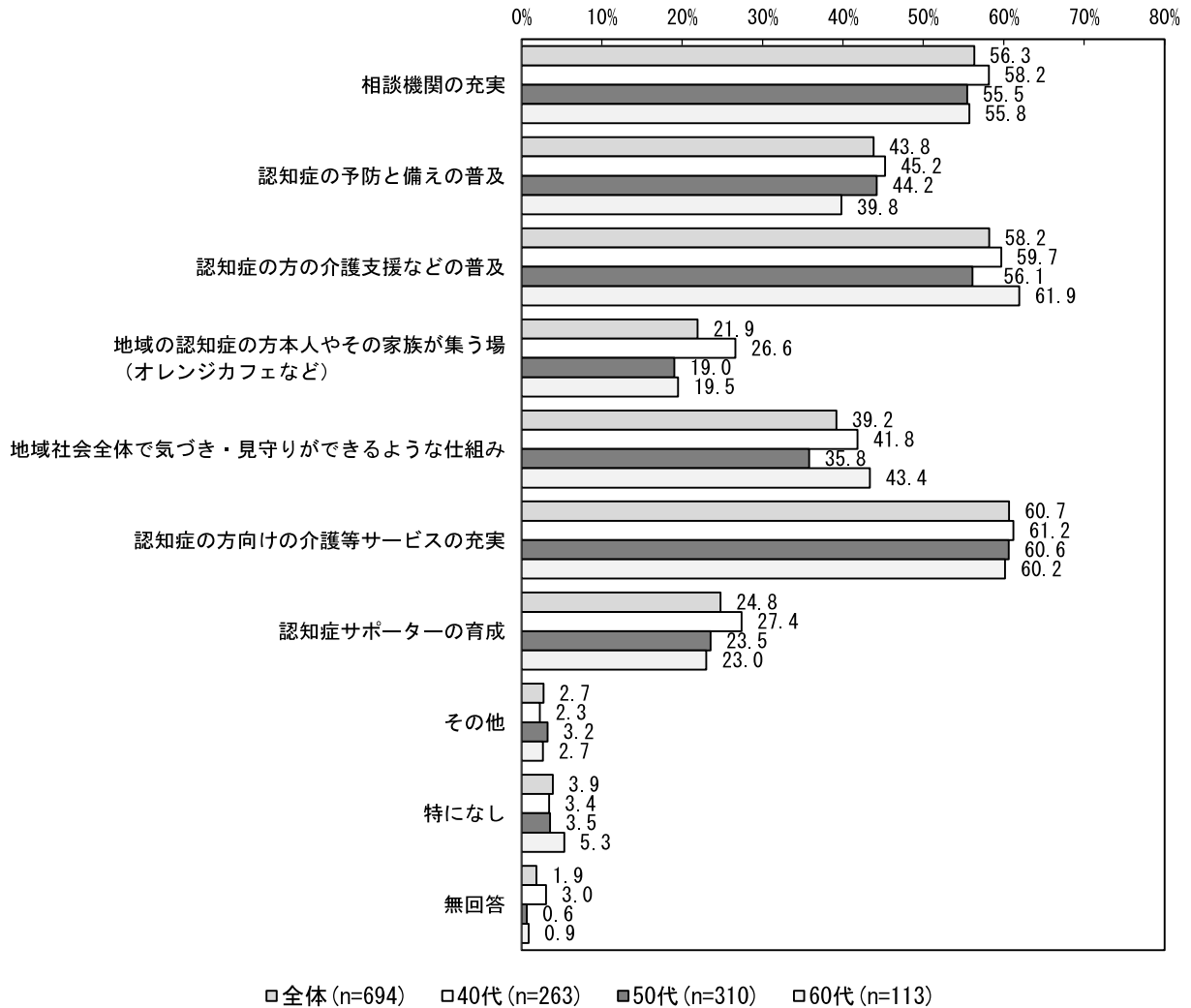
(3) 認知症に対する取組として必要だと思うことはありますか。(いくつでも)

全体では、「認知症の方向けの介護等サービスの充実」が60.7%と最も多く、次いで「認知症の方の介護支援などの普及」が58.2%となっています。

性別でみると、男性では、「認知症の方の介護支援などの普及」が56.8%と最も多く、次いで「認知症の方向けの介護等サービスの充実」が54.5%となっており、女性では、「認知症の方向けの介護等サービスの充実」が66.3%と最も多く、次いで「認知症の方の介護支援などの普及」が59.9%となっています。



年代別でみると、40代及び50代では、「認知症の方向けの介護等サービスの充実」がそれぞれ61.2%、60.6%と最も多く、次いで「認知症の方の介護支援などの普及」がそれぞれ59.7%、56.1%となっており、60代では、「認知症の方の介護支援などの普及」が61.9%と最も多く、次いで「認知症の方向けの介護等サービスの充実」が60.2%となっています。

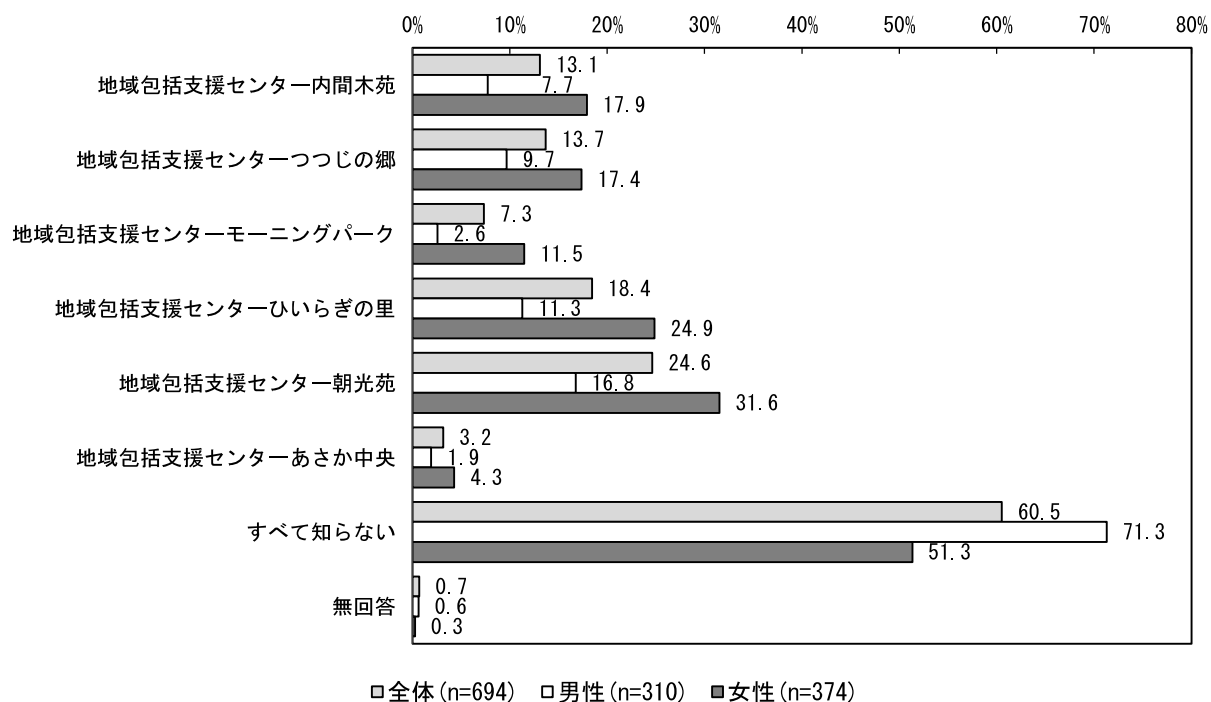


【問7 地域包括支援センターについて】

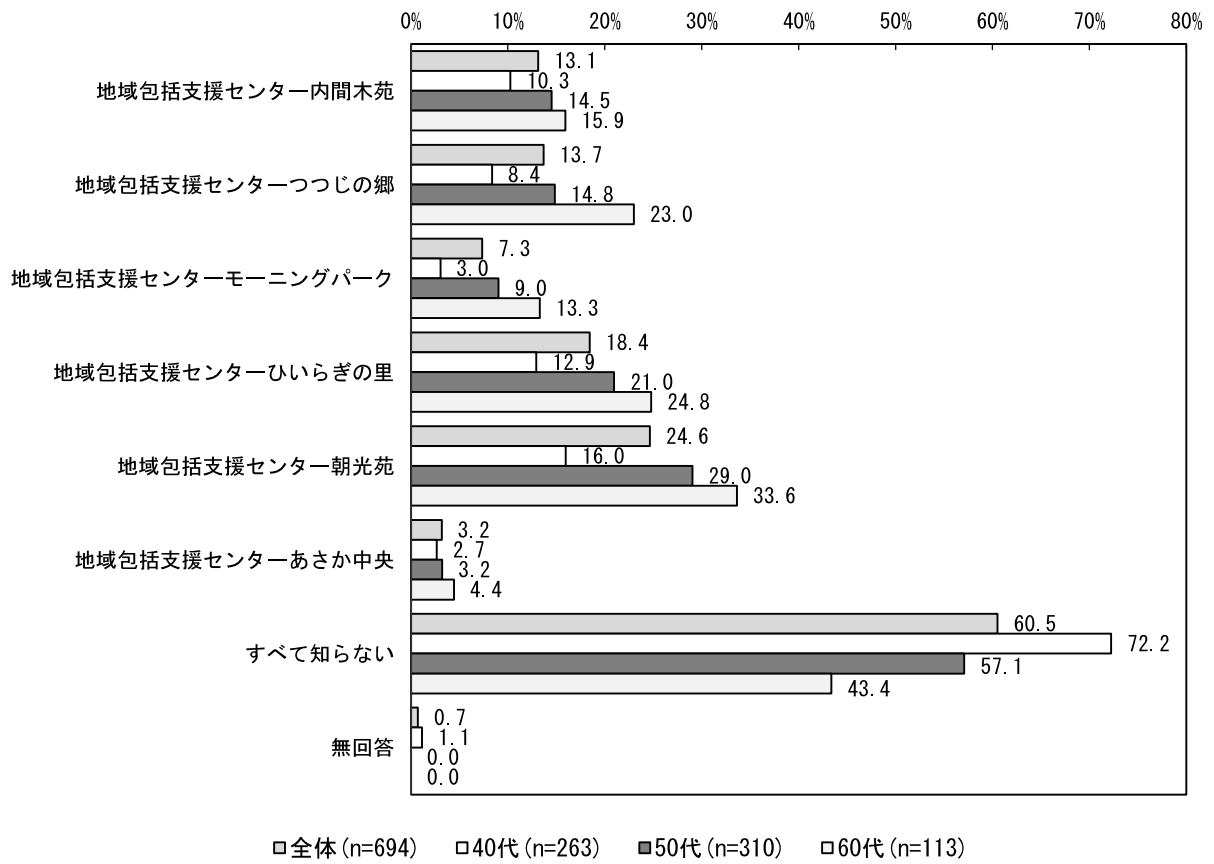
(1) ご存知の地域包括支援センターはどこですか。(いくつでも)

全体では、「すべて知らない」が60.5%と最も多く、次いで「地域包括支援センター朝光苑」が24.6%となっています。

性別でみると、男女ともに「すべて知らない」がそれぞれ71.3%、51.3%と最も多く、次いで「地域包括支援センター朝光苑」がそれぞれ16.8%、31.6%となっています。



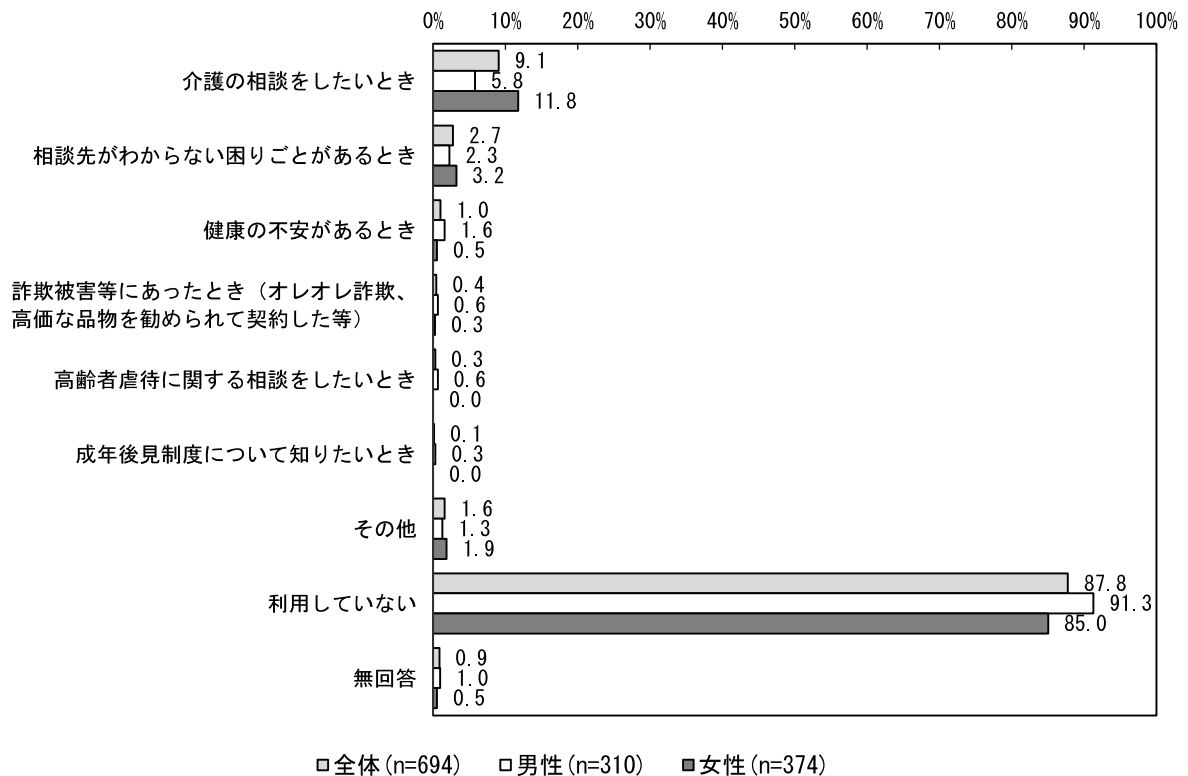
年代別で見ると、40代、50代、60代ともに「すべて知らない」がそれぞれ72.2%、57.1%、43.4%と最も多く、次いで「地域包括支援センター朝光苑」がそれぞれ16.0%、29.0%、33.6%となっています。



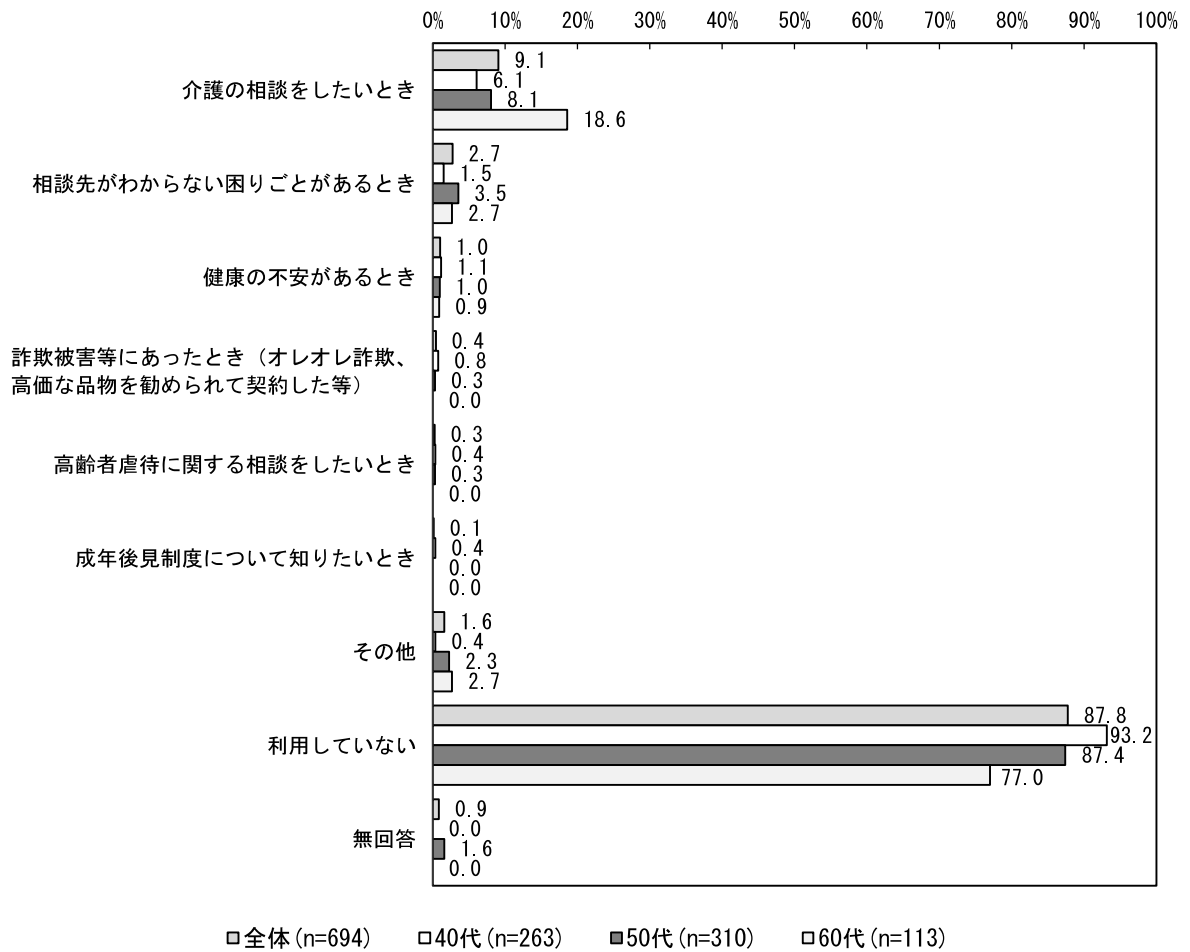
(2) どのようなときに地域包括支援センターを利用していますか、または利用しましたか。
(いくつでも)

全体では、「利用していない」が87.8%と最も多く、次いで「介護の相談をしたいとき」が9.1%となっています。

性別でみると、男女ともに「利用していない」がそれぞれ91.3%、85.0%と最も多く、次いで「介護の相談をしたいとき」がそれぞれ5.8%、11.8%となっています。



年代別でみると、40代、50代、60代ともに「利用していない」がそれぞれ93.2%、87.4%、77.0%と最も多く、次いで「介護の相談をしたいとき」がそれぞれ6.1%、8.1%、18.6%となっています。

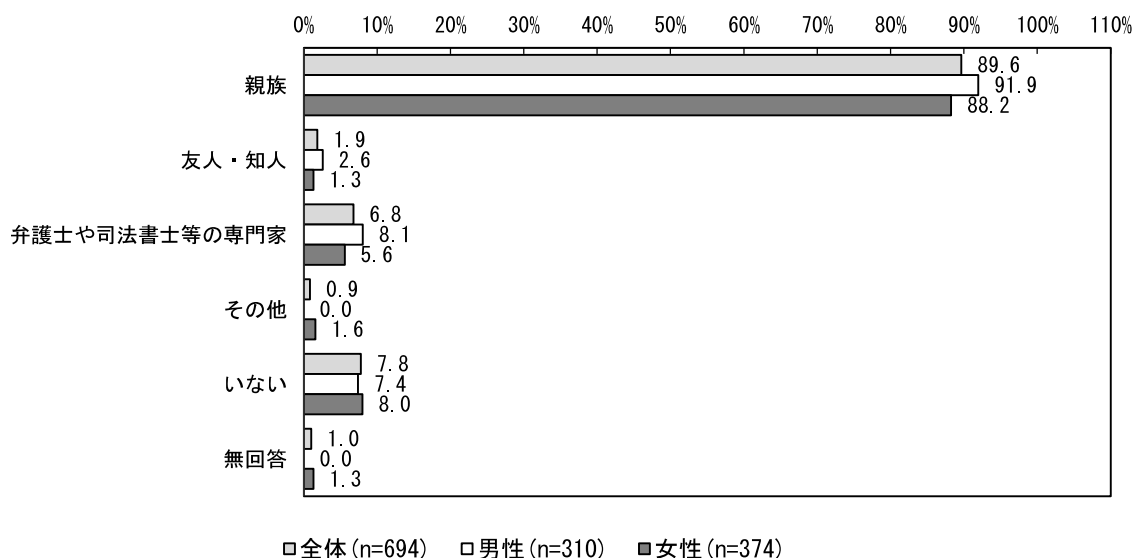


【問8 成年後見制度について】

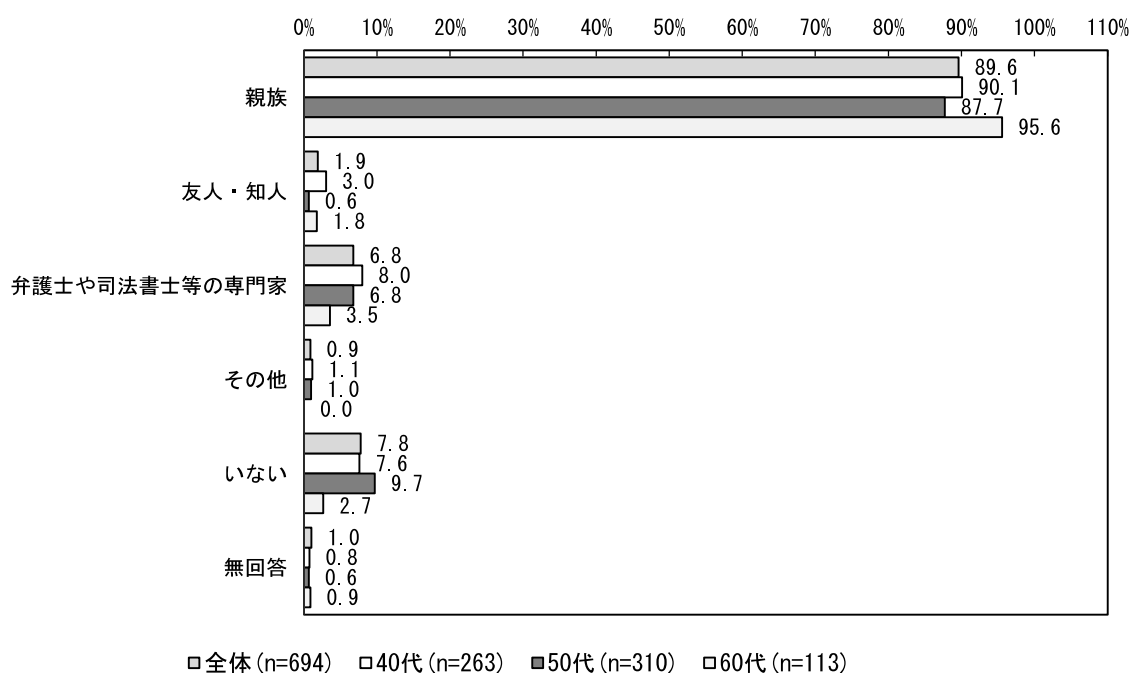
(1) 意思判断能力を失った場合、金銭管理や各種契約手続きを任せられる方はどなたですか。(いくつでも)

全体では、「親族」が89.6%と最も多く、次いで「いない」が7.8%となっています。

性別でみると、男性では、「親族」が91.9%と最も多く、次いで「弁護士や司法書士等の専門家」が8.1%となっており、女性では、「親族」が88.2%と最も多く、次いで「いない」が8.0%となっています。



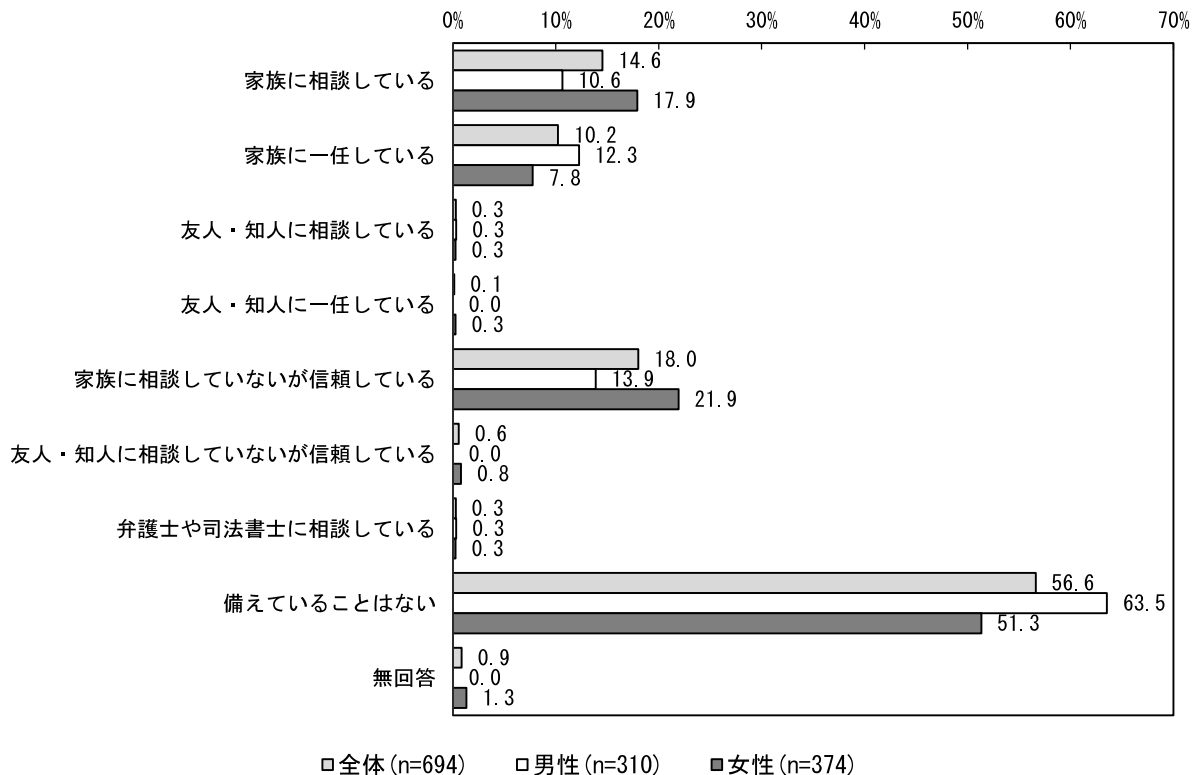
年代別でみると、40代及び60代では、「親族」がそれぞれ90.1%、95.6%と最も多く、次いで「弁護士や司法書士等の専門家」がそれぞれ8.0%、3.5%となっており、50代では、「親族」が87.7%と最も多く、次いで「いない」が9.7%となっています。



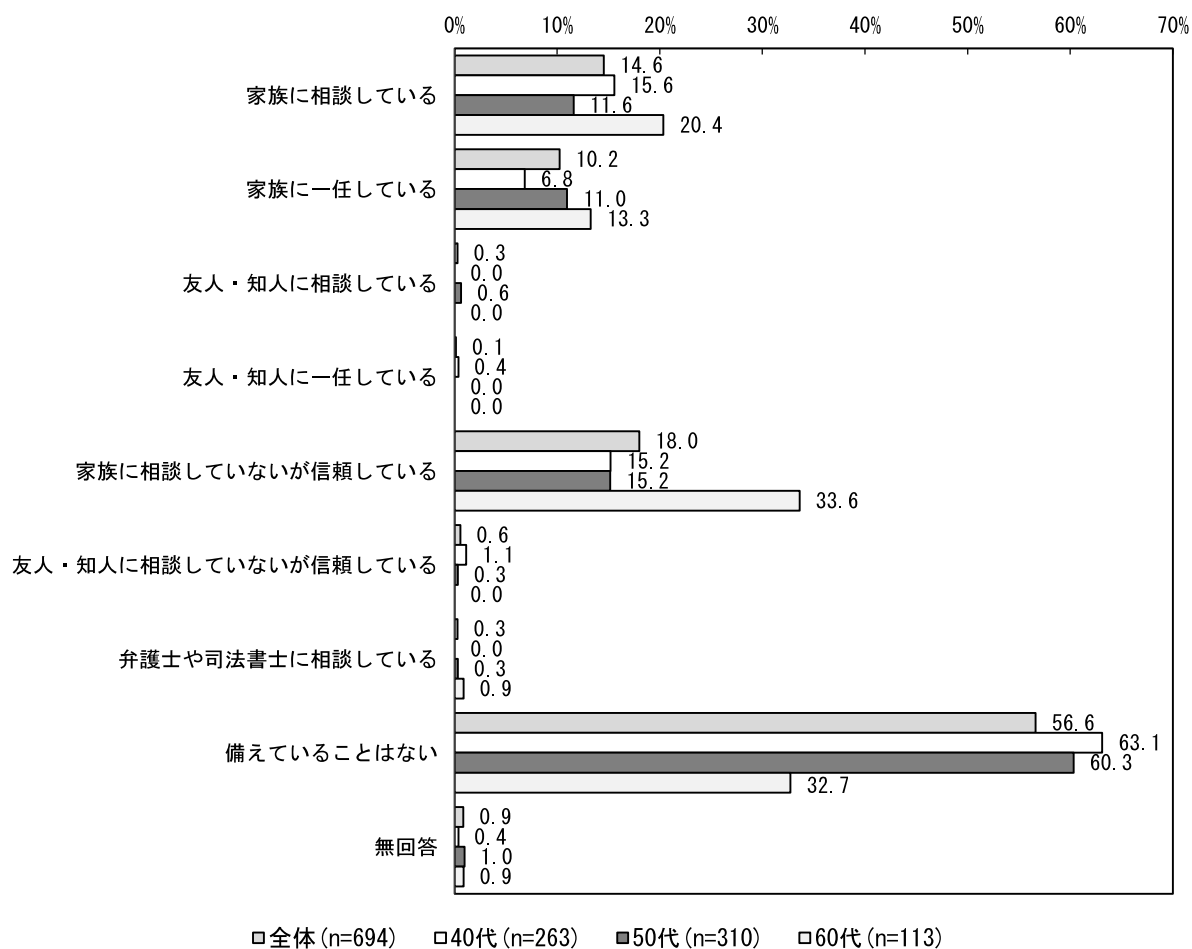
(2) 意思判断能力を失った時に備えていることはありますか。(〇は1つ)

全体では、「備えていることはない」が56.6%と最も多く、次いで「家族に相談していないが信頼している」が18.0%となっています。

性別で見ると、男性では、「備えていることはない」が63.5%と最も多く、次いで「家族に相談していないが信頼している」が13.9%となっており、女性では、「備えていることはない」が51.3%と最も多く、次いで「家族に相談していないが信頼している」が21.9%となっています。



年代別でみると、40代では、「備えていることはない」が63.1%と最も多く、次いで「家族に相談している」が15.6%となっており、50代では、「備えていることはない」が60.3%と最も多く、次いで「家族に相談していないが信頼している」が15.2%となっています。また、60代では、「家族に相談していないが信頼している」が33.6%と最も多く、次いで「備えていることはない」が32.7%、「家族に相談している」が20.4%となっています。

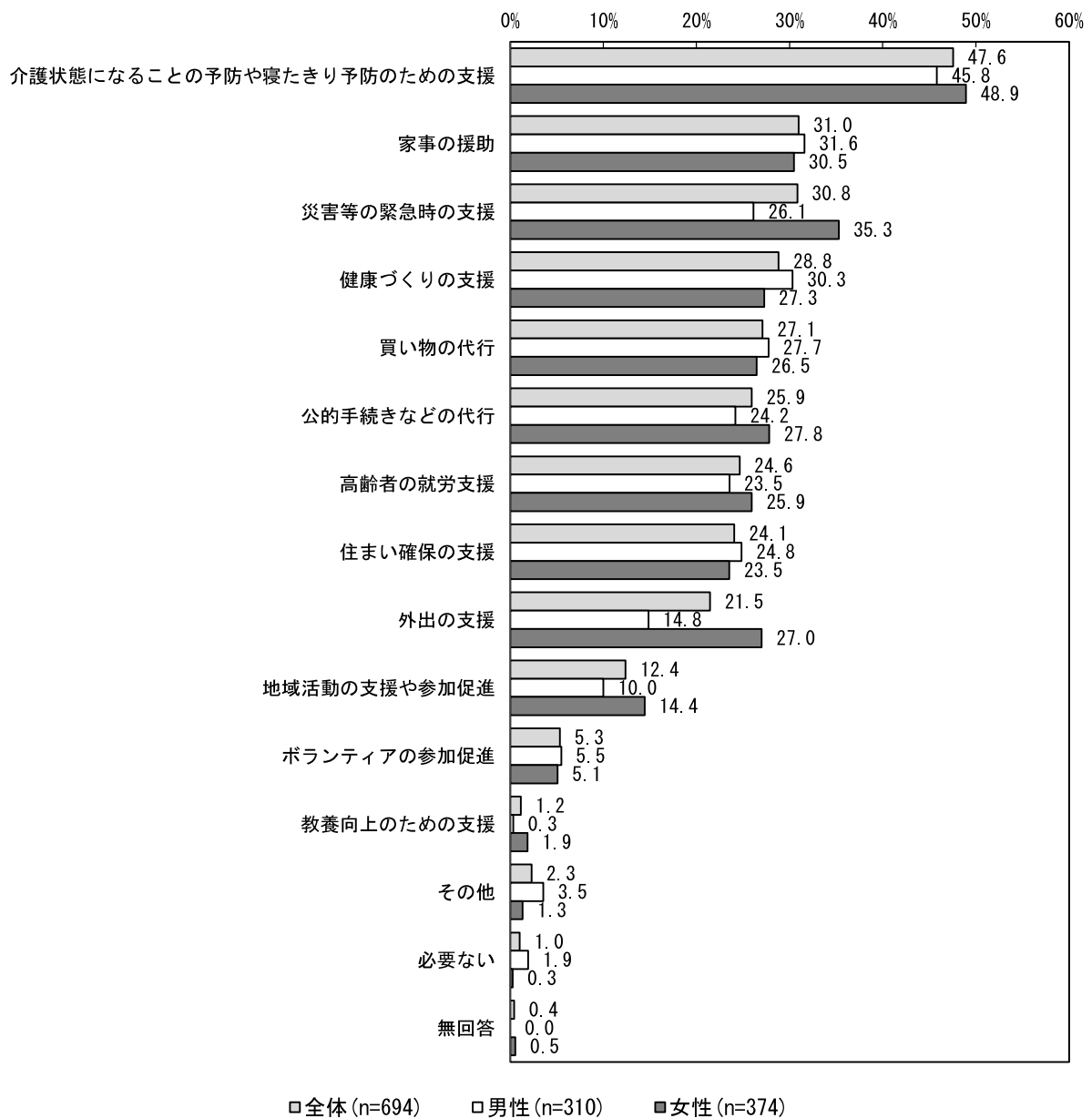


【問9 高齢者福祉の支援等について】

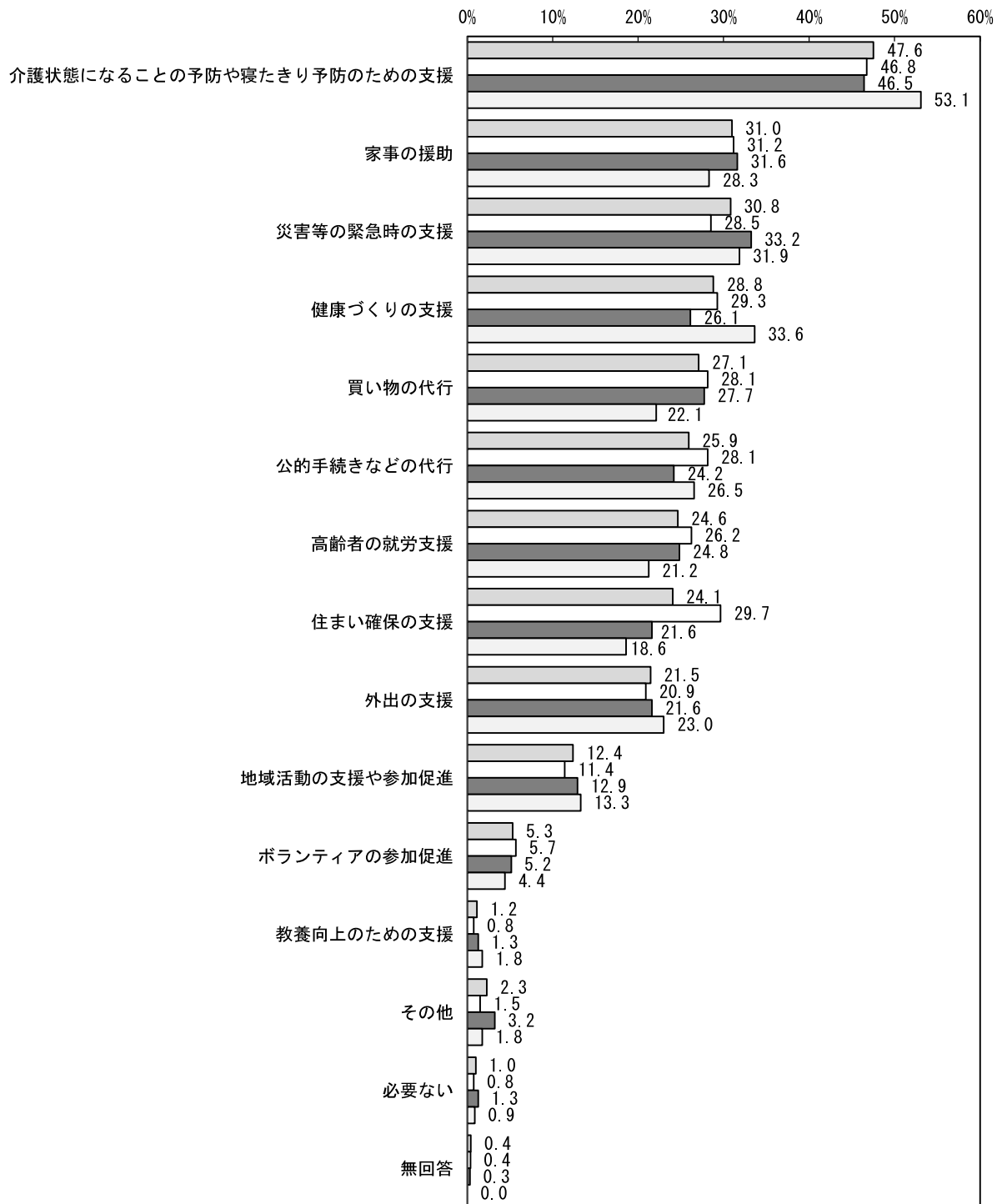
(1) 高齢者にとって、住みやすい生活環境を整備するためには、どのような支援が特に必要だと思いますか。(〇は3つまで)

全体では、「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」が47.6%と最も多く、次いで「家事の援助」が31.0%となっています。

性別で見ると、男性では、「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」が45.8%と最も多く、次いで「家事の援助」が31.6%となっており、女性では、「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」が48.9%と最も多く、次いで「災害等の緊急時の支援」が35.3%となっています。



年代別でみると、40代では、「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」が46.8%と最も多く、次いで「家事の援助」が31.2%となっており、50代では、「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」が46.5%と最も多く、次いで「災害等の緊急時の支援」が33.2%となっています。また、60代では、「介護状態になることの予防や寝たきり予防のための支援」が53.1%と最も多く、次いで「健康づくりの支援」が33.6%となっています。

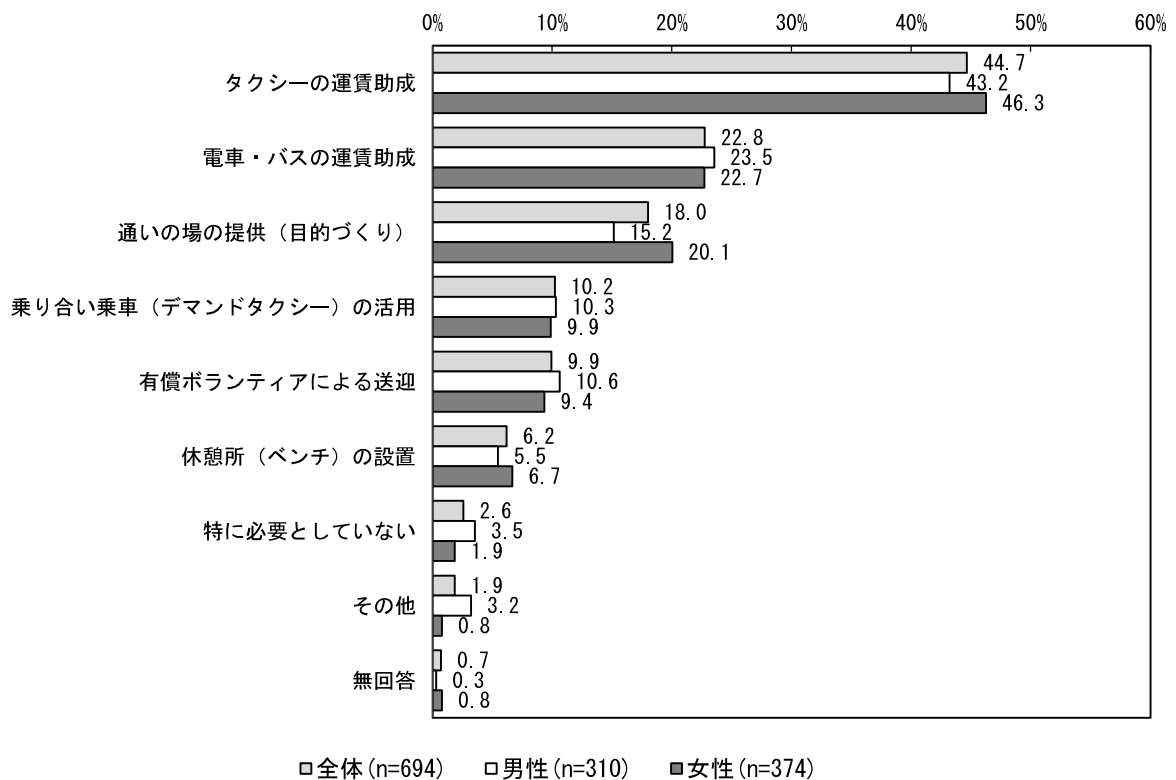


□全体 (n=694) □40代 (n=263) ■50代 (n=310) □60代 (n=113)

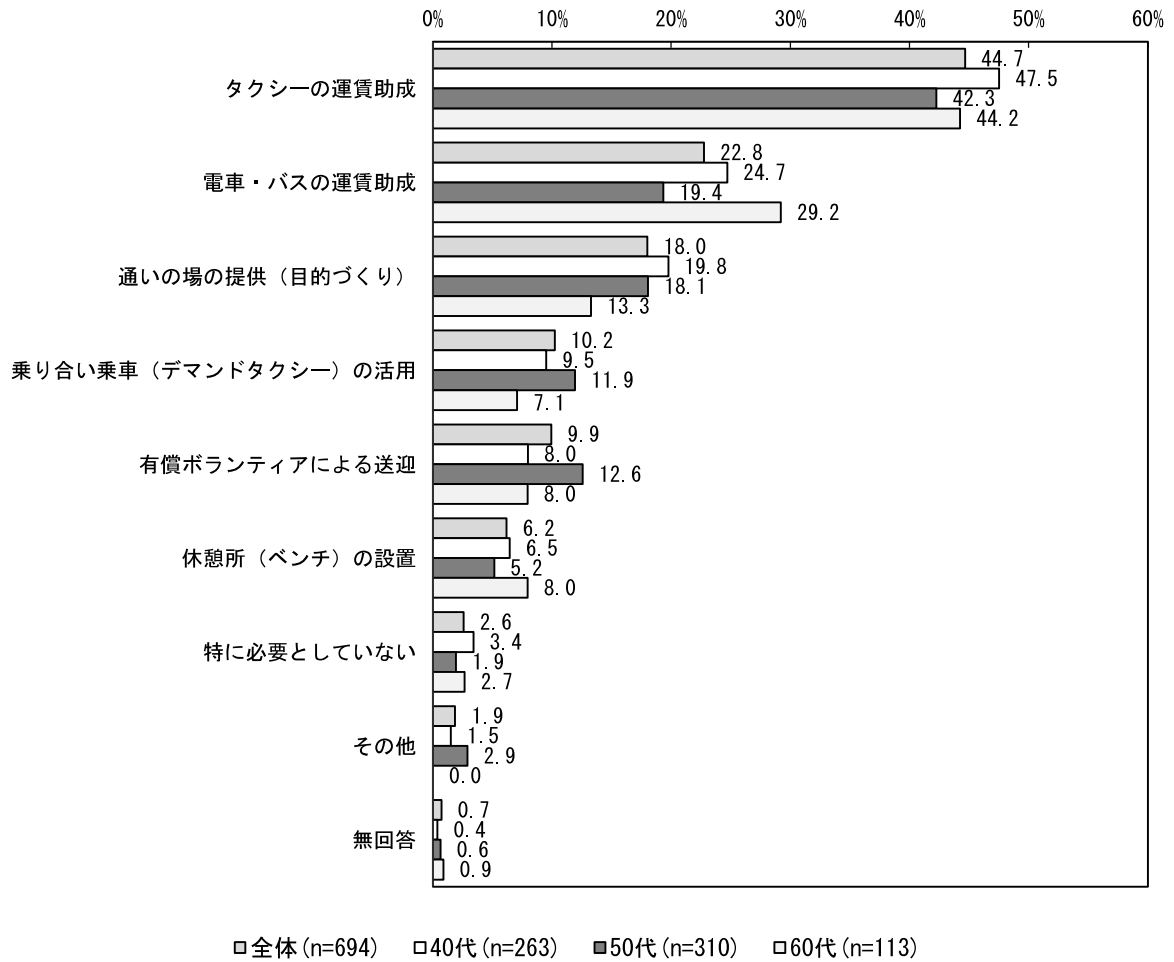
(2) 外出支援を目的とした事業のうち、特に望むものは何ですか。(〇は1つ)

全体では、「タクシーの運賃助成」が44.7%と最も多く、次いで「電車・バスの運賃助成」が22.8%となっています。

性別で見ると、男女ともに「タクシーの運賃助成」がそれぞれ43.2%、46.3%と最も多く、次いで「電車・バスの運賃助成」がそれぞれ23.5%、22.7%となっています。



年代別でみると、40代、50代、60代ともに「タクシーの運賃助成」がそれぞれ47.5%、42.3%、44.2%と最も多く、次いで「電車・バスの運賃助成」がそれぞれ24.7%、19.4%、29.2%となっています。



4) 在宅生活改善調査結果

【事業所票】

問1 貴事業所に所属するケアマネジャーの人数、および利用者数について、ご記入ください。

市内を拠点とする居宅介護支援サービスを展開する30事業所の状況を確認したところ、93人のケアマネジャーが活躍しています。また、居宅介護支援サービスの利用者は2,351人で、そのうち、「自宅等」にお住いの利用者が2,282人(97.1%)、「サービス付き高齢者住宅」及び「住宅型有料老人ホーム」及び「軽費老人ホーム」にお住まいの方が69人(2.9%)となっています。

単位：人・%

所属するケアマネジャーの人数	93
「自宅等（「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」を除く）」にお住まいの利用者数	2,282 (97.1)
「サ高住」・「住宅型有料」・「軽費老人ホーム」にお住まいの利用者数	69 (2.9)

問2 貴事業所において、過去1年の間に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から、居場所を変更した利用者数」を要介護度別にご記入ください。

過去1年間に居所変更した利用者は298人で、利用者総数(2,351人)の12.7%を占めています。

居所変更した利用者を要介護度別でみると、「要介護1」の方が89人(29.9%)と最も多く、次いで「要介護2」の方が68人(22.8%)となっており、「要介護1」と「要介護2」を合わせると全体の半分以上となっています。

要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
9人	15人	89人	68人	54人	42人	21人	298人
3.0%	5.0%	29.9%	22.8%	18.1%	14.1%	7.0%	-

問3 貴事業所において、過去1年の間に「自宅等（サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームを除く）から居場所を変更した利用者数」を行き先別に記入ください。

過去1年の間に居所変更された利用者の行き先では、「介護老人保健施設」が68人（14.7%）と最も多く、次いで「特別養護老人ホーム」が40人（8.6%）となっています。また、搬送先や行き先で亡くなられた方は166人（35.8%）となっています。

単位：人・%

項目	市内	市外	合計	
	人数	人数	人数	割合
兄弟・子ども・親戚等の家	3	5	8	1.7
住宅型有料老人ホーム	5	23	28	6.0
軽費老人ホーム（特定施設除く）	1	0	1	0.2
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	4	20	24	5.2
グループホーム	15	1	16	3.4
特定施設	7	10	17	3.7
地域密着型特定施設	0	0	0	0.0
介護老人保健施設	62	6	68	14.7
療養型・介護医療院	1	4	5	1.1
特別養護老人ホーム	31	9	40	8.6
地域密着型特別養護老人ホーム	4	0	4	0.9
その他	11	5	16	3.4
行き先を把握していない	-		71	15.3
死亡（※ 搬送先での死亡を含む）	-		166	35.8
合計	144	83	464	-

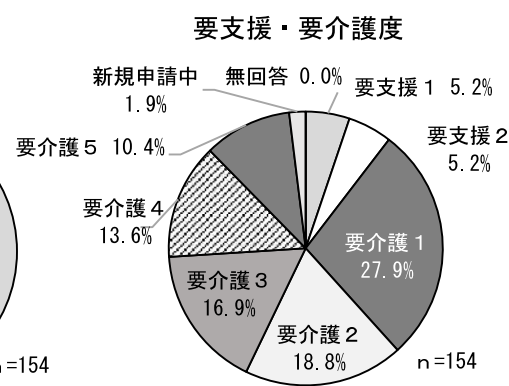
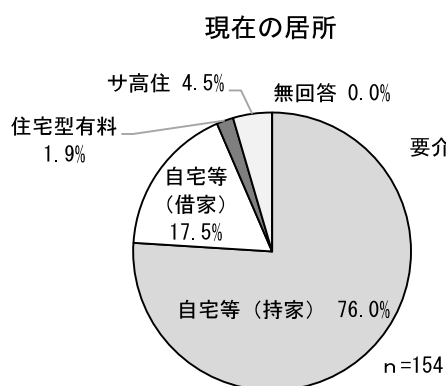
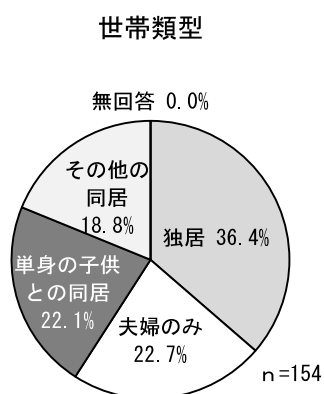
【利用者票】

問1 対象となる利用者の状況等について、お伺いします。

- (1) 世帯類型
- (2) 現在の居所
- (3) 要支援・要介護度

対象となる利用者の属性は以下のとおりです。

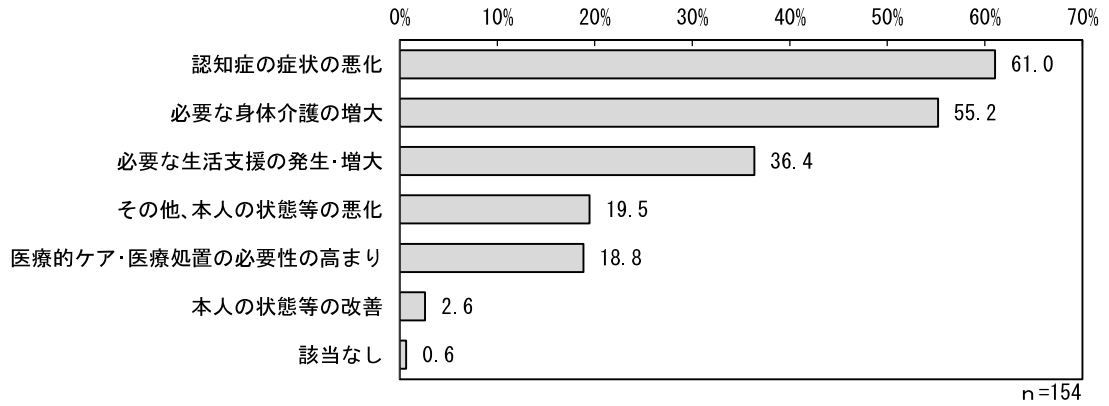
世帯類型では、「独居」が36.4%と最も多く、次いで「夫婦のみ」が22.7%、「単身の子供との同居」が22.1%、「その他の同居」が18.8%となっており、現在の居所では、「自宅等（持家）」が76.0%と最も多く、次いで「自宅等（借家）」が17.5%となっています。要支援・要介護度をみると、「要介護1」が27.9%と最も多く、次いで「要介護2」が18.8%となっています。



問2 現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている理由について、お伺いします。

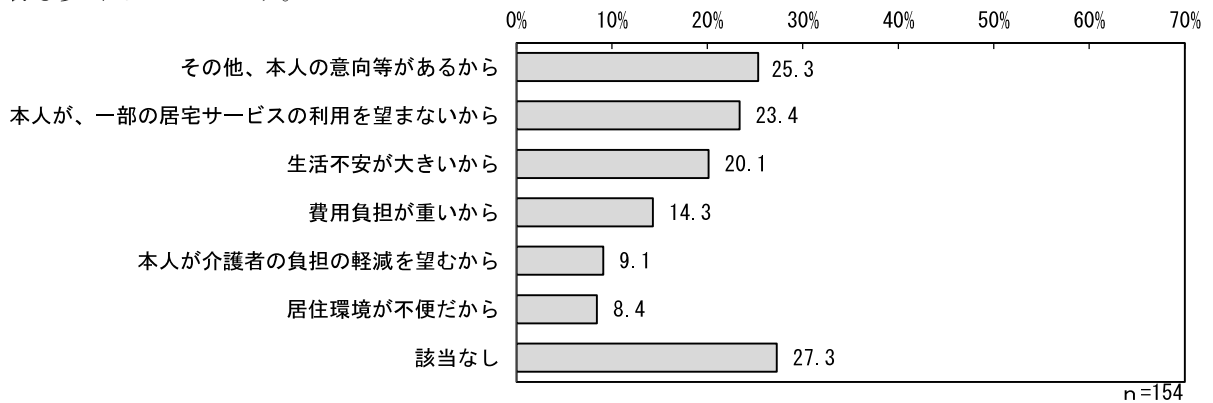
(1) 本人の状態等に属する理由について、お答えください。

本人の状態等に属する理由は、「認知症の症状の悪化」が61.0%と最も多くなっています。



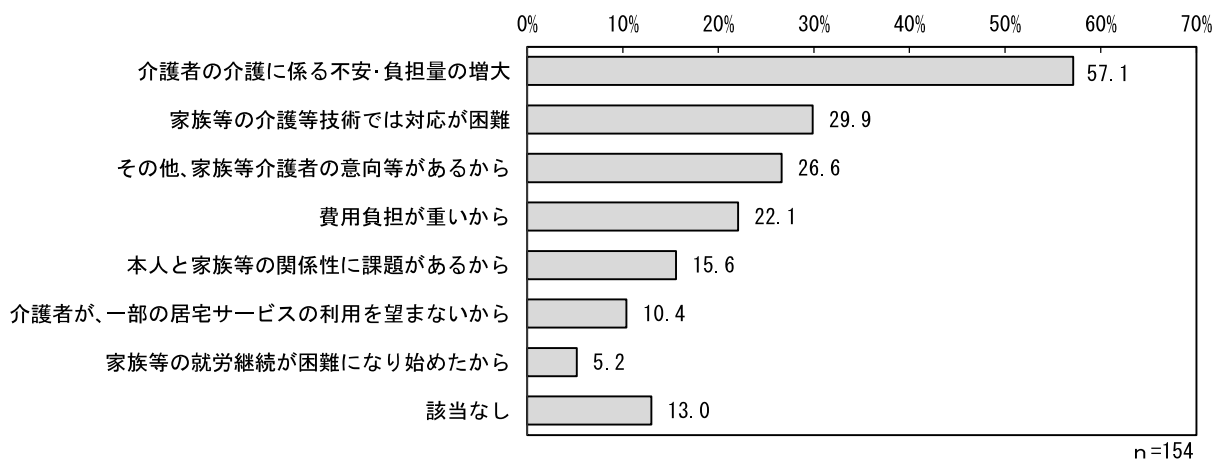
(2) 主に本人の意向等に属する理由について、お答えください。

本人の意向等に属する理由は、「該当なし」を除き、「その他、本人の意向等があるから」が25.3%と最も多くなっています。



(3) 主に家族等介護者の意向・負担等に属する理由について、お答えください。

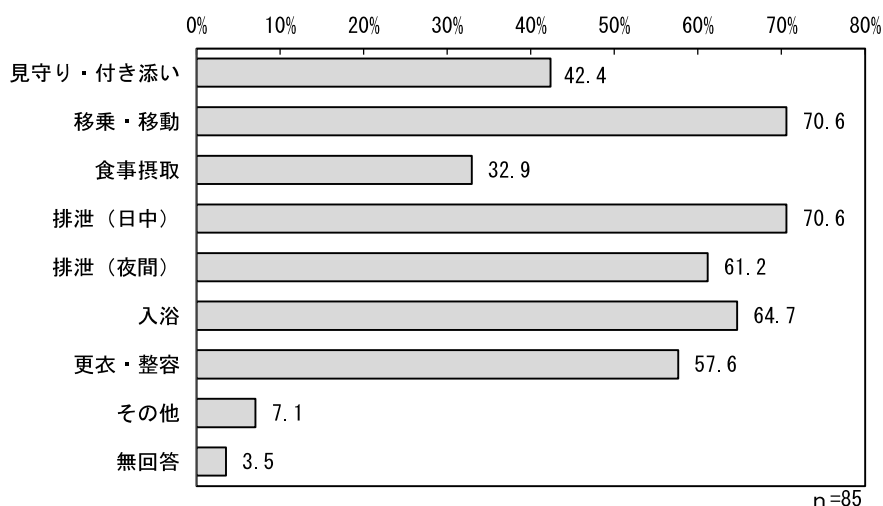
家族等介護者の意向・負担等に属する理由は、「介護者の介護に係る不安・負担量の増大」が57.1%と最も多くなっています。



【問2（1）で「必要な身体介護の増大」を選択の場合】

（4）理由となる、具体的な「身体介護」をお答えください。

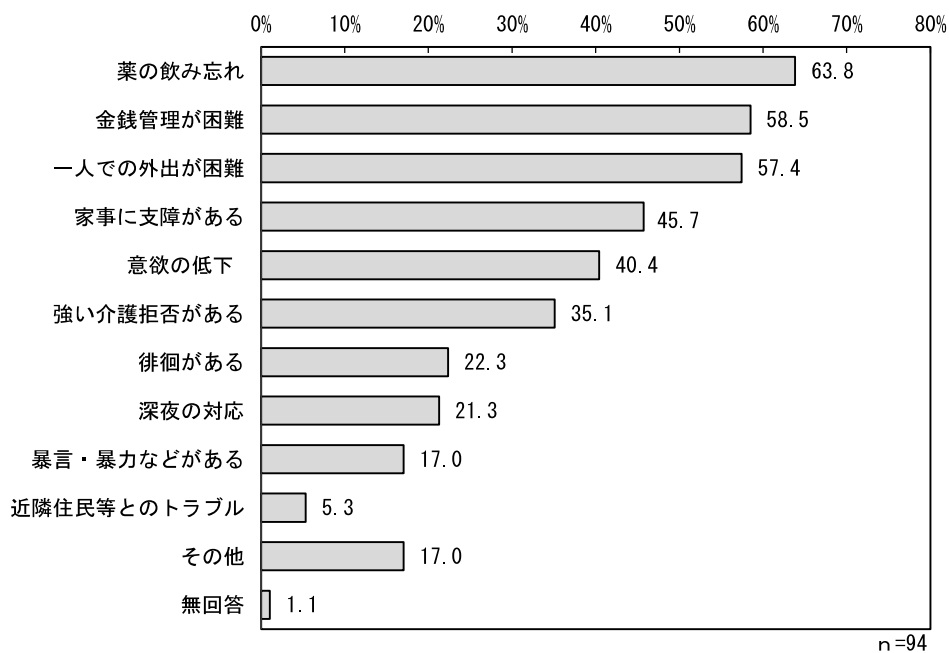
具体的な身体介護は、「移乗・移動」及び「排泄（日中）」がそれぞれ70.6%と最も多くなっており、次いで「入浴」が64.7%となっています。



【問2（1）で「認知症の症状の悪化」を選択の場合】

（5）理由となる、具体的な「認知症の症状」をお答えください。

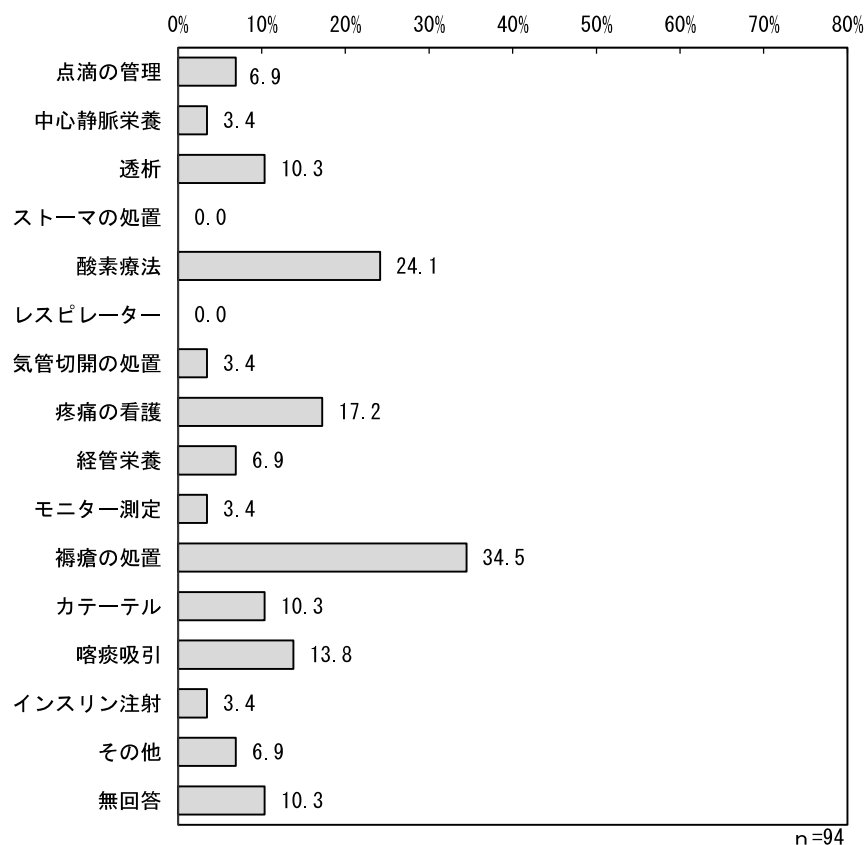
具体的な認知症の症状は、「薬の飲み忘れ」が63.8%と最も多く、次いで「金銭管理が困難」が58.5%となっています。



【問2（1）で「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」を選択の場合】

（6）理由となる、具体的な「医療的ケア」、「医療処置」をお答えください。

具体的な医療的ケア、医療処置は、「褥瘡の処置」が34.5%と最も多く、次いで「酸素療法」が24.1%となっています。



問3 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況を改善するための、サービス利用の変更等について、お伺いします。

(1) 「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている」状況に対して、どのようなサービスに変更することで改善できると思いますか。

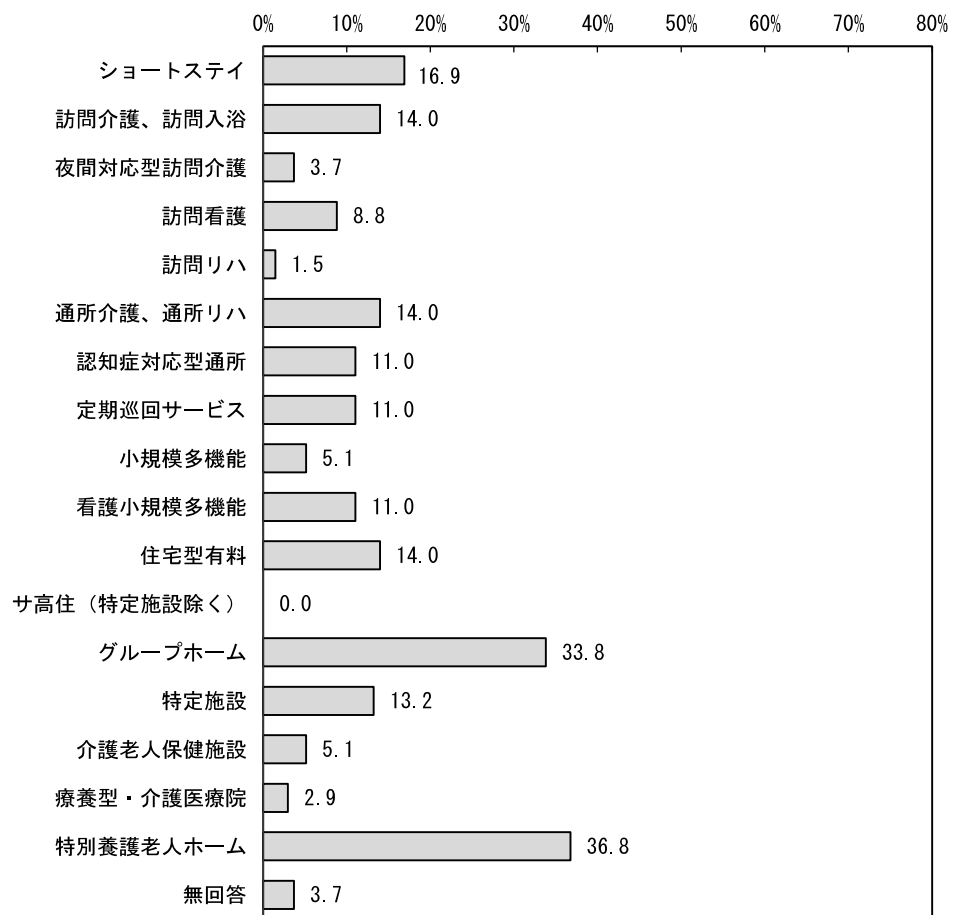
改善が見込めるサービスは、“より適切な「住まい・施設等」に変更する”が83人(53.9%)と最も多く、次いで“より適切な「在宅サービス」もしくは「住まい・施設等」に変更する”が27人(17.5%)となっています。

単位：人・%

項目	人数	割合
より適切な「在宅サービス」に変更する	26	16.9
より適切な「住まい・施設等」に変更する	83	53.9
より適切な「在宅サービス」もしくは「住まい・施設等」に変更する	27	17.5
上記では改善は難しいと思う	18	11.7

(2) 問3(1)で選択したサービス利用の変更について、本来であればより適切と思われる具体的なサービスをお答えください。

適切と思われる具体的なサービスは、「特別養護老人ホーム」が36.8%と最も多く、次いで「グループホーム」が33.8%となっています。

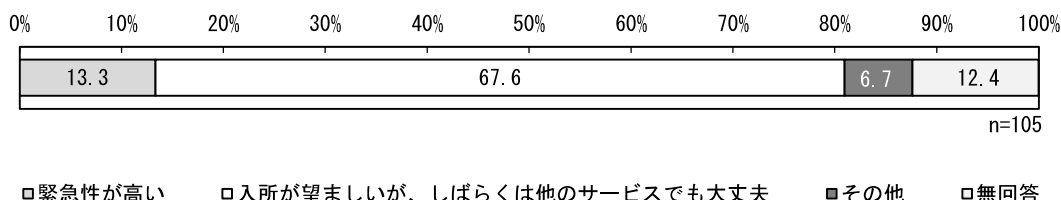


n=136

【問3（2）で「住まい・施設等」を選択の場合】

（3）利用者の入所・入居の緊急度をお答えください。

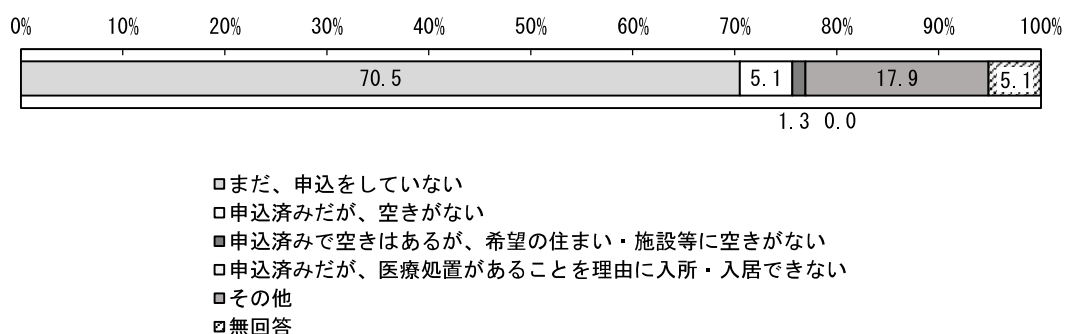
「住まい・施設等」へのサービス変更の緊急度については、「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」が67.6%と最も多く、次いで「緊急性が高い」が13.3%となっています。



【問3（2）で「住まい・施設等」（※特別養護老人ホーム以外）を選択の場合】

（4）入所・入居できていない理由をお答えください。

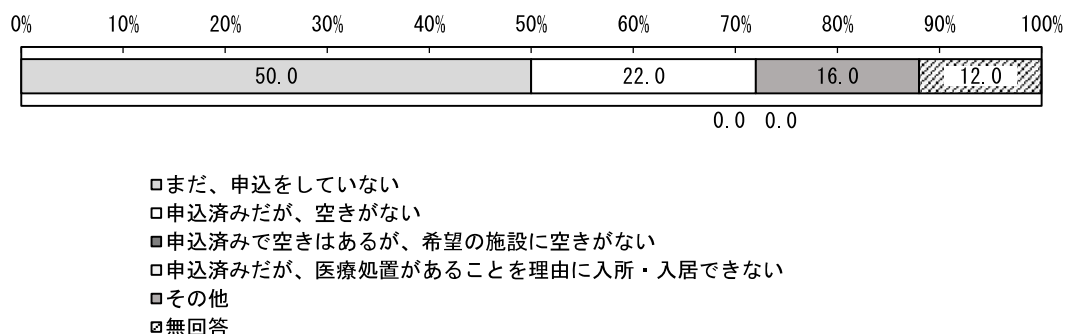
特養を除く「住まい・施設等」へ入所・入居できていない理由では、「まだ、申込をしていない」が70.5%と最も多くなっています。



【問3（2）で「特別養護老人ホーム」を選択の場合】

（5）特養に入所できていない理由をお答えください。

また、特養へ入所できていない理由では、「まだ、申込をしていない」が50.0%と最も多くなっています。



5) 居所変更実態調査結果

問1 該当するサービス種別を、ご回答ください。(1つに○)

回答した事業所のサービス種別は、「グループホーム」、「特定施設」がそれぞれ5事業所(21.7%)と多くなっています。

単位：事業所・%

サービス種別	事業所数	割合
住宅型有料老人ホーム	2	8.7
軽費老人ホーム(特定施設除く)	0	0.0
サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	2	8.7
グループホーム	5	21.7
特定施設	5	21.7
地域密着型特定施設	0	0.0
介護老人保健施設	2	8.7
介護療養型医療施設・介護医療院	0	0.0
特別養護老人ホーム	2	8.7
地域密着型特別養護老人ホーム	1	4.3
無回答	4	17.4
合計	23	-

問2 貴施設等の概要について、以下にご記入ください。

回答した事業所には、1,106人の方が入所・入居しており、23事業所の定員数に対する入居者数は88.8%となっています。その一方で、298人の方が待機者となっています。また、特別養護老人ホーム以外の施設から特別養護老人ホームへの待機者数(申込者数)は16人となっています。

単位：人

施設等の名称	省略
定員数など	1,073人・58戸・115室/計1,246
入所・入居者数	1,106
(貴施設等の)待機者数	298
特別養護老人ホームの待機者数(申込者数)	16

注) 定員数は1戸=1名、1室=1名として算定しています。

問3 現在の入所・入居者の要支援・要介護度について、ご記入ください。(数値を記入)

施設の入所・入居者の要介護度は、「要介護1」が19.0%と最も多く、次いで「要介護4」が17.6%となっています。

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	申請中・不明	無回答	合計
16人	57人	41人	210人	185人	188人	195人	157人	2人	55人	1,106人
1.4%	5.2%	3.7%	19.0%	16.7%	17.0%	17.6%	14.2%	0.2%	5.0%	-

注) 自立とは、歩行や起き上がりなどの日常生活上の基本的動作を自分で行うことが可能であり、かつ、薬の内服、電話の利用などの手段的日常生活動作を行う能力もある状態をさします。

申請中・不明とは、要介護認定の申請中または要支援・要介護度が不明であることをさします。

問4 以下の医療処置を受けている人数について、ご記入ください。(数値を記入)

施設の入所・入居者のうち医療処置を受けている方は、「経管栄養」が27人(2.4%)と最も多く、次いで「喀痰吸引」が23人(2.1%)となっています。

単位：人・%

種別	人数	割合
点滴の管理	2	0.2
中心静脈栄養	0	0.0
透析	7	0.6
ストーマの処置	8	0.7
酸素療法	9	0.8
レスピレーター	0	0.0
気管切開の処置	0	0.0
疼痛の看護	0	0.0
経管栄養	27	2.4
モニター測定	1	0.1
褥瘡の処置	22	2.0
カテーテル	12	1.1
喀痰吸引	23	2.1
インスリン注射	18	1.6
無回答	977	88.3
合計	1,106	-

問5 過去1年間に、貴施設等に新規で入所・入居した人の人数をご記入ください。

問6 問5でご記入いただいた過去1年間の新規の入所・入居者について、入所・入居する前の居場所別の人数をご記入ください。

各施設への新規入所・入居者数は、合計で339人となっています。

入所・入居する前の居場所をみると、市内が63.2%、市外が31.3%となっています。市内・市外ともに「自宅（兄弟・子ども・親戚等の家含む）」が最も多く、次いで「その他」を除いて、「介護老人保健施設」となっています。

単位：人・%

入所・入居する前の居場所	市内		市外	
	人数	割合	人数	割合
自宅（兄弟・子ども・親戚等の家を含む）	95	28.0	62	18.3
住宅型有料老人ホーム	1	0.3	4	1.2
軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0.0	0	0.0
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	0	0.0	2	0.6
グループホーム	0	0.0	0	0.0
特定施設	0	0.0	5	1.5
地域密着型特定施設	0	0.0	0	0.0
介護老人保健施設	49	14.5	11	3.2
療養型・介護医療院	1	0.3	0	0.0
特別養護老人ホーム	0	0.0	0	0.0
地域密着型特別養護老人ホーム	1	0.3	0	0.0
その他	67	19.8	22	6.5
入居・入所する前の居場所を把握していない	19 (5.6)			
合計	339 (-)			

問7 過去1年間に、貴施設等を退去した人の人数をご記入ください。

問8 問7でご記入いただいた過去1年間の退去者について、要介護度別の人数をご記入ください。

問9 問7でご記入いただいた過去1年間の退去者について、退去先別の人数をご記入ください。

過去1年間に各施設から退去・退所した人数は、合計で404人となっています。

要介護度別で見ると、「要介護5」が17.8%と最も多く、次いで「要介護2」が12.9%となっています。

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	新規申請中	死亡	合計
1人	3人	2人	34人	52人	48人	44人	72人	13人	135人	404人
0.2%	0.7%	0.5%	8.4%	12.9%	11.9%	10.9%	17.8%	3.2%	33.4%	-

注) 新規申請中とは、要介護認定の新規申請中であることをさします。

退去先の市内・市外が判明している200人のうち、市内は70.0%、市外は30.0%となっています。

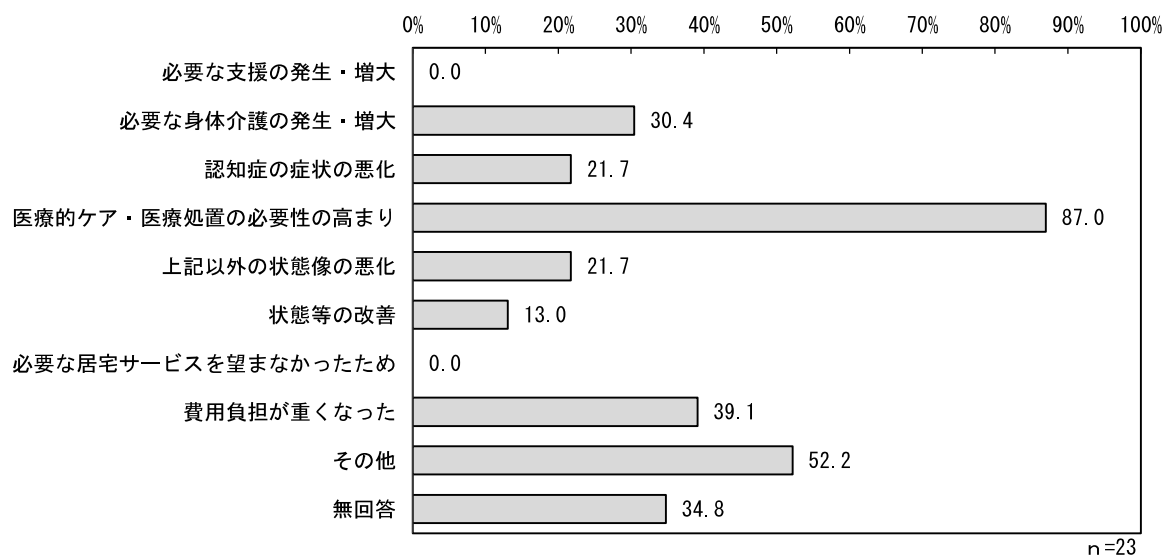
市内では「その他」を除いて“「療養型・介護医療院」を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）”が最も多くなっています。また市外では「特別養護老人ホーム」が最も多くなっています。

単位：人・%

退去先	市内		市外	
	人数	割合	人数	割合
自宅（兄弟・子ども・親戚等の家を含む）	31	7.7	5	1.2
住宅型有料老人ホーム	2	0.5	5	1.2
軽費老人ホーム（特定施設除く）	0	0.0	0	0.0
サービス付き高齢者向け住宅（特定施設除く）	2	0.5	1	0.2
グループホーム	2	0.5	2	0.5
特定施設	6	1.5	3	0.7
地域密着型特定施設	0	0.0	0	0.0
介護老人保健施設	12	3.0	0	0.0
療養型・介護医療院	5	1.2	11	2.7
「療養型・介護医療院」を除く病院・診療所（一時的な入院を除く）	33	8.2	15	3.7
特別養護老人ホーム	13	3.2	18	4.5
地域密着型特別養護老人ホーム	0	0.0	0	0.0
その他	34	8.4	0	0.0
行き先を把握していない	69 (17.1)			
死亡（※ 搬送先での死亡を含む）	135 (33.4)			
合計	404 (-)			

問 10 貴施設等の入居・入所者が、退去する理由は何ですか。退去理由として多いものを上位3つまで選んで、該当する口に✓を付けてください。

退去理由は、「医療的ケア・医療処置の必要性の高まり」が87.0%と最も多く、次いで「その他」を除いて、「費用負担が重くなった」が39.1%となっています。



6) 介護人材実態調査結果

【事業所票】

問 1 該当するサービス種別（介護予防を含む。）を、ご回答ください。

問 2-1 介護職員の総数を、ご記入ください。（数値を記入）

回答した事業所のサービス種別は、「通所系」が 16 事業所（29.1%）で最も多く、次いで「施設・居住系」が 13 事業所（23.6%）、「訪問系」が 12 事業所（21.8%）となっています。

回答した事業所の職員総数は 834 人となっており、正規職員が 59.1%、非正規職員が 40.9%となっています。

単位：事業所

サービスの種類	事業所	
	事業所数	割合
施設・居住系	13	23.6
通所系	16	29.1
訪問系	12	21.8
無回答	14	25.5
合計	55	-

単位：人・%

サービスの種類	職員数					
	正規職員		非正規職員		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	155	63.8	88	36.2	243	-
通所系	85	58.2	61	41.8	146	-
訪問系	117	52.7	105	47.3	222	-
無回答	136	61.0	87	39.0	223	-

問 2-2 貴施設等の開設時期について、ご記入ください。（数値を記入）

事業所の開設時期は、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「2010 年から 2019 年」がそれぞれ 8 事業所、9 事業所、7 事業所と最も多くなっています。

単位：事業所

サービスの種類	1999 年以前	2000 年から 2009 年	2010 年から 2019 年	2020 年以降	合計
施設・居住系	1	3	8	1	13
通所系	1	5	9	1	16
訪問系	2	5	7	3	17
無回答	0	1	6	0	7

月別では、施設・居住系では「5月」が3事業所、通所系では「7月」が4事業所、訪問系では「4月」が6事業所と最も多くなっています。

単位：事業所

サービスの種類	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	無回答	合計
施設・居住系	1	0	0	2	3	1	1	0	1	0	1	2	1	13
通所系	0	1	1	2	0	1	4	2	2	1	1	1	0	16
訪問系	0	2	0	6	1	1	2	0	0	2	3	0	0	17
無回答	0	2	0	1	1	1	1	0	1	0	0	0	2	9

問2-3 開設から1年以上を経過している施設等にお伺いします。過去1年間の介護職員の採用者数と離職者数をご記入ください。

問2-4 問2-3の採用者・離職者について、正規・非正規の別・年齢別をご記入ください。
(数値を記入)

介護職員の過去1年間の採用者・離職者の状況では、離職者数より採用者数が多くなっています。

採用者数を年齢別でみると、「40～49歳」及び「50～59歳」が他の年代より多く、離職者数を年齢別でみると、「40～49歳」が多くなっています。

単位：人

項目	採用者数		離職者数		合計	
	正規職員	非正規職員	正規職員	非正規職員	採用者数	離職者数
20歳未満	9	1	1	0	10	1
20～29歳	21	9	16	11	30	27
30～39歳	12	13	12	6	25	18
40～49歳	31	16	18	11	47	29
50～59歳	18	24	12	12	42	24
60～69歳	6	10	6	8	16	14
70～79歳	0	3	0	5	3	5
年齢不明	0	1	0	2	1	2
小計	97	77	65	55	174	120
合計	348		240		+108	

問3 貴施設等に所属している介護職員全員（非常勤含む。ボランティアの方を除く）について、お答えください。

(1) 資格の取得、研修の修了の状況

サービス種別でみると、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「介護福祉士（認定介護福祉士含む。）」がそれぞれ43.8%、54.7%、34.7%と最も多くなっています。

単位：人・%

サービスの種類	介護福祉士 (認定介護福祉士含む。)		介護職員実務者研修修了 または(旧)介護職員基礎研修 修了または(旧)ヘルパー1級		介護職員初任者研修修了、 または(旧)ヘルパー2級		左記のいずれも該当しない		無回答		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	113	43.8	33	12.8	68	26.4	44	17.1	0	0.0	258	-
通所系	75	54.7	7	5.1	22	16.1	28	20.4	5	3.6	137	-
訪問系	43	34.7	14	11.3	31	25.0	4	3.2	32	25.8	124	-

(2) 雇用形態

サービス種別でみると、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「正規職員」がそれぞれ66.7%、55.5%、50.8%と最も多くなっています。

単位：人・%

サービスの種類	正規職員		非正規職員		無回答		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	172	66.7	86	33.3	0	0.0	258	-
通所系	76	55.5	61	44.5	0	0.0	137	-
訪問系	63	50.8	54	43.5	7	5.6	124	-

(3) 性別

サービス種別でみると、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「女性」がそれぞれ76.4%、78.8%、75.0%と最も多くなっています。

単位：人・%

サービスの種類	男性		女性		無回答		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	61	23.6	197	76.4	0	0.0	258	-
通所系	29	21.2	108	78.8	0	0.0	137	-
訪問系	27	21.8	93	75.0	4	3.2	124	-

(4) 年齢

サービス種別でみると、施設・居住系では、「30歳代」が26.0%と最も多くなっており、通所系では、「40歳代」が35.0%と最も多くなっています。また、訪問系では、「50歳代」が26.6%と最も多くなっています。

単位：人・%

サービスの種類	20歳未満		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	5	1.9	30	11.6	67	26.0	52	20.2	56	21.7
通所系	2	1.5	4	2.9	27	19.7	48	35.0	34	24.8
訪問系	1	0.8	11	8.9	14	11.3	32	25.8	33	26.6

単位：人・%

サービスの種類	60歳代		70歳以上		不明		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	39	15.1	9	3.5	0	0.0	258	-
通所系	19	13.9	3	2.2	0	0.0	137	-
訪問系	21	16.9	9	7.3	3	2.4	124	-

(5) 過去1週間の勤務時間

サービス種別でみると、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「40時間以上」がそれぞれ48.4%、41.6%、47.6%と最も多くなっています。

単位：人・%

サービスの種類	10時間未満		10時間以上 20時間未満		20時間以上 30時間未満		30時間以上 40時間未満		40時間以上		無回答		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	19	7.4	21	8.1	22	8.5	71	27.5	125	48.4	0	0.0	258	-
通所系	9	6.6	30	21.9	27	19.7	14	10.2	57	41.6	0	0.0	137	-
訪問系	24	19.4	26	21.0	2	1.6	10	8.1	59	47.6	3	2.4	124	-

(6) 現在の施設等での勤務年数

サービス種別でみると、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「1年以上」がそれぞれ79.8%、84.7%、69.4%、と最も多くなっています。

単位：人・%

サービスの種類	1年以上		1年未満		無回答		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	206	79.8	52	20.2	0	0.0	258	-
通所系	116	84.7	16	11.7	5	3.6	137	-
訪問系	86	69.4	28	22.6	10	8.1	124	-

(7) 現在の施設等に勤務する直前の職場※地域密着型を含む

サービス種別でみると、施設・居住系では、「特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設」が42.3%と最も多くなっており、通所系では、「通所介護、通所リハ、認知症デイ」が31.3%と最も多くなっています。また、訪問系では、「介護以外の職場」が28.6%と最も多くなっています。

単位：人・%

サービスの種類	現在の職場が初めての勤務先		介護以外の職場		特養、老健、療養型・介護医療院、ショートステイ、グループホーム、特定施設	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	4	7.7	10	19.2	22	42.3
通所系	4	25.0	4	25.0	1	6.3
訪問系	2	7.1	8	28.6	6	21.4

単位：人・%

サービスの種類	訪問介護・入浴、夜間対応型		小多機、看多機、定期巡回サービス		通所介護、通所リハ、認知症デイ	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	2	3.8	0	0.0	4	7.7
通所系	1	6.3	0	0.0	5	31.3
訪問系	4	14.3	0	0.0	3	10.7

単位：人・%

サービスの種類	住宅型有料、サ高住（特定施設以外）		その他の介護サービス		無回答		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	6	11.5	4	7.7	0	0.0	52	-
通所系	1	6.3	0	0.0	0	0.0	16	-
訪問系	2	7.1	3	10.7	0	0.0	28	-

(8) 直前の職場（場所・法人）について

直前の職場の場所をサービス種別でみると、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「現在の施設等と、別の市区町村内」がそれぞれ81.6%、62.5%、77.8%と最も多くなっています。

直前の職場の法人をサービス種別でみると、施設・居住系、通所系、訪問系ともに「現在の施設等と、別の法人・グループ」がそれぞれ97.4%、75.0%、83.3%と最も多くなっています。

単位:人・%

サービスの種類 (場所)	現在の施設等と、 同一の市区町村内		現在の施設等と、 別の市区町村内		無回答		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	7	18.4	31	81.6	0	0.0	38	-
通所系	3	37.5	5	62.5	0	0.0	8	-
訪問系	4	22.2	14	77.8	0	0.0	18	-

単位:人・%

サービスの種類 (法人)	現在の施設等と、 同一の法人・グループ		現在の施設等と、 別の法人・グループ		無回答		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
施設・居住系	1	2.6	37	97.4	0	0.0	38	-
通所系	2	25.0	6	75.0	0	0.0	8	-
訪問系	3	16.7	15	83.3	0	0.0	18	-

【訪問系職員票】

介護給付による訪問について

過去一週間の勤務時間（介護給付による訪問）において、身体介護・生活援助を提供した時間（分）の各曜日の平均の合計は、「身体介護」が 408.4 分と最も多くなっています。

単位：分

曜日	身体介護	生活援助		
		買い物	調理・配膳	その他の生活援助
月	71.3	2.7	5.7	10.6
火	68.8	4.4	4.5	9.9
水	63.0	3.1	4.5	7.3
木	57.1	4.5	5.6	7.5
金	77.0	3.3	6.2	11.6
土	42.8	1.0	1.9	7.2
日	28.4	1.0	1.4	2.5
週の合計	408.4	20.0	29.8	56.6

介護予防給付・総合事業による訪問について

過去一週間の勤務時間（介護予防給付・総合事業）において、身体介護・生活援助を提供した時間（分）の各曜日の平均の合計は、「その他の生活援助」が 19.0 分と最も多くなっています。

単位：分

曜日	身体介護	生活援助		
		買い物	調理・配膳	その他の生活援助
月	0.0	0.7	0.7	2.5
火	0.0	2.4	0.0	3.8
水	0.4	1.3	0.4	1.7
木	0.0	0.7	0.4	5.9
金	0.4	0.9	0.0	4.6
土	0.0	0.0	0.0	0.5
日	0.0	0.0	0.0	0.0
週の合計	0.8	6.0	1.5	19.0

第3章 調査結果を踏まえた課題の分析

1) 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果概要

(1) 生活の状況について

リスク判定（※判定基準については、次ページ以降に記載）では、各項目内で点数等を設定し、一定の基準を上回った場合等にリスクの有無を算出しています。

以下は、各リスクに該当する割合を示しています。

「咀嚼機能」や「認知」のリスクが第8期調査時よりも高まっていることから今後注意が必要です。

自身の健康状態については約8割の方が「よい」と回答しており、幸福度については健康状態で「よい」と回答した方の約5割が10点満点中8点以上と回答しています。また要支援の有無でみると、非認定者の幸福度については約5割の方が10点満点中8点以上と回答しています。このことから健康状態が良好な方のほうが、幸福度が高くなる傾向にあるといえます。

現在の生活について、全体の約3割が経済的に苦しいと感じています。とくに1人暮らしの高齢者は他の世帯よりも経済的に苦しい状況となっており、その割合は第8期調査時と比較しても増加しています。

また、日常生活での困りごとで「日常の力仕事（家具の移動など）」「外出の際の移動手段」「掃除・洗濯・衣類の整理・食事の準備」と回答している要支援者の割合が一般高齢者と比べて多くなっており、とくに要支援者に対する日常的な支援の在り方について検討していく必要があります。

図表 1-1 機能別リスク該当者割合

単位：%

リスク項目	8期 (%)	9期 (%)
①運動器	-	11.7
②転倒	27.4	26.1
③閉じこもり	14.3	12.1
④低栄養	-	8.1
⑤咀嚼機能	26.1	28.5
⑥認知	36.7	39.6
⑦うつ	-	35.3

図表 1-2 日常生活におけるリスク該当者割合

単位：％

リスク項目	8期（％）	9期（％）
⑧手段的自立（IADL）	-	13.0

※手段的自立（IADL）は、買物や料理のように複雑な日常動作を意味している。

①運動器

【判定基準：以下の5項目のうち3項目以上に該当する人を運動器のリスク該当者と判定】

番号	設問	該当する選択肢
問2（1）	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。	3. できない
問2（2）	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか。	3. できない
問2（3）	15分位続けて歩いていますか。	3. できない
問2（4）	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある
問2（5）	転倒に対する不安は大きいですか。	1. とても不安である 2. やや不安である

②転倒

【判定基準：以下の項目に該当する人を転倒のリスク該当者と判定】

番号	設問	該当する選択肢
問2（4）	過去1年間に転んだ経験がありますか。	1. 何度もある 2. 1度ある

③閉じこもり

【判定基準：以下の項目に該当する人を閉じこもりのリスク該当者と判定】

番号	設問	該当する選択肢
問2（6）	週に1回以上は外出していますか。	1. ほとんど外出しない 2. 週1回

④低栄養

【判定基準：以下の項目に該当する人を低栄養リスクの該当者と判定】

番号	設問	該当する選択肢
問3（1）	現在のあなたの身長・体重を教えてください。	BMI 18.5未満

⑤咀嚼機能

【判定基準：以下の項目に該当する人を咀嚼機能のリスク該当者と判定】

番号	設問	該当する選択肢
問3（2）	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか。	1. はい

⑥認知

【判定基準：以下の項目に該当する人を認知のリスク該当者と判定】

番号	設問	該当する選択肢
問4（1）	物忘れが多いと感じますか。	1. はい

⑦うつ

【判定基準：以下の2項目のうち1項目以上に該当する人をうつリスク該当者と判定】

番号	設問	該当する選択肢
問8(3)	この1か月間、気分が沈んだり、ゆううつな気持ちになったりすることがありましたか。	1. はい
問8(4)	この1か月間、どうしても物事に対して興味がわかない、あるいは心から楽しめない感じがよくありましたか。	1. はい

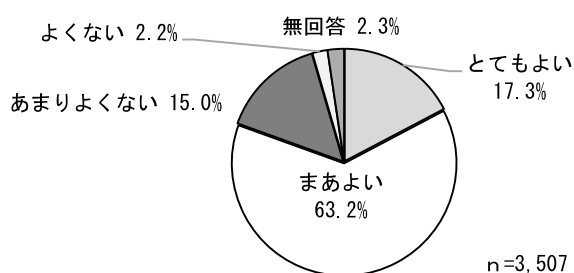
⑧手段的自立 (IADL)

【判定基準：以下の設問において「1」又は「2」を回答した場合を1点として5点満点で評価】

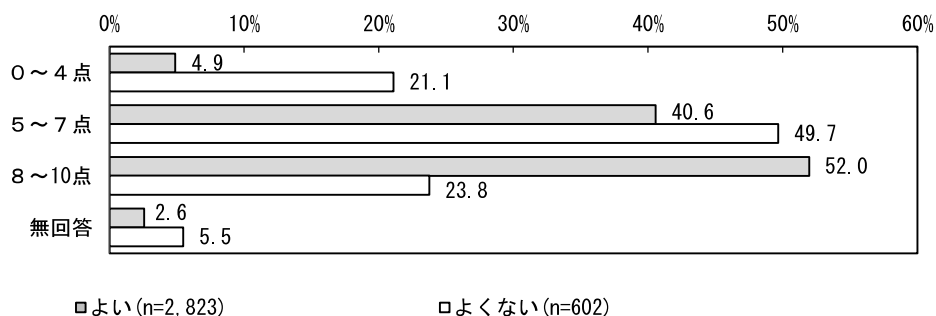
番号	設問	該当する選択肢
問4(2)	バスや電車を使って1人で外出していますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点
問4(3)	自分で食品・日用品の買物をしていますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点
問4(4)	自分で食事の用意をしていますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点
問4(5)	自分で請求書の支払いをしていますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点
問4(6)	自分で預貯金の出し入れをしていますか。	1. できるし、している : 1点 2. できるけどしていない : 1点

※5点を「高い」、4点を「やや低い」、3点以下を「低い」と評価し、4点以下を手段的自立 (IADL) の低下者と評価 (老研式活動能力指標)

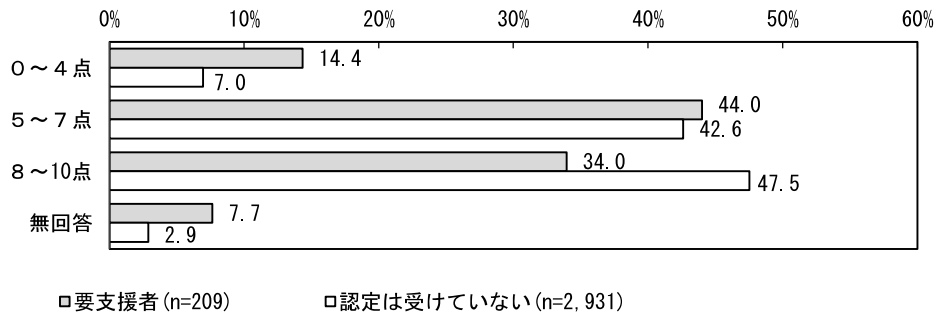
図表 1-1 健康状態について (問8(1))



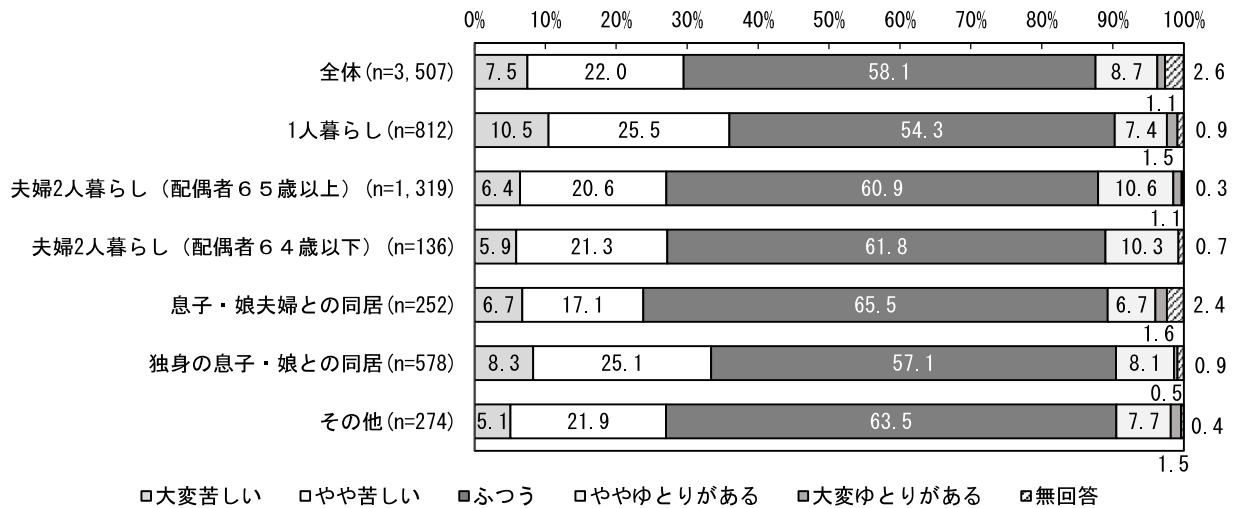
図表 1-2 幸福度について (問8(2) 健康状態別)



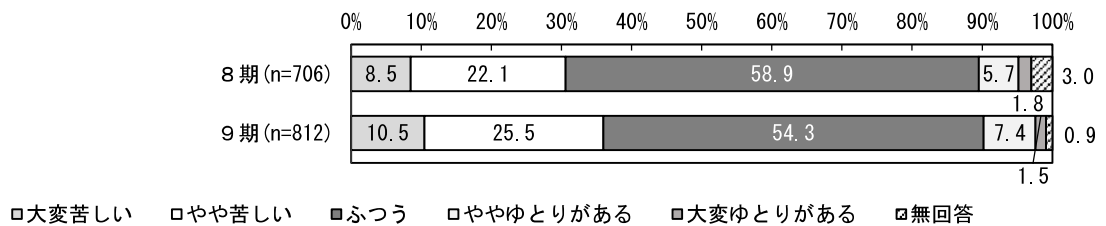
図表 1-3 幸福度について（問 8（2）認定別）



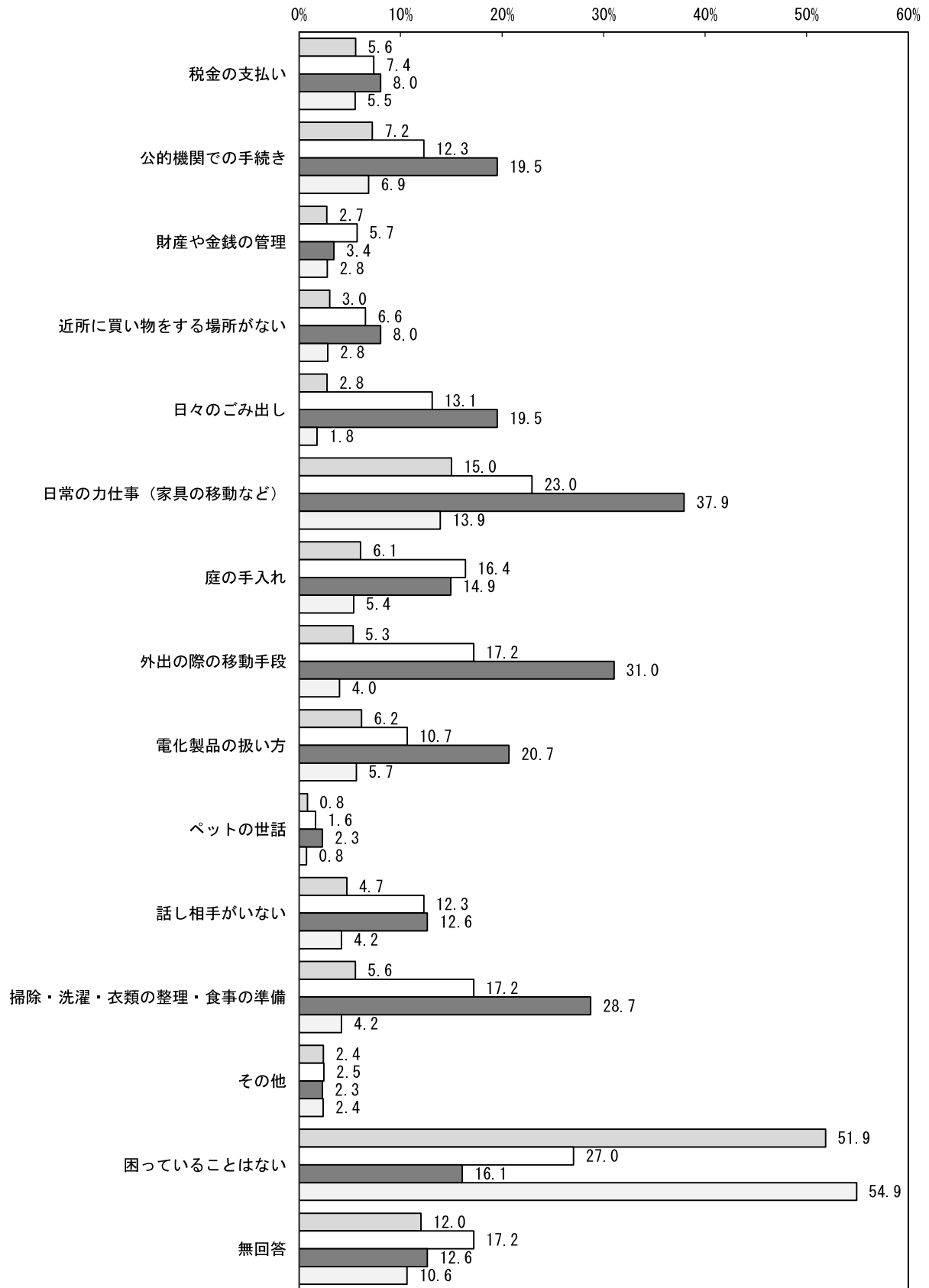
図表 1-4 経済状況について（問 1（7）世帯別）



図表 1-5 経済状況について（問 1（7）1人暮らしの経年）



図表 1-6 日常生活で困っていること（問4（8）要支援別）



□全体 (n=3,507) □要支援1 (n=122) ■要支援2 (n=87) □一般高齢者 (n=2,931)

(2) 介護・介助について

年齢が上がるにつれて、介護・介助の必要性が増加しています。また90歳以上を除いては、転倒に対する不安も年齢上昇とともに増加しています。また介護が必要になった原因としては「高齢による衰弱」が最も多くあげられています。また介護者の不安として、自身の健康状態が悪化したときの手助けをしてもらえないことが懸念されており、介護を受ける方のみならず介護者への支援体制についても検討が必要です。

さらに自分が介護を受けることになった場合、「現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい」と回答した人の割合が第8期調査時よりも増加していることから、在宅サービスの充実化についての検討も必要です。

とくに在宅サービスのニーズとして、「症状が悪化したときにいつでも入院できる医療体制の整備」や「家族の負担を軽減するためのデイサービスやショートステイ」などの強化があげられています。

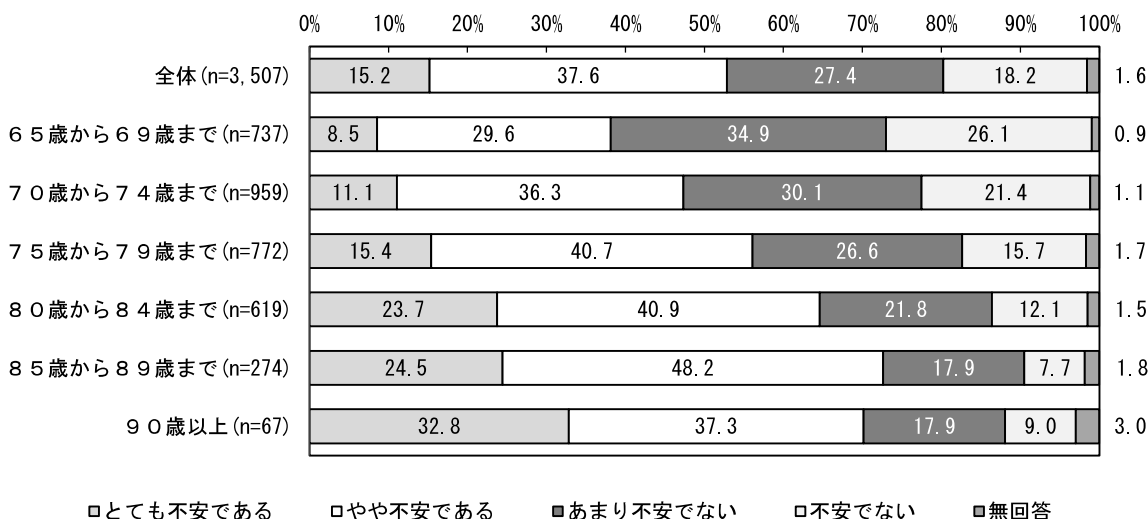
図表2-1 介護・介助の状況（問1（6）年齢別）



- 介護・介助は必要ない
- 何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない
- 現在、何らかの介護を受けている（※）
- 無回答

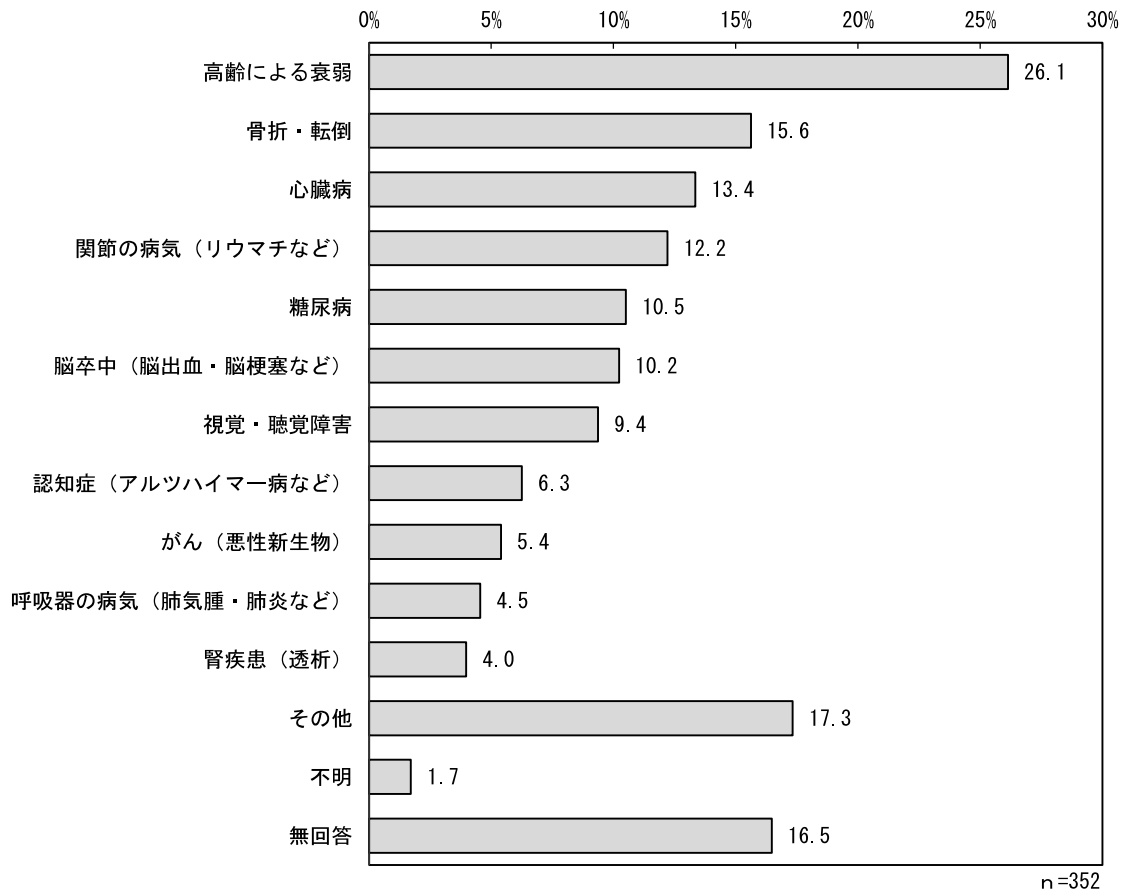
※現在、何らかの介護を受けている（介護認定を受けずに家族などの介護を受けている場合も含む）

図表2-2 転倒への不安（問2（5）年齢別）

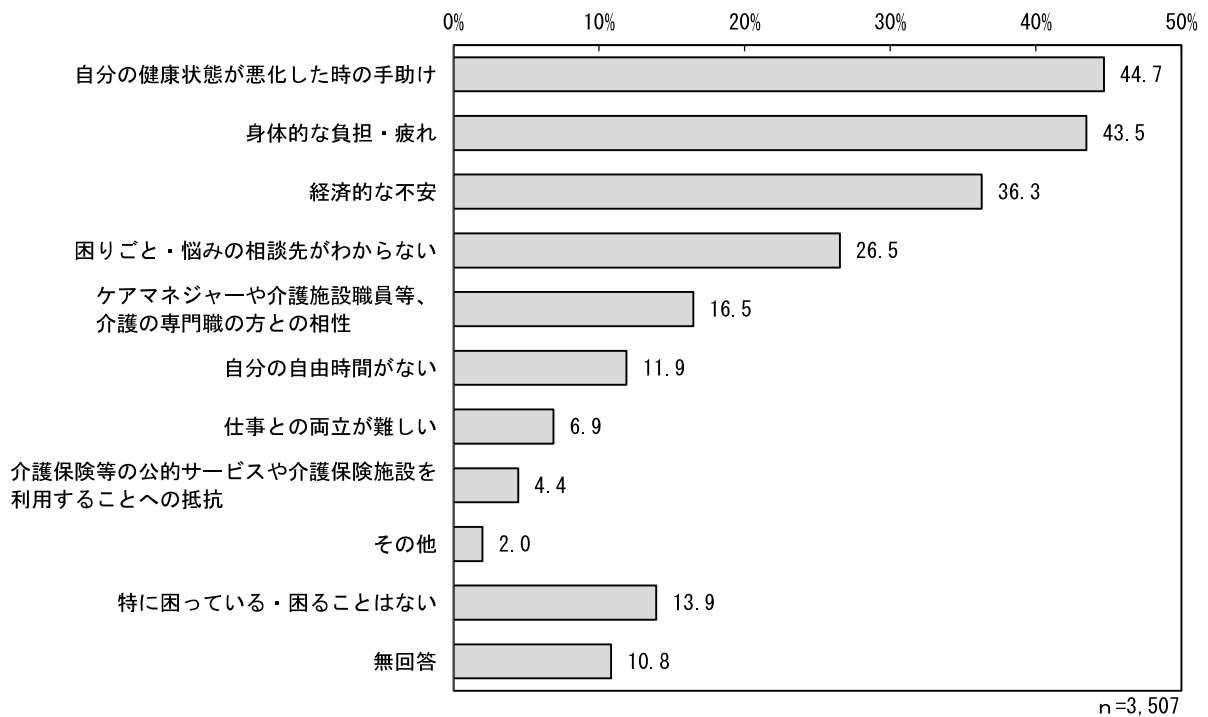


- とても不安である
- やや不安である
- あまり不安でない
- 不安でない
- 無回答

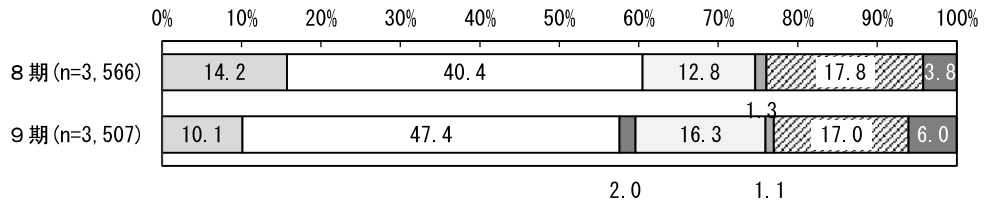
図表 2-3 介護・介助の原因（問 1（6）①）



図表 2-4 介護をしている（将来する）についての困りごと（問 10（1））

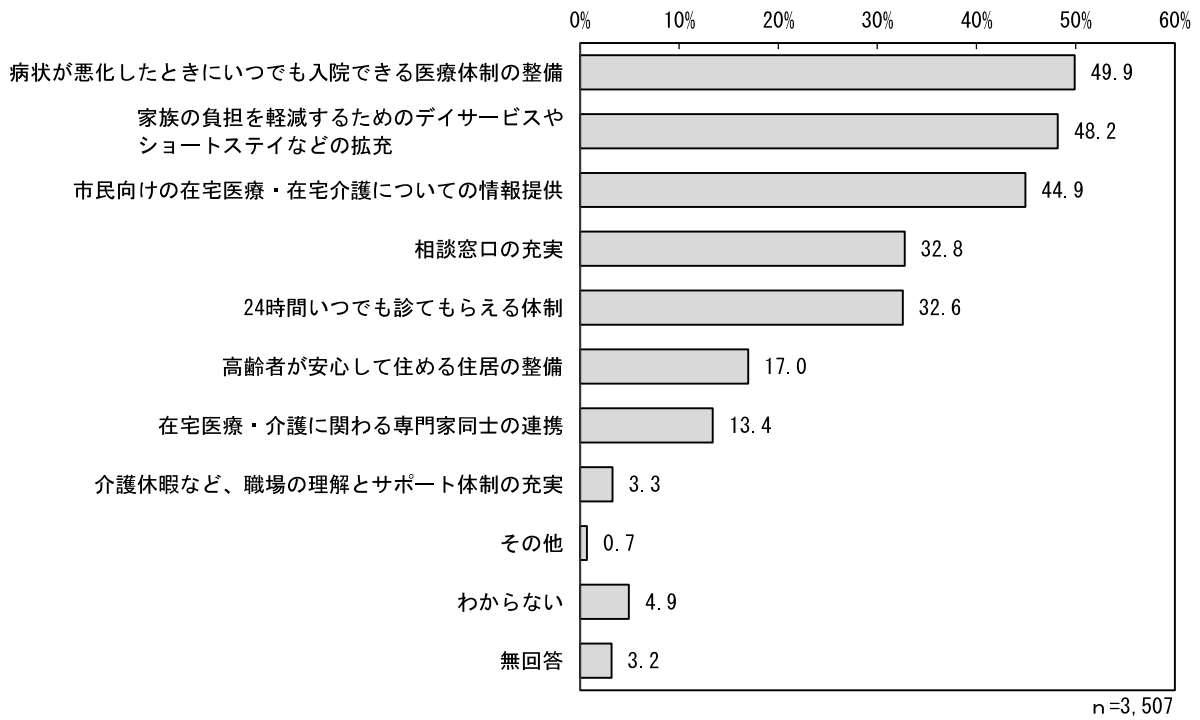


図表 2-5 介護生活の希望（問 1（9））



- 現在の住まいで、介護保険等の公的サービスを利用せずに、家族の介護を中心に受けながら生活したい
- 現在の住まいで、介護保険等の公的サービスの利用を中心に生活したい
- 現在の住まいで、公的サービス以外のボランティア等の支援を受けて生活したい
- 特別養護老人ホームや有料老人ホーム等の施設に入所して生活したい
- その他
- わからない
- 無回答

図表 2-6 在宅介護のために必要とされていること（問 8（9）①）



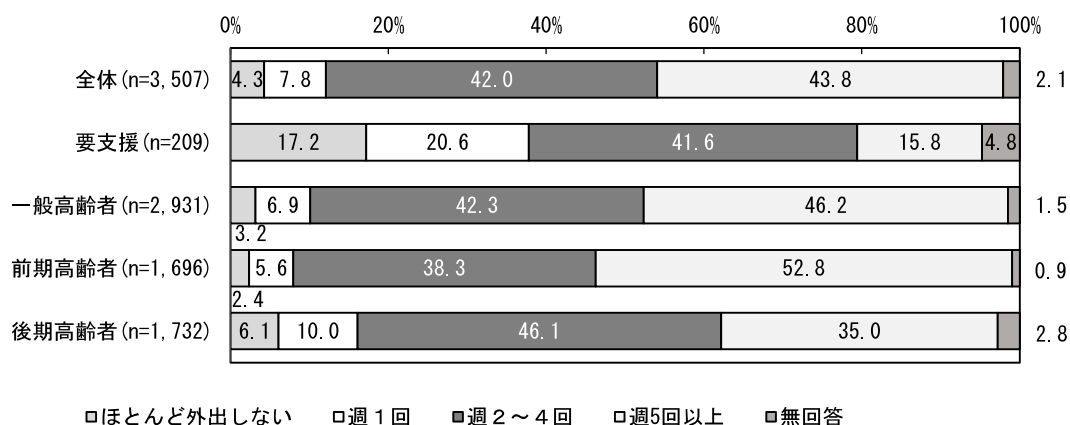
(3) 外出について

外出頻度について、要支援者では一般高齢者よりも外出が週1回以下である方の割合が多くなっています。また年齢が上がるにつれて、外出が週1回以下である方の割合が増えていることから、高齢者の閉じこもりが懸念されます。

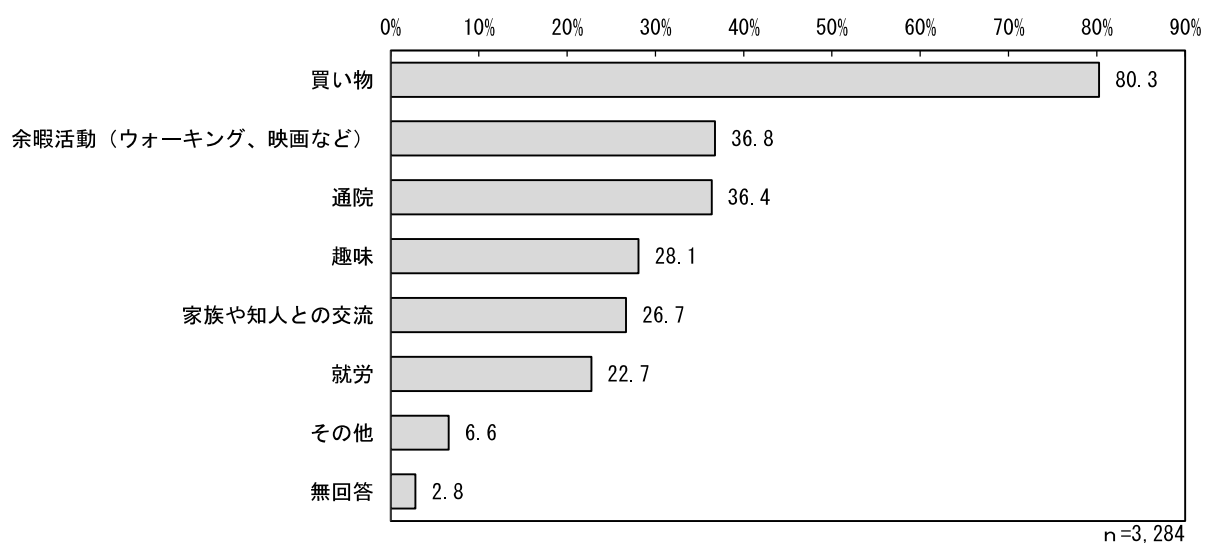
主な外出目的としては、約8割の方が買い物あげています。また外出頻度が減少している要因として、「体力の低下」や「足腰などの痛み」が多くあげられていることから、体力づくりやリハビリ事業の展開についての検討が必要です。

また徒歩での移動が多い一方で、外出支援について「電車・バスの運賃助成」が多く求められています。

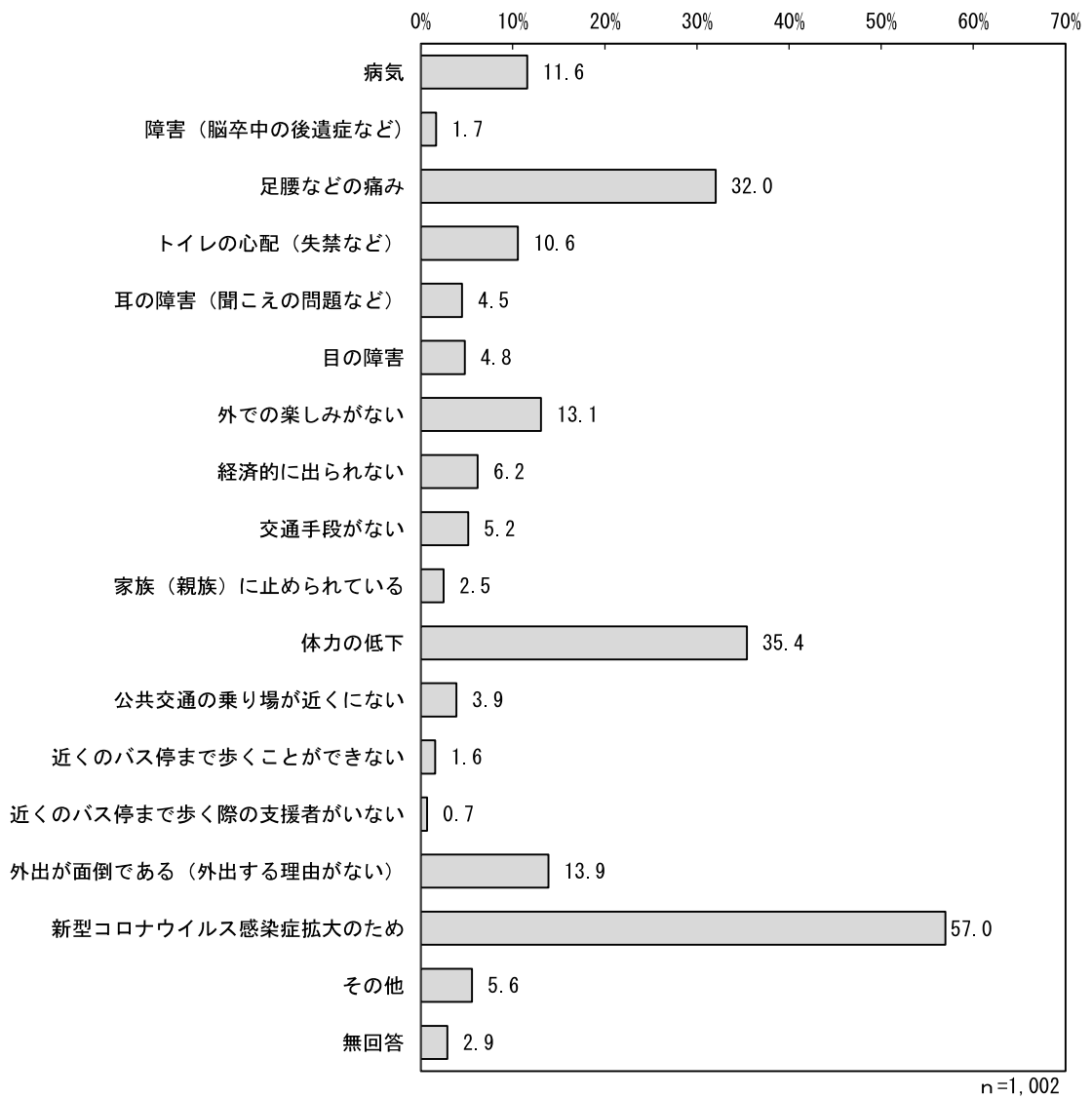
図表 3-1 外出頻度について (問 2 (6))



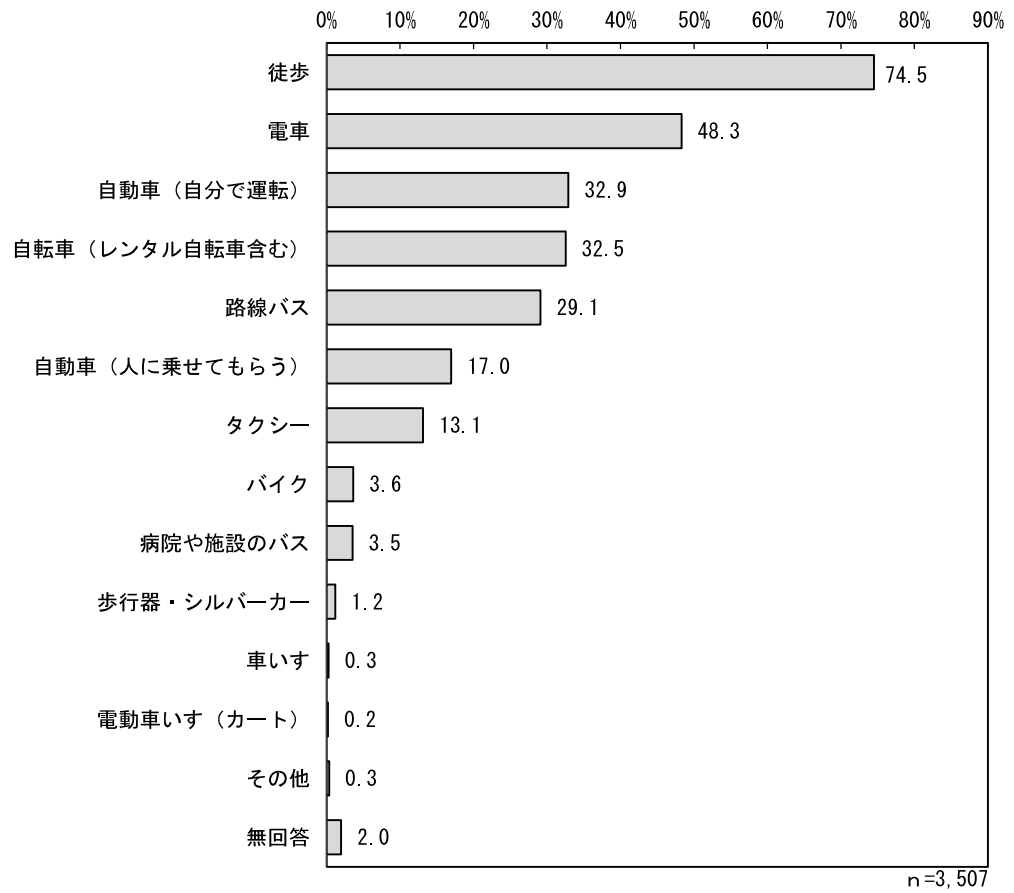
図表 3-2 外出の目的について (問 2 (6) ①)



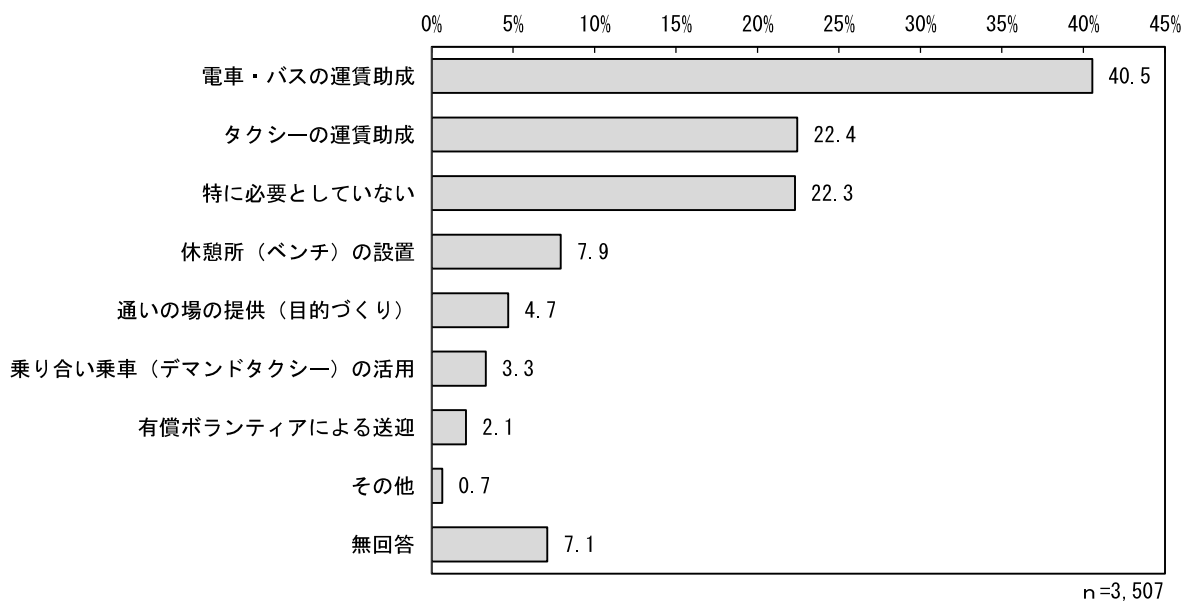
図表 3-3 外出が減っている理由について（問 2（7）①）



図表 3-4 移動手段について（問 2（8））



図表 3-5 望まれている外出支援について（問 2（9））



(4) 地域活動について

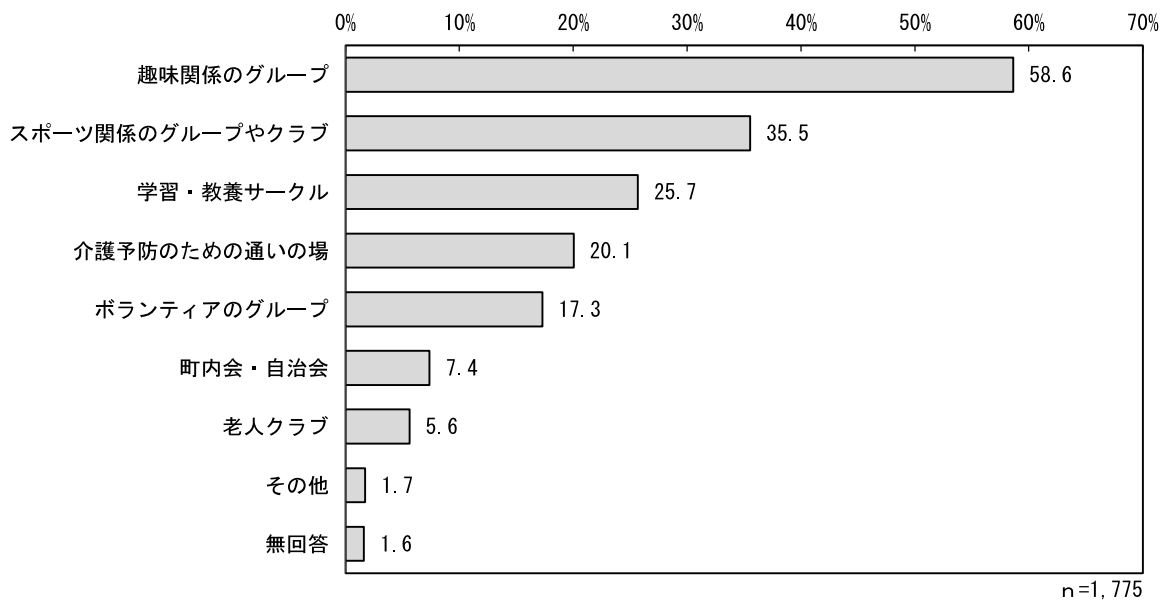
以下では各地域活動に参加している方たちの割合を示しています。第8期調査時と比べて就労参加をしている人が大きく増えている一方で、「介護予防のための通いの場」及び「町内会・自治会」を除いた各活動への参加率は減少しています。しかしながら趣味関係のグループ活動についてニーズがあることから、活動の拡充につながる支援等が必要です。

図表 4-1 各地域活動の参加率 (問6 (2))

単位：%

地域活動	7期 (n=2,536)	8期 (n=3,566)	9期 (n=3,507)
①ボランティアのグループ	9.8	6.8	5.3
②スポーツ関係のグループやクラブ	23.2	20.9	19.5
③趣味関係のグループ	28.1	26.4	24.1
④学習・教養サークル	8.6	6.4	6.3
⑤介護予防のための通いの場	-	3.0	3.2
⑥老人クラブ	5.6	3.5	3.2
⑦町内会・自治会	15.2	10.8	12.2
⑧収入のある仕事	18.8	17.8	24.6

図表 4-2 今後参加したい地域活動 (問6 (3) ①)

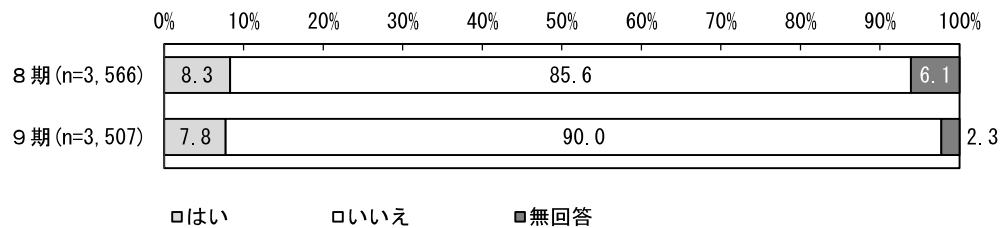


(5) 認知症について

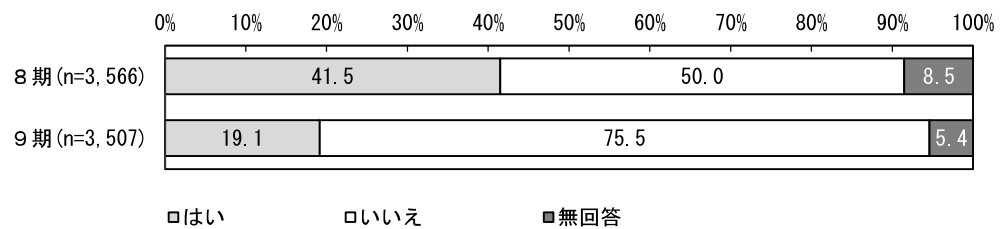
リスク判定において、第8期調査時よりも、認知機能のリスクが高い人が増えていることから、認知症がより身近な問題となっています。一方で、認知症相談窓口の認知度は第8期調査時より低くなっています。

認知症対策として相談機関の充実が求められているものの、認知症相談窓口の認知度が2割未満であり、市の認知症対策が全般的に知られていないことから、これらの周知に力を入れることが重要です。

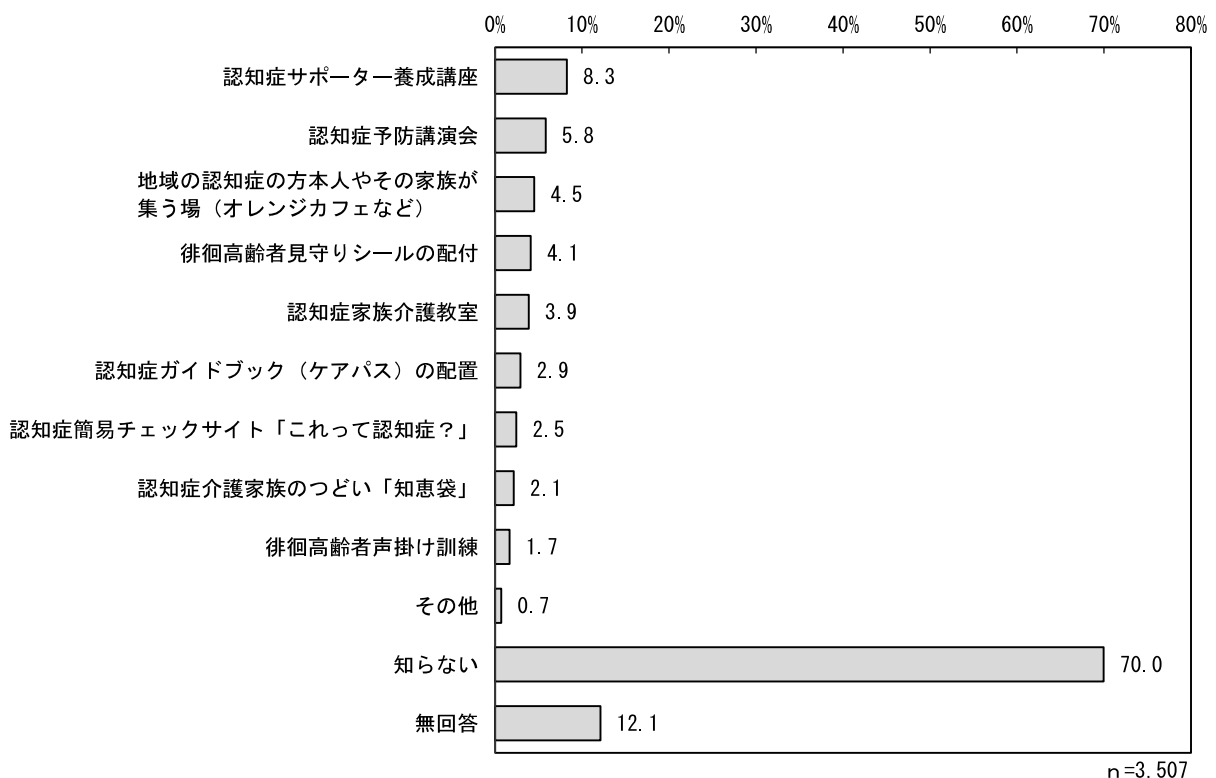
図表 5-1 自分または家族の認知症状の有無（問9（1）経年）



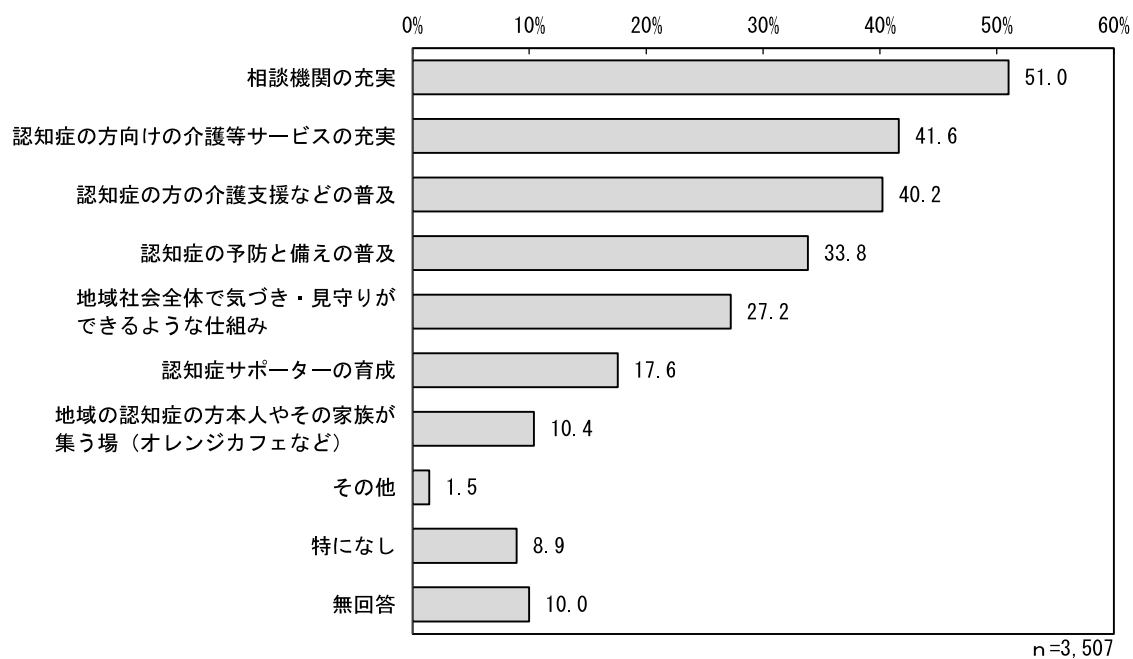
図表 5-2 認知症相談窓口の認知（問9（2）経年）



図表 5-3 市の認知症対策の認知（問9（3））



図表5-4 必要とされる認知症対策（問9（4））

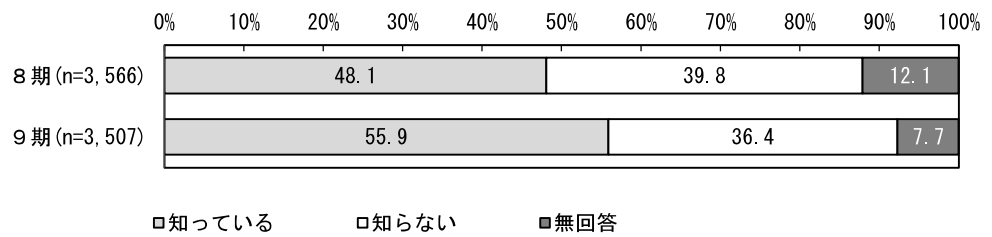


(6) その他

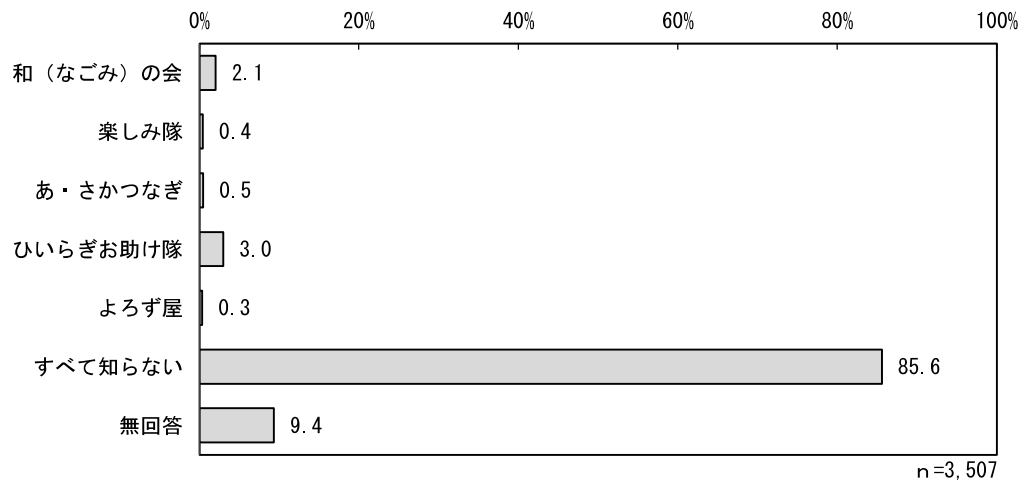
地域包括支援センターの認知度は、第8期調査時よりも増加しています。一方で協議体の認知度は、全て1割未満となっており、周知の強化が必要です。

高齢者支援では、介護予防や寝たきり予防のための支援ニーズが高くなっていることから、気軽に参加しやすい介護予防教室等の充実が必要です。

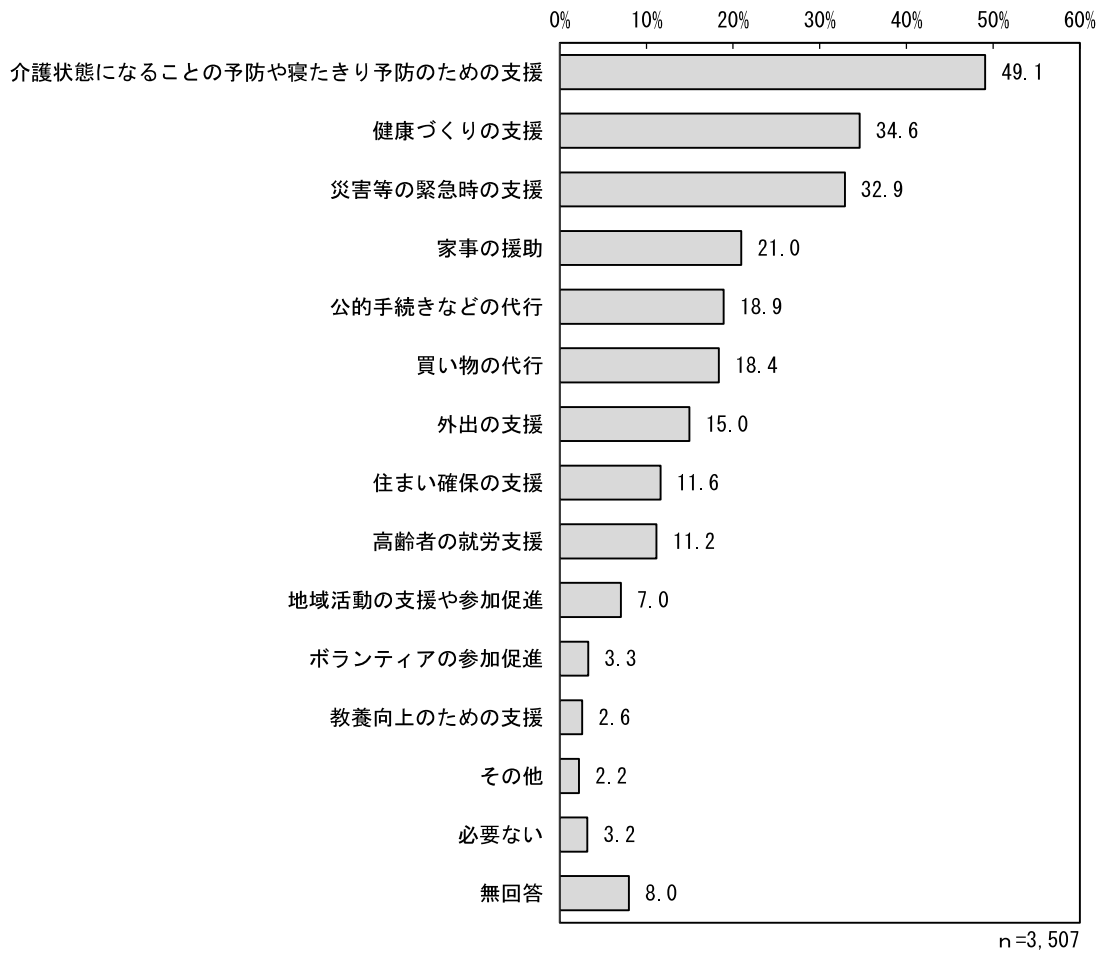
図表 6-1 地域包括支援センターの認知（問 12（1）経年）



図表 6-2 協議体への認知（問 13（1））



図表 6-3 高齢者支援（問 13（2））



2) 在宅介護実態調査結果概要

(1) 在宅介護の状況、必要と感じるサービス内容について

世帯別にみると、単身世帯の介護状況として、要介護3から5の割合が少なく、介護頻度については「ない」が多くなっていることがあげられます。またその他の世帯では、ほぼ毎日介護を受けている方が約7割います。

要介護度別にみると、要介護度が高くなるにつれて介護の頻度も増加していることから、介護の頻度を減らすためには要介護度のレベルを上げない取組が必要となります。また要介護度が上がるにつれて、訪問診療の利用率が上昇していることから、介護度に応じたサービスの安定した供給が必要となります。

家事に関連する介護は、現在約8割の介護者が行っています。しかし、今後の在宅生活において必要と感じる支援・サービスにおいては、家事が全般的に少ないことから、現在のサービス供給がニーズに見合っていることがうかがえます。

また外出に係る介護は現在多く行われている一方で、今後の在宅介護の継続にも必要であると考えられており、介護者が不安に感じているものでもあることから、持続的な支援体制の強化が必要となります。

さらに、介護者が不安に感じているものについては、認知症状への対応が多くあげられており、今後ますます認知症対策を推進していくことが重要となります。

図表 1-1 世帯類型 (A票問1 要介護度)

